松山大学論集・第二十六巻二―六号抜刷（合綴版）
平成二十六年六月―平成二十七年二月発行

『外交時報』総目次――戦後編㈠～㈤

――一九五二年一一月第九五〇号a～一九九八年九月第一三五一号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

資料

『外交時報』総目次－戦後編㈠

――一九五二年一一月第九五〇号～一九六一年一二月第九九三号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

本目録編纂の経緯

本目録の編者の一人（伊藤）は、かつて『外交時報総目次・執筆者索引－戦前編』を編纂し、二〇〇八年に日本図書センターより公刊した。これは外交時報社が戦前に発行した『外交時報』の、創刊号（一八九八年二月）から第九五六号（一九四五年四月）までに掲載された、すべての論文と記事を採録の対象とし、解題と執筆者索引を付したものである。同書が出版されたのち、引続き「戦後編」を要望する声も聞かれたが、諸般の事情により着手するに至らなかった。

一方、もう一人の編者である浜岡鷹行（筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了）は、独自に「戦後編」

の編纂作業を進めており、二〇〇九年九月までに、過半の書誌データの蒐集と入力を完了していた。

二〇一一年五月、両者は学外の研究会を介して相知るに至り、以後協力して「戦後編」の編纂と発表の準備を進めることになった。具体的には浜岡がデータの入力と確認を、伊藤が校訂と整形を主に担当し、二〇一四年五月には、およそ三千八百件の論文・記事情報からなる本目録を完成させるに至った。

凡　例

一、本目録は、外交時報社発行『外交時報』一九五二年一一月第九五〇号～一九九八年九月第一三五一号に掲載された論文および記事の総目次である。今後、五回に分けて『松山大学論集』に掲載する予定である。

一、目次は論題名〔執筆者名〕、開始－終了ページの順とした。各号における論文や記事の排列は、掲載順（ページ順）を原則とした。

一、論題は原則として本文に従った（明かな誤植は修正した）。また採録に際しては、なるべく詳細に記載するよう努めた。

一、広告や予告、あきらかに埋草であって題名のないもの等については、編者の判断により省略した。とくに社告と編集後記の類は、原則としてすべて省いた（この点は「戦前編」と異る）。

一、本文に執筆者名が記されていない論説等に関しても、目次などから著者名が確認できるものについては、執筆者名を付け加えた。

一、第九五〇号～第九五六号については、戦中期に刊行されたものと（号数が）重複するため、「第九五〇号a」等として採録した。重複が生じた理由は詳かでない。また第九五三号については、一九四五年に発行されたもののほか、一九五三年に刊行されたもの、一九五八年に刊行されたものの、合計三種類が存在する。本目録に採録したのは、戦後に刊行された後二者で、それぞれ「第九五三号a」「同b」として区別した。なお第九五三号aについては、国立国会図書館や早稲田大学中央図書館にも収蔵されておらず、編者らが所蔵を確認できたのは、慶應義塾大学図書館（三田メディアセンター）のみである。

一、戦後期の『外交時報』は、二度の休刊を挟んで三期（一九五二～五三年、一九五八～八六年、一九八七～九八年）に大別される。それぞれの休刊の事情や、各期の誌面の特徴などについては、今後の研究に委ねたい。

総　目　録

第九五〇号a　一九五二年一一月号

復刊の辞〔武内文彬〕　二－一〇
国連軍の性格と国連軍協定〔神川彦松〕　一一－二四
日本駐留軍の裁判管轄権問題－中国の治外法権の轍を踏むな〔植田捷雄〕　二五－三四
国際決済方式確立の必要と日本の責重な体験〔木内信胤〕　三五－四一
国際連合と日本〔横田喜三郎〕　四二－五〇

国際随想　めくら外交〔堀内謙介〕　五一－五二
国際随想　研究機関〔大蔵公望〕　五二－五三
国際随想　中共結成以前〔本郷賀一〕　五四－五五
国際随想　賭には勝つたけれど〔田尻愛義〕　五五－五六
国際随想　平和を恐れる心〔森恭三〕　五六－五七
ソ連・中国・朝鮮を衝く
ソ連世界政策の現段階－中ソ会談と第一九回党大会〔新関欽哉〕　五八－六四
中ソ会談の内容〔市川利次〕　六五－七一
朝鮮事変をめぐる心理戦争〔好本康雄〕　七二－八〇
新中国の実体－北京政府の三ヶ年〔宮崎世竜〕　八一－九二
座談会　これからの外交はどうあるべきか－本社主催　外交界長老座談会
〔有田八郎・天羽英二・沢田廉三・田中都吉・田村幸策・野村吉三郎・堀内謙介〕　九二－一〇五
資料　降伏・独立・国交回復条約集（上）〔外務省訳〕　一〇六－一二四
記者の眼　外交うら話　その都度外交あれこれ　一二五－一二六

第九五一号a　一九五二年一二月号

巻頭言　新内閣と外交立国　一－一
国際連合の在り方をめぐつて〔田畑茂二郎〕　二－一六
「冷たい戦争」は何処へ行く〔高田市太郎〕　一七－二四

日本の再軍備を世界はどう観る〔岡田任雄〕　二五－三四
ネール外交の真髄を衝く－実に東西両陣営不可欠のカケ橋〔蔵居良造〕　三五－四〇
国際随想　国会猛省の秋〔佐藤尚武〕　四一－四二
国際随想　終戦の御放送は録音でない〔湯沢三千男〕　四二－四四
国際随想　熱い国の冷めたい戦〔下田将美〕　四四－四五
国際随想　外交ということ〔山本熊一〕　四五－四七
国際随想　十三の被害者〔武内文彬〕　四七－四七
アメリカ合衆国共産党々史〔ニコラス・ローズベルト〕　四八－五五
ア米新大統領の外交政策は？〔A・T・ストルーマン〕　五六－五九
三十四代の米大統領　アイクの横顔　六〇－六〇
独立日本の国際的進路〔蠟山政道〕　六一－七二
国連軍の覚書と日本の対策－刑事裁判権の取扱い　七三－七六
国際綿業会談の成果と世界綿業の全貌〔田和安夫〕　七七－八九
東西南北〔市川利次〕　九〇－九九
語学の天才　ケナン大使　一〇〇－一〇〇
日本硫安工業の恩人ポープ氏－技術導入秘話〔土井正治〕　一〇一－一〇二
資料　降伏・独立・国交回復条約集（下）〔外務省訳〕　一〇三－一二四
記者の眼　岡崎外政の苦悩　一二五－一二六

第九五二号ａ　一九五三年一月号

巻頭言「田舎者外交」の超克　一－一
新共和党政権の対外政策とその批判〔神川彦松〕　二－一五
我が経済外交の新段階〔綿野收三〕　一六－二二
一九五三年の外交問題－原爆時代より水素爆弾時代へ　ＮＨＫ解説委員総動員執筆　二三－二三
一九五三年のアメリカ外交の課題〔平沢和重〕　二四－二六
ソヴィエト外交の展望〔前田義徳〕　二六－二八
本年初頭のイギリスの外交〔小川和夫〕　二九－三〇
日本の外交課題〔館野守男〕　三一－三三
フランスの直面する外交問題〔平野俊助〕　三三－三五
西ドイツの二大外交課題〔櫛部和夫〕　三五－三七
インド・東南ア・中近東の風雲〔佐々木凜一〕　三七－四〇
中国の外交課題〔小秋元隆一〕　四〇－四二
解決を迫られる賠償問題〔齋藤栄三郎〕　四三－四四
原爆時代より水爆時代へ〔繁田健太郎〕　四五－四七
第三次戦は必至か？　戦略的に見た米ソ戦－危機線上にある日本の地位〔土居明夫〕　四八－七三
外資導入の現況と問題点〔織田定信〕　七四－八三
一九五三年の世界経済　ＮＨＫ解説委員総動員執筆　八四－八四
アメリカ経済展開の方向〔齋藤栄三郎〕　八五－八七

ソ連経済の動向〔佐久間光彦〕　八七―九〇
複雑微妙なるヨーロッパ経済〔藤瀬五郎〕　九〇―九二
東南アジア開発問題〔鈴木明〕　九二―九四
世界経済に於ける日本〔藤瀬五郎〕　九四―九六
外資導入の現状と将来〔齋藤栄三郎〕　九六―九八
我が国の国際収支〔繁田健太郎〕　九八―一〇〇
中共貿易〔鈴木明〕　一〇〇―一〇二
国際随想　共貧圏の哲学〔加納久朗〕　一〇三―一〇五
国際随想　ユニティとダイヴァンティ〔須磨弥吉郎〕　一〇五―一〇六
国際随想　自由の国に「愛の不自由」〔磯部佑一郎〕　一〇六―一〇七
国際随想　党人往来〔宮川三郎〕　一〇七―一〇九
国際経済展望　一一〇―一一九
資料　日本の貿易関係条約集〔外務省訳〕　一二〇―一二〇
日本・インドネシア間貿易取極　一二〇―一二三
日本・タイ間貿易取極　一二四―一二八
日本・セイロン間貿易取極　一二八―一三一
日本・ブラジル間支払取極　一三一―一三三
附録（一）　一九五一年相互防衛援助統制法（バトル法）　一三三―一三六
（二）　バトル法付属品目表　一三六―一四〇

記者の眼　外交あれこれ　一四一－一四二

第九五三号ａ　一九五三年四月号

問題のヤルタ秘密協定－外交の舞台裏〔金生喜造〕　二－一八
米新外交政策の展望－波乱重畳の国際政局〔武内文彬〕　一九－二六
再軍備は合点がゆかぬ〔關口泰〕　二七－三五
世界の輿論（ヴォイス・オブ・ザ・ワールド）　三六－四二
米国新大統領と朝鮮戦争〔中保輿作〕　四三－四八
朝鮮事変と中共〔萱原信雄〕　四九－五一
在鮮日本財産の帰属－ダレス氏が対日平和条約に挿入〔足立利夫〕　五二－五四
ソ連新「五頭政治」の実体？－金的を射止めたマレンコフ首相〔ＸＹＺ〕　五五－六一
ソ連を擔う人々　六二－六二
ソ連政府・共産党組織図　六三－六三
特集　朝鮮の現勢 KOREAN HAND BOOK〔外交経済研究所編〕　六四－六四
第一篇　総論　六五－六八
第二篇　大韓民国の全貌　六八－七八
第三篇　朝鮮人民共和国の全貌　七八－八一
第四篇　フース・フー　八一－九〇
第三次対戦は避けられる－国際連合を世界政府へ〔グレンヴィル・クラーク〕　九一－一〇八

スターリン歿後のソ連外交の方向〔武内文彬〕　一〇九－一一八

第九五三号b　一九五八年八月号

復刊の言葉〔武内文彬〕　一－一
日本外交の出発点をどこにおくか〔森恭三〕　二－七
ド・ゴールの登場とヨーロッパ〔松尾邦之助〕　八－一三
外交随想　安楽は革命を生む〔西村熊雄〕　一四－一六
外交随想　スカルノさんとハツタさん〔斎藤鎮男〕　一六－一七
外交随想　スポーツ外交の舞台〔五島昇〕　一七－一七
世界のうごき　チトー再び集中砲火あびる・国の命運をかけるドゴール・ドイツ社会民主党はどこへゆく　一八－二一
国内のうごき　国の政治を動かすもの・抵抗する力とその主張・当面する主な対決点　二二－二五
ロンドン・レター　世界に底流するもの－核戦争の脅威・頂上会談・ナショナリズム〔XYZ〕　二六－三一
特集　日本外交の進路　その課題
超党派外交は可能か〔曾禰益〕　三二－三五
世論と外交〔近藤晋一〕　三六－三八
藤山外務大臣に聞く　わがアジア外交の基調〔藤山愛一郎〕　三九－四一
朝日・毎日・読売・共同　政治部長座談会　日本外交の新路線〔八幡次郎・松岡英夫・岡田冠・明峰嘉夫〕　四二－四七

日中修交をめぐる対立〔戸川猪佐武〕　四八－五一
アンケート　日中関係をどう打開するか〔岡崎文勲・山本熊一・南郷三郎・梨本祐平〕　五二－五六
海外論調　五七－五八
書評　ディーン・アチソン『力と外交』　五九－五九
ワシントン・レター　サミット・マッチにまつ－マクミランの訪米〔ＡＢＣ〕　六〇－六一
共産主義外交論
　フルシチョフ路線の基礎〔北見新〕　六二－六七
　中国外交の基本理念〔山本道夫〕　六七－七一
　東西交渉すすむ　七一－七一
外交官への道標　特殊な職業ではない－良識があつて語学のできる人を　七二－七三
条約集　日米原子力一般協定・日英原子力協定　七四－八二
外交日誌　八三－八四

第九五四号ａ　一九五八年九月号

巻頭言　忘却の危機〔武内文彬〕　一－一
世界経済の方向〔堀江薫雄〕　二－七
安全保障序論－その基本原則と武力の統制〔高橋通敏〕　八－一三
超党派外交は可能か－危機の意識と新しい視野の上に〔宇都宮徳馬〕　一四－一八
緊急特集　中東ふたたび危機に揺ぐ　一九－一九

中東問題の基本的考察－国連憲章五一条と集団的自衛権〔入江啓四郎〕　二〇－二六
アラブ民族主義の背景〔甲斐静馬〕　二七－三二
日誌　米英中東出兵から首脳会談提唱まで　三三－三三
朝日・毎日・読売・共同　外報部長座談会　世界情勢に転期－米英の中東出兵〔鈴川勇・渡辺善一郎・清水俊雄・岩立一郎〕　三四－三九
転換の序曲・イラク・クーデター〔塩沢寿美子〕　四〇－四三
世界のうごき　中東ふたたび火をふく・アラブ民族主義の目標・核専門家会議への期待・共産圏の経済協力進む　四四－四九
国内のうごき　異例の五大使会議ひらく・低迷つづく対中国政策・ゆれる労働運動の底流　五〇－五三
ロンドン・レター　中東の革命と世界〔ＸＹＺ〕　五四－五九
外交随想　アラビア料理〔岡崎勝男〕　六〇－六一
外交随想　二つの旅行〔織田定信〕　六一－六一
外交随想　カイロで迎えたお正月〔北村徳太郎〕　六二－六二
外交随想　洞くつはかく叫ぶ〔平沢清一郎〕　六二－六三
ワシントン・レター　アダムス補佐官の収賄事件・アイクのカナダ旅行〔ＡＢＣ〕　六四－六七
外交官への道標　グループ・テストの実際－総合力や分析力のほかにも折合う能力を　六八－六九
海外論調　七〇－七三
期待はずれの岸内閣〔宮崎吉政〕　七四－七八

世界不況をめぐる論調〔中島邦蔵〕　七九－八三
中国各紙に見る日本批判－三つの基本原則を追求〔山村治郎〕　八四－八七
書評　ジェローム・B・コーエン『日本の戦後経済』　八八－八九
書評　アレキザンダー・キヤンベル『インドの心』　八九－八九
書評『対外援助に関するアメリカ上・下両院の議事録』　九〇－九〇
中近東問題研究書紹介　九一－九二
外交記録集　国連安保理事会におけるレバノン問題と日本〔外務省国際連合局〕　九三－九六
外交日誌　九六－九八

第九五五号a　一九五八年一〇月号

巻頭言〔武内文彬〕　一－一
中東問題と国際連合〔大平善梧〕　二－八
ＩＭＦの改組と世界通貨問題－ニューデリ年次大会の課題〔渡辺武〕　九－一四
安全保障序論（続）〔高橋通敏〕　一五－二一
ロンドン・レター　国際社会の新しい期待〔ＸＹＺ〕　二二－二七
ワシントン・レター　中ソ会談をこう見る〔ＡＢＣ〕　二八－三一
特集　日中関係の打開
　日中外交の方向〔田尻愛義〕　三二－三八
　事態解決のために－中国から帰つて〔佐多忠隆〕　三九－四二

北京から訴える〝三つの原則〟に答えよ－中国の基本態度に変りはない〔西園寺公一〕　四三－四七
日中文化交流をはばむもの〔中島健蔵〕　四八－五〇
貿易再開への提案－日本経済再編の契機〔梨本祐平〕　五一－五三
中国政策の問題点－日中関係の史的分析〔山本道夫〕　五四－六五
中国の対外政策とその国内的背景－修正主義批判の意義〔大久保泰〕　六六－七一
世界のうごき　押し出された緊急総会・安定導くアラブの団結・ココムすでに実効失う・核実験停止に続くもの　七二－七五
国内のうごき　二分された日本の外交・静観なお続く日中関係・うごきかねる景気対策・勤評抗争がのこすもの　七六－七九
外交随想　日本外交の目的〔加納久朗〕　八〇－八一
外交随想　中国の旅から〔花柳徳兵衛〕　八一－八二
海外論調　八三－八六
外交官への道標　研修所の生活－不可欠な広い常識と活動的なセンスの素養　八七－八九
書評　ユースタス・セリグマン『アメリカはその中国政策を変更すべきか』　九〇－九一
書評　ジョージ・F・ケナン『干渉の決定』　九二－九二
書評　サミルエル・モリスン『第二次世界大戦の戦略に対する米国の寄与』　九三－九三
外交記録集　中国政策に関するメモランダム〔アメリカ国務省〕　九四－九五
外交日誌　九六－九七
読者への窓　九八－九八

第九五六号ａ　一九五八年一一月号

巻頭言　藤山外交と二つの問題点〔武内文彬〕　一－一
外交政策と国家的利益－その内容を如何に規定し、如何に実現するか〔蠟山政道〕　二－五
台湾海峡問題と日米安保条約－条約改訂の方向〔高野雄一〕　六－一二
アメリカ世界政策と極東戦略－その課題と展開点〔佐伯喜一〕　一三－二〇
後進国開発理論の反省〔板垣与一〕　二一－二八
外交随想　豪州三週間〔松方三郎〕　二九－三一
外交随想　素人外交の役割〔道面豊信〕　三一－三二
外交随想　不思議な国〔松本滝蔵〕　三三－三三
ロンドン・レター　人種問題解決への道〔ＸＹＺ〕　三四－三九
ワシントン・レター　中間選挙近づく〔ＡＢＣ〕　四〇－四三
特集　経済外交の課題
　通商政策と外交〔牛場信彦〕　四四－四九
　東南ア経済協力の諸問題〔栗本弘〕　五〇－五五
　賠償の進捗とその効果－どのように支払うべきか〔吉田稔〕　五六－六〇
　海外投資の現況と問題点－延払輸出と円クレジット計画の細目〔大井賀津夫〕　六一－六三
　鉄鋼業の海外活動－経済協力の現況と問題点〔門平謙三〕　六四－六六
　造船業の海外建設－経済協力の現況と問題点〔倉本作二〕　六七－六九
世界のうごき　台湾海峡に波再び高し・中国代表権問題うごく・第五共和制のジレンマ・

B円はなぜ追放されたか　七〇－七三
国内のうごき　試煉に立つ岸藤山外交・スタート台の日米問題・台湾海峡に結局静観か　七四－七五
外交官への道標　外交官試験を目指す人のために－試験委員と受験細目　七六－七七
現実主義の破綻－日本の国連外交〔戸川猪佐武〕　七八－八一
海外論調　八二－八五
書評　ジェームス・M・ギアビン『宇宙時代の戦争と平和』　八六－八七
書評　米国務省『未開発諸国に対する中ソの経済進出』　八八－八九
外交記録集　通商に関する日本国とニュー・ジーランドとの間の協定　九〇－九三
外交日誌　九四－九五
読者への窓　九六－九六

第九五七号　一九五八年一二月号

巻頭言　改訂交渉の前提〔武内文彬〕　一－一
日本の選択条項受諾－国際司法裁判所の強制管轄権受諾の宣言と、その意義〔田岡良一〕　二－七
沖縄の法的地位－日米安保条約改訂に関連して〔杉山茂雄〕　八－一三
アメリカ対日政策の現段階〔三好修〕　一四－二〇
フォーリン・アフェアーズ一九五八年一〇月号紹介　二一－二一
ロンドン・レター　第五共和制の前途〔XYZ〕　二二－二七
ワシントン・レター　台湾問題と民主党〔ABC〕　二八－三一

座談会　財界人の語る日本経済外交の方向〔杉道助・佐藤喜一郎・新関八洲太郎・丹羽周夫〕　三二－三九
特集　日米安保条約の改訂
集団安全保障と日米安保条約〔田中直吉〕　四〇－四九
現行安保条約の性格〔西村熊雄〕　五〇－五七
検討・改訂交渉の問題点〔島田巽・佐倉潤吾・愛川重義〕　五八－六三
改訂の条件とその意義〔桜内義雄〕　六四－六八
条約改訂と社会党の立場－解消こそ日本の安全保障の道〔岡田宗司〕　六九－七二
書評　角田順『ボールドウィン・チエンバリンとヒトラー』〔大畑篤四郎〕　七三－七三
外交官への道標　試験勉強の体験から－やりにくい外交史と経済学の準備　七四－七五
本番に立つ藤山外交－その理念と期待〔関口松太郎〕　七六－七九
世界のうごき　米華会談のダレス路線・アジアに軍事革命あい次ぐ・
阻みがたい核実験競争再現・ＩＭＦと世銀が増資を決定　八〇－八三
国内のうごき　安保条約交渉ひそかに進捗・社会党は解消論で対決する　八四－八五
海外論調　八六－八九
条約集　対米相互防衛条約集　九〇－九六
外交日誌　九七－九八

第九五八号　一九五九年一月号

巻頭言　新春に想う〔武内文彬〕　一－一

ロンドン・レター 東欧で思うこと〔ＸＹＺ〕 二―七
ワシントン・レター アメリカ議会に新風〔ＡＢＣ〕 八―一一
二大政党制の反省―政局の根源にあるもの〔吉村正〕 一二―一六
モスクワだより―本ものになった〝自由化〟〔ＰＱＲ〕 一七―一九
一九五九年の世界―三つの焦点
ダレス外交と中間選挙―アメリカ・一九五九年の新課題〔岩立一郎〕 二〇―二五
ドゴールが導いた転換―フランスとヨーロッパ〔福永英二〕 三〇―三七
経済競争の本格的な展開―ソ連フルシチョフ計画の全容〔北見新〕 四一―四八
香港だより―風評高い国共合作〔天地人〕 二六―二九
北京だより―古都を埋める建設風景〔水沢澄夫〕 三八―四〇
アンケート 日本外交の基調
〔工藤昭四郎・勝間田清一・内山完造・岡崎勝男・奥村綱雄・船田中・北村徳太郎〕 四九―四九
パリだより―政治に取残された市民〔松尾邦之助〕 五〇―五一
軍縮交渉と日本の立場―その出発点となる核実験の停止〔北原秀雄〕 五二―五九
対談 新年を迎える自立外交の課題〔藤山愛一郎・細川隆元〕 六〇―六六
書評 リチャード・Ｐ・ステビンズ『米国と国際情勢』、
アメリカ外交協会『東と西の谷間』 六七―六七
外交随想 東のない西はない〔内山完造〕 六八―六九
外交随想 モスクワからプラーグ〔川島豊秋〕 六九―七一

外交随想　フイリッピンの旅〔宇都宮徳馬〕　七一－七三
経済外交の窓　日ソ第二次協定きまる　七四－七五
海外論調
外交官への道標　外交史の勉強の仕方－その参考書紹介と実際に関連して　七六－七九
世界のうごき　アイクの声望衰える・東独の承認を強制か・技術的討議に行詰り・野心的なソ連の挑戦　八〇－八一
国内のうごき　安保条約改訂足踏み・交渉の大枠出そろう　八二－八五
内政の渦に入った安保改訂－藤山構想の行方〔大和三郎〕　八六－八七
外交記録集　陳毅中国外相声明およびグロムイコソ連外相覚書と、外務省談話　八八－九〇
外交日誌　九一－九六
九七－一〇〇

第九五九号　一九五九年二月号

巻頭言　跳躍の時代〔武内文彬〕　一－三
平和共存の法理論的検討－ソヴェト国際法理論よりみた一視角〔一又正雄〕　四－八
一九五九年の世界と日本－東西両陣営の関係〔猪木正道〕　九－一三
ロンドン・レター　新たな課題に向う欧州〔ＸＹＺ〕　一四－一九
ワシントン・レター　アメリカすでに不況を克服〔ＡＢＣ〕　二〇－二三
世界外交を担う人々　ジョン・フォスター・ダレス〔中村正吾〕　二四－二五
特集　世界経済の展望

世界の経済における後進国－その発展の条件〔大来佐武郎〕　二六－三一
欧州経済と自由貿易地域案－計画の挫折とその波紋〔河合俊三〕　三二－三七
アメリカ経済の社会的側面－労働組合運動の性格と位地〔松尾均〕　四二－四七
躍進する中国の経済建設－一九五八年から五九年実績と目標〔山田明〕　四八－五三
香港だより　毛沢東の辞任と、その背景－うわさの真実味〔天地人〕　三八－四〇
パリだより　ド・ゴールの勝利〔松尾邦之助〕　四七－四七
外交随想　政治の〝貧困〟〔木村孫八郎〕　四一－四一
経済外交の窓　成果あげた貿易使節団　五四－五五
ソ連の安全保障構想と政策－その背景と推移〔中村実〕　五六－六三
外交官への道標　私の受験準備（投稿）－着手から仕上げまで〔大村元〕　六四－六五
海外論調　六六－六九
世界のうごき　毛沢東が国家主席退く・欧州小頂上会議を計画・アフリカに新しい団結・A・A経済会議の成果　七〇－七三
国内のうごき　安保改訂低姿勢で越年・社会党でも内部抗争か　七四－七五
「権道」と派閥－自民党の内紛〔大和三郎〕　七六－八〇
外交随想　飛行機の旅から〔山本米治〕　八一－八一
書評　ドルー・ピアソン、ジャック・アンダーソン『二流国家アメリカ』　八二－八三
書評　中華人民共和国国家統計局工業統計司編
『わが国鉄鋼・電力・石炭・機械・紡績・製紙工業の今昔』　八三－八五

外交記録集　日ソ間の商品相互取引表議定書、日本とハイティ共和国通商協定　八六－八九
日本外交の歩み　昭和三三年下半期〔編集部〕　九〇－九三
外交日誌　九四－九六

第九六〇号　一九五九年三月号

巻頭言　一－一
安保条約改訂の方向と条件－新時代の世界平和と安全のために〔田尻愛義〕　二－七
ドイツ問題から東西話合へ　フルシチョフがつけたベルリンへの火と新しい雪どけ〔篠原武英〕　八－一四
ド・ゴールとアルジェリア－仏新政権とながびく北アフリカ問題の波紋〔福永英二〕　一五－一八
超高空の法理論－人工衛星打上げにともなう法律問題〔城戸正彦〕　一九－二七
経済外交の窓　波紋収まらぬ交換性問題　二八－二九
ワシントン・レター　年頭教書に動く米議会〔ＡＢＣ〕　三〇－三三
座談会　通商使節団長、経済特使の語る外交・通商・経済
〔稲垣平太郎・伊藤忠兵衛・永野重雄〕　三四－四二
本格市場への転換〔佐々部晩穂〕　四三－四三
特集　日本外交の環境
アジア外交の当面する課題－その現状と展望〔宮崎繁樹〕　四四－五〇
東南ア経済協力の展開　経済協力にたいする目的論的反省と若干の示唆〔広長敬太郎〕　五一－五五
中国政策にみる米国の立場〔三好修〕　五六－六五

外交随想　米ソ抗争の尖端「ベルリン」〔山本米治〕　六六－六七
外交随想　名なしの年賀状〔福田千里〕　六七－六七
外交官への道標　在外研修の思い出－見聞をひろめ、交友の喜び　六八－六九
海外論調　七〇－七三
中国革命の前夜（其の一）民族英雄の没落　七四－七五
世界のうごき　ミコヤンの訪米・米一般教書を発表・欧州の通貨界に変革・予算教書と経済報告　七六－七九
国内のうごき　再開国会はじまる・三二〇と一六六のうらおもて　八〇－八一
外交と内政の間〔大和三郎〕　八二－八三
書評　S・アドラー『中国の経済』　八四－八五
書評　ウィリアム・レデラー、ユウジーン・バーディック『醜いアメリカ人』　八六－八七
外交記録集　西欧諸国通貨の交換性回復について〔外務省経済局〕　八八－九四
外交日誌　九五－九六

第九六一号　一九五九年四月号

巻頭言　激動下の日本の進路〔武内文彬〕　一－一
特集　新らたなる日米関係の確立
安全保障の概念と日米安保条約〔横田喜三郎〕　二－一三
経済的にみた日米の関係〔稲葉秀三〕　二〇－三〇

〝蜜月〟を過ぎた日米関係　東京－ワシントン・ハイライト〔宮沢喜一〕　三六－四一
マッカーサー駐日米大使にきく　日米関係の新たな眺望
〔マッカーサー駐日米大使・岩立一郎〕　一四－一九
アメリカ留学の手引き　貴君を待ついくつかのチャネル〔林容吉〕　三一－三五
海外論調
ワシントン・レター　ソ連共産党大会とアメリカの論調〔ＡＢＣ〕　四二－四五
転換期に立つＮＡＴＯ－ティーン・エイジに入ったＮＡＴＯの危機と問題点〔内山正熊〕　四六－四九
ソ連七ヵ年計画の内外的意義－第二一回共産党大会をめぐつて〔清川勇吉〕　五〇－五六
最近の中南米・その政治と経済－その新しい動向と表情〔近藤四郎〕　五七－六三
経済外交の窓　新段階に入る日中関係の調整　六四－六九
世界のうごき　ダレス長官と共に入院した米外交・マクミラン訪ソの意味するもの・
　キプロス、ついに独立を達成・米及び西欧経済の動き　七〇－七一
動きかねる日中修交〔大和三郎〕　七二－七五
中国〝革命〟の前夜（その二）民族資本家のなげき〔竹田精太郎〕　七六－七七
アラスカ今昔物語　七八－七九
書評　米国政治社会科学学会『現代中国および中国人』　八〇－八三
日米関係研究書紹介〔溝口道郎〕　八四－八五
外交記録集　所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための
　日本国とノールウェーとの間の条約　八六－八八
　　八九－九四

外交日誌　九五－九六

第九六二号　一九五九年五月号

巻頭言　日中国交回復へ〔武内文彬〕　一－一
今日における中立主義の意義〔中村哲〕　二－六
米ソの間の日本外交〔明峰嘉夫〕　七－一一
国際政治展望　外相会議から首脳会談へ　マクミランの開いた道　一二－一三
国際経済展望　平坦でない米対外援助の増加　一四－一五
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（一）領海の「幅」と「基線」〔横田喜三郎〕　一六－二二
アメリカ対中国政策の転換（二）〔三好修〕　二三－三三
対談　フェドレンコ駐日ソ連大使語る　日本の永世中立を希望〔岩立一郎〕　三四－三九
特集　世界外交におけるイギリス
　国際政治とイギリスの立場－英国外交に学ぶもの〔西春彦〕　四〇－四七
　マクミラン外交の描くもの－冷戦の氷は解けるか・首脳会談のきすう〔奥畑稔〕　五二－五七
　英連邦諸国と日本－貿易と開発協力の現況〔伊東敬〕　六四－六九
北京レター　政治意識みなぎる七億　新中国みてある記〔世多礼〕　四八－五一
海外論調　五八－六一
経済外交の窓　南ベトナム賠償からの教訓　六二－六三
ワシントン・レター　アメリカの暗い谷間　七〇－七三

英国外交の研究書紹介〔大島鋭男〕　七四－七六
日本経済の国際環境シリーズ（一）日本綿業の将来性〔村山高〕　七七－八三
中国〝革命〟の前夜（その三）官僚資本の膨脹〔竹田精太郎〕　八四－八五
〝政治季節〟の環境〔大和三郎〕　八六－八七
外交記録集　日本とユーゴースラヴィア連邦人民共和国との間の通商航海条約・日本国とカンボディアとの経済および技術協力協定　八八－九三
外交日誌　九四－九六

第九六三号　一九五九年六月号

巻頭言　劉少奇政府成立と日本の外交路線〔武内文彬〕　一－一
特集　東西交渉の新しい基調
戦後外交と東西交渉の考察－再現した外相会議から首脳会談の道〔入江啓四郎〕　二－八
ベルリン・ヨーロッパ・東西交渉－東西の狙う力点〔寺沢一〕　九－一四
外相会議におけるドイツ問題－外相会議とその成否〔木本三郎〕　二四－三一
ドイツ問題の軍事的背景－ベルリン問題の軍事的背景〔佐伯喜一〕　三二－四〇
欧州から東南アへ－ナショナリズム・共産主義・東南ア経済〔森恭三〕　一五－一九
国際政治展望　〝人民公社〟の政治的果実　二〇－二一
国際経済展望　躍進を続ける中国の経済建設　二二－二三
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（二）湾と無害通航〔中村洸〕　四一－四七

転期を迎える米国務省〔三好修〕　四八－五三
カイロ・レター　エジプト行顚末記（一）〔水沢澄夫〕　五四－五七
対談　協力と売込み　クルップ氏が日本を語る〔アルフリート・クルップ、岩立一郎〕　五八－六一
ワシントン・レター　アメリカ対外援助の舞台と運命〔ＡＢＣ〕　六二－六五
経済外交の窓　南米市場と輸出振興体制　六六－六七
海外論調　六八－七一
外務省を志ざす人のために　三グループの試験で採用〔内田藤雄〕　七二－七四
日本経済の国際環境シリーズ（二）輸出阻む硫安工業の現況〔海野秋津〕　七六－八二
日ソ中立条約をめぐる松岡外交〔遠山左千夫〕　八三－八七
書評　Ｃ・Ｌ・ザルツバーガー『米国外交のどこが悪いか』　八八－八九
外交記録集　ＩＡＥＡよりの天然ウランの受入協定　九一－九三
外交日誌　九四－九六

第九六四号　一九五九年七月号

巻頭言　ダレス長官の死と米－日独外交路線〔武内文彬〕　一－一
ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の経済政策
－共同市場運営における超国家的政策の展開〔佐藤和男〕　二－一〇
東西外相会議から首脳会談へ－その動きとその方向〔小川恒〕　一一－一六
座談会　日本綿業からみた世界経済と通商・外交〔阿部孝次郎・原吉平・鈴木重光・武藤絲治〕　一七－二三

国際政治展望　〝現実〟が導く転換－一九五九年に託すもの　二四－二五
国際経済展望　勢を盛り返した金流出－米の国際収支悪化が招く悩み　二六－二七
ダレス・その足跡（写真ページ）　二八－二九
特集　日本外交の現実
北鮮自由帰還問題の問題点と経緯〔鈴木貢〕　三〇－三三
ヴィエトナム賠償協定妥結と今後の問題〔吉岡信夫〕　三三－三六
国際捕鯨東京会談の意義と問題性〔唐木桂一郎〕　三七－三九
不満を残した日ソ漁業交渉の実際〔都築汎〕　四〇－四三
世界外交群像シリーズ（二）指導的地位をめざす中国外交のカラクリ〔浜野洋〕　四四－四九
ニューデリー・レター　インドに思うこと－未開拓なその研究と問題点〔植田捷雄〕　五〇－五四
外務省を志ざす人のために　上級試験の国際法について〔田岡良一〕　五五－五七
近代外交史研究書紹介－外交官試験準備のために〔大畑篤四郎〕　五八－六一
カイロ・レター　エジプト行顚末記（二）〔水沢澄夫〕　六二－六五
経済外交の窓　基本対策望まれる漁業問題　六六－六七
ワシントン・レター　大統領選挙を繞る動向〔ＡＢＣ〕　六八－七一
日本経済の国際環境シリーズ（三）国際的にみた日本鉄鋼業の問題点〔門平謙三〕　七二－七六
イギリス鉄鋼業の現況－その国際的地位〔大島重忠〕　七七－八三
外交記録集　日本国とヴィエトナム共和国との間の賠償協定・
日本国とヴィエトナム共和国との借款に関する協定および交換公文・

北西太平洋日ソ漁業委員会第三回会議の議事録　八四－九四
外交日誌　九五－九六

第九六五号　一九五九年八月号

グラビア　日本を訪れた世界の顔・一九五八年　一－一
巻頭言　試練に立つ岸外交〔武内文彬〕
特集　日本外交の進路
　日本外交の理念と現実〔林茂〕　二－六
　日本の中近東外交とその課題〔大平善梧〕　七－一二
　日本の中国外交－「二つの中国」に直面して・その課題〔植田捷雄〕　一三－一九
国際政治展望　懸案は首脳会議へもちこし　二〇－二一
国際経済展望　地域的な経済競争を現出　二二－二三
敗戦前夜の日本外交〔日下晋〕　二四－三七
世界外交群像シリーズ（三）外交と内交－変転する戦後日本外交〔戸川猪佐武〕　三八－四三
近代外交史研究書紹介〔大畑篤四郎〕　四四－四七
戦後日本外交の歩み〔田村浩〕　四八－五七
世界政治家・あ・ら・かると　政治家の趣味・気位の高いドゴール・ストロースの嘆き　五八－五九
四つのメモ　ケララ州・カストロ・バークナー報告・パレ・デ・ナシオン　六〇－六〇
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（三）接続水域と継続追跡権〔前原光雄〕　六一－六七

中国〝革命〟の前夜（その四）悪性インフレの昂進〔竹田精太郎〕　六八－六九
外相会議が描く方向〔帆足計〕　七〇－七四
日本経済の国際環境シリーズ（四）日本化繊工業の将来と問題点〔山口利吉〕　七五－七九
安全保障条約図表〔外務省条約局調査室〕　八〇－八九
外交資料集　ロバートソン米国務次官補一九五九年六月一六日全米記者クラブ演説「極東情勢の現在と将来」全文　九〇－九四
外交記録集　航空業務に関する日本国とベルギーとの間の協定　九五－九七
外交時報復刊号総索引　九八－一〇一
外交日誌　一〇二－一〇四

第九六六号　一九五九年九月号

巻頭言　万年一二歳の日本〔武内文彬〕　一－一
国際政治展望　東西対立の巾狭まる　二－三
国際経済展望　波乱を抱く？世界経済の動向　四－五
世界経済と日本経済外交の方向〔山本登〕　六－一一
国際経済機構の理念と機能〔佐藤和男〕　一二－一九
特集　現地にみる日本貿易の実際
はじめに〔長満郁郎〕　二〇－二〇
特色ある市場条件－アメリカ北西部〔坂牧弘康〕　二〇－二二

輸出方式を向上－アメリカ太平洋岸〔須川輝雄〕　二二－二四
片貿易の克服へ－中米・メキシコ〔村松太郎〕　二四－二六
目ざましい市場の生長－ブラジル〔藪真鉄〕　二六－二八
輸入制限の圧力増す－欧州市場〔大庭定男〕　二八－三〇
必要な政治的背景－エジプトとアラブ諸国〔田貝正人〕　三〇－三二
重要な相互理解を－台湾〔小玉源次〕　三二－三三
大いなる錯綜－ソ連・モスコウ〔ＸＹＺ〕　三三－三五
座談会　外貨獲得のホープ　日本化学繊維の問題点と将来
〔大屋晋三・賀集益蔵・田代茂樹・森長英〕　三六－四七
あ・ら・かると　女王と大統領・腕をあげたアイク・博覧会競争　四八－四九
現行通商貿易協定図・解説〔外務省条約局調査室〕　五〇－五八
記事資料　経済協力の現状について（一九五九年六月二二日）〔通商産業省通商局経済協力課〕　六〇－七一
グラビア　スイスの山々　六五－六七
記事資料　第三回アジア経済担当官会議の結論（一九五九年六月二三～二五日）〔外務省〕　七二－七三
主要産業と外貨依存度　石油〔東淳〕　七四－七八
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（四）大陸棚と国際法〔入江啓四郎〕　七九－八五
インドネシヤの経済文化〔守安新二郎〕　八六－九一
書籍紹介　経済外交研究会編『欧州経済統合の動き』　九二－九三
協会だより　九四－九六

読者の頁　九七－九七
外交日誌　九八－一〇〇

第九六七号　一九五九年一〇月号

巻頭言　国際「次元」は変った〔武内文彬〕　一－一
国際政治展望　アイゼンハワーの〝西欧の旅〟　二－三
国際経済展望　東西緊張の緩和に動き出したか　四－五
何が真に安保改訂論争を正当化するか〔蠟山政道〕　六－一二
新安全保障条約の検討〔田中直吉〕　一三－二三
宇宙空間と国際法〔池田文雄〕　二四－三一
世界外交群像シリーズ（四）英国編　威厳失なわぬ伝統と理想〔野波四郎〕　三二－三七
あ・ら・かると　選挙と外交・カストロとカセム　三八－三九
我々の選択は原爆死か世界法かである〔ライナス・ポーリング〕　四〇－四七
資料　日本国政府とパラグアイ共和国政府との間の移住協定の署名
　および船舶借款に関する書簡交換について　四八－四八
資料　パラグアイの一般事情　四八－五〇
資料　パラグアイ移住事情について　五〇－五二
第二世界銀行（ＩＤＡ）の創設〔大和三郎〕　五三－五五
ウイーン会議と国際綿連について〔田和安夫〕　五六－五八

朝鮮人帰国問題の実相〔帆足計〕　五九－六四
グラビア　オーストラリアの自然　六五－六七
ことばのはなし　サハラさばく・ボーレン駐比大使・国連本部・ヘンリー・キャボット・ロッジ　六九－六九
日本ブームと工芸品の輸出〔山本正三〕　七〇－七七
中国〝革命〟の前夜（その五）知識分子と学生の運動〔竹田精太郎〕　七八－七九
主要産業の輸入依存度　鉄鋼〔東淳〕　八〇－八五
外交記録集　日本国政府とパラグアイ共和国政府との間の移住協定　八六－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九二

第九六八号　一九五九年一一月号

巻頭言　一－一
国際政治展望　恒久平和へ重い扉開く　二－三
国際経済展望　新時代が招いた波紋　四－五
新時代への提言〔小幡操〕　六－一二
四社外報部長座談会　平和共存への胎動〔鈴川勇・小松武雄・渡辺善一郎・清水俊雄〕　一三－二三
随想　過当競争〔原吉平〕　二四－二四
随想　西独政府賓客とガリオア資金〔青木得三〕　二五－二七

中国は何を望み何を叫ぶか〔鈴木一雄〕　二八－三四
日中修交の新しい踏台－北京から帰つて〔宇都宮徳馬〕　三五－三九
あ・ら・かると　フルシチョフ格言集・兄弟政治家・米ソの青少年　四〇－四一
平和共存理論とソヴエトの外交－首脳会談に期待するもの〔畑中政春〕　四二－四七
大使館だより
　ラオスと日本〔伊部時代〕　四八－四八
　ヴィエトナムの表情〔久保田貫一郎〕　四九－四九
訪ソ米州知事マイナー氏　フルシチョフ首相の訪米とソ連の現状を語る〔川崎秀二〕　五〇－五一
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（五）公海〔高野雄一〕　五二－五九
外交資料集　ＧＡＴＴ第一五回東京総会について　六〇－六三
四つのメモ　ラオス小委員会・ベラウンデ・国内管轄権・経済社会理事会　六四－六四
グラビア　外交はほほ笑む　六五－六七
協会だより　六九－七一
国交樹立状況一覧表・在外公館設置状況一覧表〔外務大臣官房総務参事官室〕　七二－八一
外交資料集　ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア各国との国交回復について、
　マリキナ河多目的計画および電気通信施設拡張改善計画のための信用供与に関する
　フイリピン政府との書簡交換について　八二－八七
外交記録集　日本国とハンガリー・ルーマニア・ブルガリアとの間の外交関係回復に関する
　交換公文　八八－八九

外交日誌　九〇－九二

第九六九号　一九五九年一二月号

巻頭言　米ソ同盟－世界政府－戦争の廃止〔武内文彬〕　一－一
「極東の安全」は「日本の安全」となりうるか－〝新安保条約草案〟を読んで〔田尻愛義〕　二－八
ソ連外交の伝統と平和政策〔尾上正男〕　九－一五
共産圏研究（一）ソ連　競争的共存の可能性－ソ連の七カ年計画の目標と背景〔小林茂三〕　一六－二〇
共産圏研究（二）東欧　経済統合と東欧諸国－コメコンからみた動向〔斉藤正〕　二一－二六
共産圏研究（三）中国　経済建設と人民公社－中国経済への一視角〔江副敏生〕　二七－三三
鉄と竹の幕の彼方に－両雄並び立ちうるか　中ソ関係の分析〔日下晋〕　三四－四五
チベットに立つ風－裏からみた中印紛争〔大田誠〕　四六－五〇
四つのメモ　第二世銀、タフト・ハートレー法、クリシュナ・メノン、アナイリン・ベバン　五一－五一
国際政治展望　西側首脳会談ゆきなやむ　五二－五三
国際経済展望　曲り角に立つ世界経済　五四－五五
軍備全廃論こそ「平和への大道」－フルシチョフ提案を評す〔帆足計〕　五六－六〇
日本の賠償－その現状と問題点〔里上忠政〕　六一－六九
グラビア　ヨーロッパの旅から　六五－六七
欧州綿業の動向と対策－国際綿連ウィーン会議に参加して〔村山高〕　七〇－七五
あ・ら・かると　宇宙ロケットと月賦販売・ソ連と中共の間柄・なぞのドゴール大統領　七六－七七

主要産業の輸入依存度（三）電力〔東淳〕　七八－八二
外交資料集 世銀総会においてアメリカ代表総務の提出した「国際開発協会」決議案、世銀総会におけるA・D・ジロン国務次官補の演説要旨、同ブラック世銀総裁の演説要旨　八三－八六
協会だより　八七－八九
外交日誌　九〇－九二

第九七〇号　一九六〇年一月号

巻頭言〝六〇年代〟への期待〔武内文彬〕　五－一〇
一九六〇年 世界経済の方向と課題〔堀江薫雄〕　一一－一七
東西交渉をめぐる諸問題〔新関欽哉〕　一八－二四
国際法からみたベトナム賠償〔横田喜三郎〕　二五－三五
安保改定問題と婦人界〔西清子〕　三六－三九
座談会 石油事業の海外進出－アラビアとインドネシア〔三村起一・山下太郎〕　四〇－五一
解説 コンロン報告について　五二－五五
「燃えだした中国論」への反響と提言－コンロン報告を読んで〔植田捷雄〕　五五－六五
国際政治展望－滲みとおる雪解け水　六六－六七
国際経済展望－本格化したガット総会審議　六八－六九
世界外交群像・フランス編－大戦の傷こんから立ちあがるケー・ドルセー〔福永英二〕　七〇－七五
本誌寄稿家の著作紹介 森恭三・戸川猪佐武・小幡操　七六－七七

書評　大鷹正次郎『第二次世界大戦原因論』〔岩村一郎〕　七八－七九
韓国の政情と大統領選挙〔鈴木貢〕　八〇－八二
主要産業の輸入依存度（四）羊毛〔東淳〕　八三－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七一号　一九六〇年二月号

巻頭言　本年の国際的焦点　経済的「競争的共存」へ〔武内文彬〕　五－五
一九六〇年　世界政治の方向と課題－緊張緩和をめぐって〔角田順〕　六－一三
東西交渉とヨーロッパ－パリからパリへ〔三好修〕　一四－二〇
エル・チャミザール見聞記－アメリカとメキシコの国境紛争より〔入江啓四郎〕　二一－二六
南極条約をめぐって〔池田文雄〕　二七－三二
アメリカの国際収支の悪化要因とその改善策〔大田輝夫〕　三三－三八
安保改訂後の外交課題－日中関係の新発足〔田尻愛義〕　三九－四二
改訂交渉をかえりみて－経緯が綴る安保改訂〔山野明夫〕　四三－四七
国際政治展望－ニクソン独走に入る　四八－四九
国際経済展望－解決のメド立たぬ米鉄鋼スト　五〇－五一
世界外交群像シリーズ（六）ソ連邦－転換の姿勢あらわす党外交〔大川透〕　五二－五七
国慶節より帰って－建国十年の新中国　見て、感じた意見と提言〔宮崎世民〕　五八－六三

あ・ら・かると　アイクとネール・回想録ばやり・人口問題　六四－六五
滞英雑感　運命的問題のみせる苦悩〔斎藤鎮男〕　六六－六八
国際法ゼミナー　海洋国際法の新発展（六）公海漁業〔寺沢一〕　六九－七五
四つのメモ　バンデンバーク決議・パナマ運河・マカリオス大主教・マリ連邦　七六－七六
主要産業の輸入依存度（五）機械工業〔東淳〕　七七－八一
外交記録集　南極条約　八二－八七
協会だより　八八－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七二号　一九六〇年三月号

巻頭言　新日米安保条約「本番」はこれからだ〔武内文彬〕　五－五
戦争放棄の限界－砂川判決を中心として〔横田喜三郎〕　六－一六
新条約の解釈をめぐって－安保改訂にたいする私の立場〔田岡良一〕　一七－二三
新条約と今後の日米関係〔中屋健式〕　二四－二八
アジア・アフリカ問題の現状と方向－焦点〝アフリカ〟の動向を主軸として〔百々巳之助〕　二九－三五
民族運動とアラブ世界の動き－ナセル・カセムの対立について〔甲斐静馬〕　三六－四二
平和共存とインド外交〔大形孝平〕　四三－四七
中国の東南アジア華僑政策〔須山卓〕　四八－五三
新局面に立つアルジェリア－F・L・N、コロン、本国の鼎立から〔福永英二〕　五四－五八

ナセル主義の一解釈〔ウィーラード・レンジ〕　五九－六三
あ・ら・かると　一九六〇年のうらない・イーデン回顧録・一九五〇年代　六四－六五
西ドイツ宰相アデナウアー（その一）青少年時代〔鹿島守之助〕　六六－七三
読者の窓　七三－七三
国際政治展望－戦争の抑止に主導権　七四－七五
国際経済展望－東西経済競争の問題点　七六－七七
主要産業の輸入依存度（六）化学繊維〔東淳〕　七八－八三
四つのメモ　カメルーン・武器貸与法・アルジェリア・サー・オリバー・フランクス　八四－八四
協会だより　八五－八七
外交資料集　ソ連覚え書き全文（一九六〇年一月二七日）　八八－八九

第九七三号　一九六〇年四月号

巻頭言　米ソの国際的命運－本年が山場か〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－核兵器禁止の戸を押すか　六－七
国際経済展望－しのぎを削る東西の後進国援助　八－九
新日ソ貿易三カ年協定をめぐって〔神代喜雄〕　一〇－一七
貿易自由化と繊維産業〔村山高〕　一八－二一
友好善隣の証のために－日中関係打開に関する課題と対策〔山本熊一〕　二二－二七
安保改訂論争の新角度　渦中の人にきく

中立化こそ危険な方向〔賀屋興宣〕　二八－三三
段階的解消の立場から〔曾禰益〕　三四－三七
平和憲法を破壊する者〔松本七郎〕　三七－四〇
国会の論争をこうみる〔岡田任雄〕　四〇－四二
新安保条約・関係文書の検討〔田中直吉〕　四三－六〇
国際法ゼミナー　国際河川・国際運河とセント・ローレンス五大湖水路〔高梨正夫〕　六一－六七
あ・ら・かると　三選是非論・アジュベイとリップマン・チェスマン　六八－六九
書籍紹介　神川彦松『日本外交の再出発』〔田中直吉〕　七〇－七一
西ドイツ宰相アデナウアー（その二）ケルン市長〔鹿島守之助〕　七二－七七
国際連合の印象〔佐藤和男〕　七八－八四
四つのメモ　ポラリス・フランコ総統・十カ国軍縮委員会・中南米共同市場　八五－八五
条約集　日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約および付属文書（案）　八六－一〇四
条約集　日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約（一九五一年）、
　吉田アチソン交換公文、日米行政協定　一〇五－一一九
協会だより　一二〇－一二一
外交日誌　一二二－一二三

第九七四号　一九六〇年五月号

巻頭言　後進地域援助と日本－吉田元首相の渡米に期待〔武内文彬〕　五－五

国際政治展望－核実験禁止条約、合意に近づく　六－七
国際経済展望－波及する経済ブロック化の波　八－九
貿易の自由化と日本経済－その国民経済に与える栄養〔紅林茂夫〕　一〇－一五
為替・貿易の自由化について－自由化は何故必要か〔渡辺誠〕　一六－二三
貿易の自由化と関税〔吉田尚〕　二四－二九
日中外交のありかた－友好親善の「望」はあるか〔田尻愛義〕　三〇－三六
後進国援助競争の課題〔牛場信彦〕　三七－四一
あ・ら・かると　アジアの民主主義・キューバとアメリカ・二つのパス　四二－四三
西ドイツ宰相アデナウアー（その三）大戦直後〔鹿島守之助〕　四四－五一
国際法ゼミナー　新しい国際法の諸問題　南極の国際法（一）〔横田喜三郎〕　五二－五八
極東の範囲についての一考察〔多田実〕　五九－六三
三五年度の外交予算〔森田佑一〕　六四－七〇
中共と東南アジア諸国との関係〔佐山滋雄〕　七一－七八
主要産業の輸入依存度　化学肥料工業〔東淳〕　七九－八三
投稿　極東における日本の責任〔田村善之助〕　八四－八九
外交日誌　九〇－九一

第九七五号　一九六〇年六月号

巻頭言　日米修好百年に想う〔武内文彬〕　五－五

日米国交百年の歩み〔鹿島守之助〕　六－一二
日米経済交流の新段階〔石坂泰三〕　一三－一五
日米修好通商百年記念号によせて〔藤山愛一郎〕　一六－一六
日米修好通商百年メッセージ〔マッカーサー駐日米大使〕　一七－一七
太平洋戦争の教訓－ある回想〔野村吉三郎〕　一八－二九
大君の使節〔金井圓〕　三〇－三四
苦難から共栄へ－日米百年物語〔四至本八郎〕　三五－四一
滞米回想　戦争玩具と米人〔松岡洋子〕　四二－四三
滞米回想　彼が航空時代のとき〔岡崎勝男〕　四三－四四
滞米回想　健全な民主国家〔賀集益蔵〕　四四－四五
滞米回想　大いなる友情〔小松隆〕　四五－四六
日本雑感 The International Language〔Nathan Polowetzky〕　四七－四七
日米交流と留学生〔坂西志保〕　四八－五一
新刊紹介『世界情勢と米国　一九五八年』〔田中直吉〕　五二－五二
写真ページ　ワシントンの日本人　五三－五五
四つのメモ　ＩＤＯ・国連特別総会・フィリバスター・諸国民友好大学　五七－五七
国際政治展望－頂上会談へ懸案出そろう　五八－五九
国際経済展望－ＯＥＥＣの改組新機構案成る　六〇－六一
日本の外交政策と中立主義〔Ｉ・Ｉ・モーリス〕　六二－六七

あ・ら・かると　警官とデモ隊・共通の言葉　六八－六九
日米外交百年史年表　七〇－八三
協会だより　八四－八五
外交日誌　八六－八七

第九七六号　一九六〇年七月号

巻頭言　世界は「火」を噴き始めた〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－流された東西首脳会談　六－七
国際経済展望－迂余曲折する欧州経済統合　八－九
東西関係の新時点－パリー会談流会の意味するもの〔角田順〕　一〇－二〇
四つのメモ　ケネディー・CIA・ミコヤン・空中査察　二一－二一
米国外交のゆくえ－注目される民主党の外交綱領〔三好修〕　二二－二九
特集　自由化とそのインパクト
国際的自由化の大勢－欧州は既に「共同市場化」へ〔織田定信〕　三〇－三一
国内措置のプログラム〔松尾泰一郎〕　三二－三七
産業界はどう対応するか〔阿部太郎〕　三八－四四
為替政策の新しい角度〔柴崎芳博〕　四五－五〇
外資法の改正へ新方向〔木上兵衛〕　五一－五六
戦後経済からの脱脚－貿易自由化と紡績産業〔原吉平〕　五七－六二

過渡的処置に期待－貿易自由化と化繊産業〔賀集益蔵〕　六三－六七
西ドイツ宰相アデナウアー（その四）ケルン市長時代の業績〔鹿島守之助〕　六八－七七
あ・ら・かると　偶数年と奇数年・忘れることと忘れないこと・にこにこ顔の政治家　七八－七九
国際法ゼミナー　新しい国際法の諸問題　南極の国際法（二）〔入江啓四郎〕　八〇－八六
新安保条約と国会〔戸川猪佐武〕　八七－九一
外交日誌　九二－九五

第九七七号　一九六〇年八月号

巻頭言　日米関係は何うなるか〔武内文彬〕　五－五
国際政治展望－U2型機の画く波紋　六－七
国際経済展望－世界景気の二つの流れ　八－九
特集　国際状勢の切点
韓国－新憲法後の行く方〔鈴木貢〕　一〇－一三
インドネシア－苦悶（ママ）する新民主々義〔有吉厳〕　一四－一八
ヴィエトナム－模索つづく不安と混迷〔坂本徳松〕　一九－二三
トルコ－政変に底流するもの〔甲斐静馬〕　二四－二八
新安保条約発効と今後の問題〔田畑茂二郎〕　二九－三五
東西交渉決裂後の世界の課題－激突する二つの力　その縮図日本〔牧内正男〕　三六－四一
西ドイツ宰相アデナウアー（その五）ラインランド分離運動とライン共和国〔鹿島守之助〕　四二－五一

国際連合と経済協力－後進国の経済開発に対する国際連合体制の貢献〔佐藤和男〕　五二－六五
国連警察軍は可能か〔岡本順一〕　六六－七二
四つのメモ　修正主義・モンゴメリー元帥・アイヒマン・スカイボルト　七三－七三
あ・ら・かると　クレムリン診断学・大統領候補指名大会・ひと月たって十年たって　七四－七五
パナマ運河の将来〔高梨正夫〕　七六－八三
復刊第二年総索引　八四－八七
書籍紹介　東亜経済研究会刊『新中国の機械工業』　八八－八八
外交日誌　八九－九一

第九七八号　一九六〇年九月号

巻頭言　騒然たる世界情勢と日本の新外交〔武内文彬〕　五－五
新段階を迎えた日米経済関係〔大来佐武郎〕　六－一四
Enchanted Foreigners〔Sthephen H. Green〕　一五－一五
日本経済への「新しい波」〔岩佐凱美・織田定信・瀬川美能留〕　一六－二一
米国の大統領選挙とその外交政綱〔鎌田与左衛門〕　二二－二五
米国の対日感情〔鈴木定夫〕　二六－二九
米国の中国政策〔日下晋〕　三〇－四二
四つのメモ　RB47・米州機構・リンドン・ジョンソン・ルムンバ首相　四三－四三
国際外交－冷戦へ紛争各地にあいつぐ　四四－四五

国際経済－難航を続ける各国の通商調整　四六－四七
西ドイツ宰相アデナウアー（その六）宰相候補に挙げらる〔鹿島守之助〕　四八－五七
あ・ら・かると　島（その一・二）・終戦一五年　五八－五九
対談　日本外交とアジアの実情〔那須浩・坂西志保〕　六〇－六七
外交要語解説　六八－六九
昭和外交史（一）幣原外交〔戸川猪佐武〕　七〇－七六
欧州酒の旅〔佐治敬三〕　七七－七九
外交記録集　日ソ三カ年貿易支払協定・日本国とカンボジアとの貿易取極・日本国とキューバ共和国との通商協定　八〇－八七
外交日誌　八九－九二

第九七九号　一九六〇年一〇月号

巻頭言　国連くさぐさ〔武内文彬〕　五－五
特集　戦後十五年の世界経済
戦後世界経済の鳥瞰－その構造政策と将来への展望〔赤松要〕　六－一三
米ソ経済競争と世界政治の基調〔石沢元晴〕　一四－二一
世界経済と国際連合〔佐藤和男〕　二二－二九
世界経済と国際経済機関－ＩＭＦとＧＡＴＴを中心として〔村野孝〕　三〇－三五
欧州経済共同体と欧州経済統合問題〔武内文彬〕　三六－四三

日本の世界経済政策〔山本登〕　四四－五〇
四つのメモ　ドミニカ・ワズワース・ユニオン・ミニエール・モロトフ　五一－五一
西ドイツ宰相アデナウアー（その七）ナチ暴力政治下におけるアデナウアー〔鹿島守之助〕　五二－六〇
国際政治・時の人　次期首相候補と目される　セルウイン・ロイド　六一－六一
あ・ら・かると　さまざまのドクトリン・国際公務員・百カ国になる国連加盟国　六二－六三
昭和外交史（二）影の外相・森恪〔戸川猪佐武〕　六四－七〇
新生〝民主韓国〟の課題　改革は成功したか〔村常男〕　七二－七八
書評　石沢元晴『米ソの経済競争』〔気賀健三〕　七九－七九
外交要語解説　八〇－八一
国際外交　八二－八三
国際経済　八四－八五
外交日誌　八七－九〇
コンゴ関係日誌　九一－九二

第九八〇号　一九六〇年一一月号

巻頭言　国連に新時代来る〔武内文彬〕　五－五
フルシチョフ外交路線の痙攣〔原子林二郎〕　六－一〇
資本取引の自由化について－ヨーロッパの国際交流をみて〔瀬川美能留〕　一一－一七
宇宙時代における軍事基地と核兵器〔伊藤皓文〕　一八－二六

戦後における軍縮交渉の概要－軍縮をめぐる東西の争点〔大畑篤四郎〕　二七－四四
外交英語－秋の二つの話題〔磯部佑一郎〕　四五－四九
国際軍の歴史と思想〔岡本順一〕　五〇－五七
外交要語解説　五八－五九
西ドイツ宰相アデナウアー（その八）迫害は続く〔鹿島守之助〕　六〇－六八
文化交流への批判と提言〔岩本常雄〕　六九－七三
国際外交　七四－七五
U2機の国際法違反と宇宙国際法の展望〔帆足計〕　七六－八一
昭和外交史（三）〝おらが外交〟の危機〔戸川猪佐武〕　八二－八八
外交日誌　八九－九二

第九八一号　一九六〇年一二月号

巻頭言　国際異質化と日本外交の再検討〔武内文彬〕　五－五
特集　冷戦の新段階と米ソ新戦略
国際冷戦の新段階〔那須聖〕　六－一三
最近における米国の戦略構想〔小谷秀二郎〕　一四－二二
最近におけるソ連の戦略理論〔完倉寿郎〕　二四－三〇
米ソの核兵器競争〔久住忠男〕　三一－三七
米ソのCBR戦体制〔松本要〕　三八－四三

米ソ心理戦の現段階〔森永和彦〕 四四－四九
国際政治・時の人 ブラジル新大統領になったジャニオ・クアドロス 二三－二三
時事英語 米大統領選よもやま話〔磯部佑一郎〕 五〇－五一
〝国連〟はどこへ行く〔三好修〕 五二－五九
国連軍創設への試案〔岡本順一〕 六〇－六七
外交要語解説 六八－六九
西ドイツ宰相アデナウアー（その九）第二次世界戦争・強制収容所へ送らる〔鹿島守之助〕 七〇－七九
あ・ら・かると 国家の自尊心・賢い言葉・国のトランジスター化 八〇－八一
昭和外交史（四）満州某重大事件〔戸川猪佐武〕 八二－八八
外交日誌 八九－九二

第九八二号　一九六一年一月号

巻頭言 新年に想う〔武内文彬〕 五－五
国連は世界の平和維持に耐えるか－第一五回国連総会をみて〔入江啓四郎〕 六－一一
日本とAA諸国との関係〔大蔵公望〕 一二－一三
座談会 日本外交の新路線〔大島昭・岡田任雄・渡辺誠毅・鈴川勇〕 一四－二五
あ・ら・かると 紙一重の波紋・見果てぬ夢・アイクを国務長官に 二六－二七
アラビア石油と日本の石油産業〔藤岡泰周〕 二八－三四
外交的にみたアラビア石油〔森三郎〕 三五－三九

わが国における原子力とその課題〔石川一郎〕　四〇－四六
時事英語　アイクはこれからどうする？〔磯部佑一郎〕　四七－四九
一九六〇年　世界十大ニュースを回顧する〔小林庄一〕　五〇－五七
資料　マンスフィールド報告についての一問一答　五八－五九
書籍紹介　経済調査協会編『系列の研究』　五九－五九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一〇）強制収容所より脱走・
　ブラウウエイラー刑務所〔鹿島守之助〕　六〇－六八
国際政治・時の人　ケネディ・チームの原動力　サリンジャーとハッチャー　六九－六九
レニングラードの感慨〔田尻愛義〕　七〇－七二
中国で芝居してきて〔千田是也〕　七三－七五
外交要語解説　七六－七七
昭和外交史（五）軍縮紛争〔戸川猪佐武〕　七八－八四
宇宙時代におけるパワー・ポリティクス〔孔秋泉（伊藤皓文訳）〕　八五－八九
外交日誌　九〇－九二

第九八三号　一九六一年二月号

巻頭言　ケネディ政権発足と日米新フロンティア時代〔武内文彬〕　五－五
ケネディー新大統領の国家戦略－米外交、防衛政策の新展開〔佐伯喜一〕　六－一一
ドル防衛と世界経済の課題〔広田弘雄〕　一二－二〇

米国のドル防衛措置の原因と影響〔犬田章〕 二一－二八
ケネディ政権の外交理念（一）－その著書、論文、演説を中心にして〔大畑篤四郎〕 二九－三三
ラスク新長官のこと〔岡崎勝男〕 三四－三五
国際政治・時の人 ケネディ政権の顔ぶれきまる 三六－四一
あ・ら・かると コモンウェルス・ポリトビューロウ・共産圏の未来図と〝回教世界〟・〝強いアメリカ〟と〝平和の探究〟 四二－四三
自主外交で世界平和に貢献〔小坂善太郎〕 四四－四八
参考資料 ROSTER of the United Nations（1960. 9. 20） 四九－四九
ドゴールとアルジェリア－第五共和制の帰趨をめぐって〔西野照太郎〕 五〇－五四
ラオスの内戦が意味するもの－米ソ対立の激化と問題解決への道〔野上正〕 五五－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一一）ブラウウエイラー刑務所〔鹿島守之助〕 五八－六六
時事英語 アイヒマンの公判迫る〔磯部佑一郎〕 六七－六九
八一カ国共産党の共同声明について〔外交時報編集部〕 七〇－七五
外交要語解説 七六－七七
昭和外交史（六）風雲の急〔戸川猪佐武〕 七九－八五
外交日誌 八五－八八

第九八四号　一九六一年三月号

巻頭言 平和の条件〔武内文彬〕 五－五

ケネディ外交と日本〔蠟山政道〕　六－九
ニュー・フロンティア政策の課題－その世界史的背景と動向〔高山岩男〕　一〇－二〇
ケネディ経済政策の基本方向
－ビッグ・ガバメントによる経済成長政策の積極的展開〔石沢元晴〕　二一－二七
あ・ら・かると　大砲とバターを越えて・四つある米外交の指導中枢・バンドンとカサブランカ　二八－二九
ケネディ政権の外交理念（二）－その著書、論文、演説を中心として〔大畑篤四郎〕　三〇－三五
ケネディ外交への期待と限界〔帆足計〕　三六－四四
写真ページ　米国第三五代大統領に就任したジョン・F・ケネディ　四五－四五
ニューズ・レター　不毛の地から起ち上ったモーリタニア回教共和国
〔スミス・ヘンプストーン〕　四六－四七
背水の陣をしくドゴール－国民投票は「ウィ」だったが〔松尾邦之助〕　四八－五三
国際政治・時の人　フルシチョフ首相の後継者？コズロフ書記　五四－五四
時事英語　ブロードウェイと第五街〔磯部佑一郎〕　五五－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一二）再び市長となり再び罷免せらる〔鹿島守之助〕　五八－六六
宇宙法の発展〔池田文雄〕　六七－七三
外交要語解説　七四－七五
昭和外交史（七）満州事変おこる〔戸川猪佐武〕　七六－八一
資料　ケネディ大統領の就任演説（全文）　八二－八五
資料　ケネディ大統領一般教書（全文）　八六－九二

外交日誌　九三－九六

第九八五号　一九六一年四月号

巻頭言 コンゴ問題の世界性と歴史性〔武内文彬〕　五－五
中国外交の新しい胎動－ケネディ政策（ママ）を契機として〔植田捷雄〕　六－一〇
日中貿易関係の現在および将来〔宿谷栄一〕　一一－一七
中国をめぐる外交路線〔河合良成・高碕達之助・田尻愛義・新関八洲太郎・似田博〕　一八－三〇
時事英語 その後のアイク夫妻〔磯部佑一郎〕　三一－三三
知日大使に期待する〔西春彦〕　三四－三四
Main Goals of U. S. Ambassador to Japan〔Robert Klaverkamp〕　三五－三五
中国をめぐる国際情勢〔曾禰益〕　三六－四一
中国における経済建設の現段階〔山内一男〕　四二－四九
あ・ら・かると ワシントンの〝ニュー・ムード〟・スチブンソンの〝頭痛のたね〟・〝アグレマン〟の外交哲学　五〇－五一
西ドイツ宰相アデナウアー（その一三）キリスト教民主同盟の結成〔鹿島守之助〕　五二－六〇
国際政治・時の人 臨時アルジェリア政府首相 フェルハト・アバス　六一－六一
外交要語解説
ヨーロッパ経済統合の底流と問題点〔佐藤和男〕　六二－六三
経済難局ととり組むケネディ政権　六四－七三

－一般教書、経済特別教書、国際収支と金問題に関する教書を読んで〔中島邦蔵〕　七四－七五
昭和外交史（八）陸軍の殺し屋たち〔戸川猪佐武〕　七六－八二
日中関係十五年の俯瞰（上）高姿勢から静観まで〔山村治郎編〕　八三－八九
国際時報　八九－九七
外交日誌　九三－九八

第九八六号　一九六一年五月号

巻頭言　ライシャワー大使を迎えて〔武内文彬〕　五－五
日米関係の経済的新条件〔前田寿夫〕　六－一三
国際政治における日本の方向－新らしいアメリカを訪問して〔中曾根康弘〕　一四－一七
国連のだいどころ〔伊藤政雄〕　一八－二二
時事英語　イギリスこぼれ話〔磯部佑一郎〕　二三－二五
ニュー・フロンティアの二つの意味－前田義徳・ケネディ会談より　二六－二八
国際政治・時の人　英連邦から脱退を言明した南ア連邦　フルウールト首相　二九－二九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一四）占領軍政並びに社会民主党に対する闘争〔鹿島守之助〕　三〇－四〇
日中関係十五年の俯瞰（下）〔山村治郎編〕　四一－四五
あ・ら・かると　ナセルの〝回教工作〟・きつねとタヌキ・〝一粒の麦〟　マグレブ　四六－四七
ニューズ・レター　うぶごえ間近かなシエラレオネ〔スミス・ヘンプストーン〕　四八－五〇

昭和外交史（九）国際連盟を脱退〔戸川猪佐武〕　五一－五七
外交要語解説　五八－五九
ケネディ大統領の国防予算特別教書（全文）　六〇－六七
国際時報　六八－七四
新刊紹介　石沢元晴『現代米ソ経済論』　七五－七五
外交日誌　七六－八〇

第九八七号　一九六一年六月号

巻頭言　反乱時代と外交〔武内文彬〕　五－五
ドイツと日本の百年－民主国家への歩み〔蠟山政道〕　六－一一
日独経済外交の課題〔平原毅〕　一二－一七
外交時報誌に寄するドイツ連邦首相のメッセージ　一八－一八
西独戦後の社会情勢と労働運動〔石黒拓爾〕　一九－二五
西ドイツ経済発展の諸条件〔林雄二郎〕　二六－三一
あ・ら・かると　ケネディの憂鬱・拡がった〝延安方式〟・ゲリラ戦術の問題点　三二－三三
西独（ドイツ連邦共和国）再軍備の思想〔井本熊男〕　三四－四一
岡崎国連大使　期待と横顔　四一－四一
国際政治・時の人　ガルブレイス駐印米大使　ケネディ・キャンプのアジア通　四二－四二
時事英語　言葉談義－ライシャワー大使を迎えて〔磯部佑一郎〕　四三－四五

日本繊維産業の現況－その自由化への展望と対策　四六－五五
〔賀集益蔵・原吉平・松村敬一・吉田初次郎〕
外交要語解説　五六－五七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一五）新ドイツ憲法の制定〔鹿島守之助〕　五八－六八
昭和外交史（一〇）協和外交・嵐に立つ〔戸川猪佐武〕　六九－七四
国際時報　七五－八五
外交日誌　八六－九〇

第九八八号　一九六一年七月号

巻頭言　韓国のクーデター－その真相と将来〔武内文彬〕　五－五
今後の日米関係と貿易政策〔佐藤喜一郎〕　六－七
現在の国際情勢に底流するもの－韓国クーデターをめぐって〔森恭三〕　八－一一
ガリオア問題の焦点〔杉山茂雄〕　一二－一七
ガリオア・エロアの内幕（その一）〔広瀬嘉夫〕　一八－二八
時事英語　アメリカ人とは〔磯部佑一郎〕　二九－三一
韓国軍クーデターの真相と性格〔康玄哲〕　三二－三八
国際政治・時の人　若冠三八歳の陸軍中将・張都暎韓国新首相　三九－三九
西ドイツ宰相アデナウアー（その一六）新ドイツ建設の方向〔鹿島守之助〕　四〇－五一
あ・ら・かると　二つの正面・三つの議論・キューバとスエズ　五二－五三

国連事務総長論〔岡本順一〕　五四－六四
昭和外交史（一一）日独防共協定成る〔戸川猪佐武〕　六五－七一
外交要語解説　七二－七三
外交往来　七四－七五
国際時報　七六－八一
国連第一五回総会の足あと　八二－八七
外交日誌　八八－九二

第九八九号　一九六一年八月号

巻頭言　世界的発火点－ベルリンと台湾〔武内文彬〕　五－五
特集　世界外交を支配する思想と人物
ケネディ－平和競争の将来を決定するもの〔茂木政〕　六－一〇
フルシチョフ－力の立場からの平和共存外交〔原子林二郎〕　一一－一七
マクミラン－東西冷戦の緩和に努める英国〔西春彦〕　一八－二五
ドゴール－独裁者とその欧州中心主義〔杉浦徳〕　二六－三三
アデナウアー－西欧中心主義と両独統一問題〔木本三郎〕　三四－三九
毛沢東－新民主主義論と中立否定外交〔蔵居良造〕　四〇－四六
ネルー－社会主義型社会と中立主義〔栗本弘〕　四七－五二
国際政治・時の人　〝イタリアの奇跡〟と〝正直アントニオ〟セニ・イタリア外相　五三－五三

あ・ら・かると　中ソ三つの紛争地点・フルブライトと外蒙古・モンゴリアと米蔣関係　五四－五五
どこへ行くケネディ外交－K・Kウィーン会談が書いた〝現代冷戦白書〟〔三好修〕　五六－六三
人種的差別撤廃の問題－両大戦の間を中心として〔内藤智秀〕　六四－七一
ガリオア・エロアの内幕（その二）〔広瀬嘉夫〕　七二－七六
西ドイツ宰相アデナウアー（その一七）連邦共和国の成立〔鹿島守之助〕　七八－八七
時事英語　イギリス人とは〔磯部佑一郎〕　八八－九一
外交要語解説　九二－九三
昭和外交史（一二）国民政府・相手にせず〔戸川猪佐武〕　九四－一〇〇
外交時報総索引（一九六〇年八月～六一年七月）　一〇一－一〇三
国際時報　一〇四－一一〇
外交日誌　一一一－一一六
巻末附録　昭和外交主要人事一覧表〔秦郁彦〕

第九九〇号　一九六一年九月号

巻頭言　満州事変三〇周年〔武内文彬〕　五－五
世界平和確立のために－欧米の旅より帰りて〔小坂善太郎〕　六－八
欧州経済統合をめぐる外交政策〔荒木信義〕　九－一五
対談　激動する国際情勢と日本の進路（上）〔曾野明・小林庄一〕　一六－二三
あ・ら・かると　ブルギバの手紙・漸進主義者の苦悩・ベルリン危機と宣伝攻勢　二四－二五

外交要語解説　二六－二七
特集　満州事変三〇周年
座談会　満州事変三〇周年〔片倉衷・松木俠・星野直樹・山口重治〕　二八－四一
満州事変と関東軍〔片倉衷〕　四二－五〇
参考資料　宣言　満蒙三千万民衆の楽土建設〔本庄繁〕　五一－五一
満州建国の理念とそれをめぐる人々〔松木俠〕　五二－五七
満州事変の想い出　関東軍の不敵な対策－瀋海鉄路の快足復興〔山口重治〕　五八－五八
満州事変の想い出　清潔な関東軍〔星野直樹〕　五九－五九
満州事変の想い出　満州事変・七花八裂〔石巌山人〕　六〇－六一
西ドイツ宰相アデナウアー（その一八）連邦総理に就任〔鹿島守之助〕　六二－七二
国際政治・時の人　ベールをぬいだ実力者・朴正熙　韓国国家再建最高会議議長　七三－七三
ガリオア・エロアの内幕（その三・終）〔広瀬嘉夫〕　七四－八三
昭和外交史（一三）米・英・ソとの対立〔戸川猪佐武〕　八四－八九
国際時報　九〇－九五
外交日誌　九六－一〇〇

第九九一号　一九六一年一〇月号

巻頭言　ベルリン紛争と全般的・完全軍縮問題〔武内文彬〕　五－五
経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）の背景と課題〔佐藤和男〕　六－一七

対談　激動する国際情勢と日本の進路（下）〔曾野明・小林庄一〕　一八－二六
転期（ママ）に立つソ連－視察旅行から帰って〔桑原季隆〕　二七－三三
あ・ら・かると　東独脱出者激増を好まぬ西側・〝進歩のための同盟〟の抜け穴・プエルトリコと中南米　三四－三五
特集　アジアはアメリカに何を望むか
中国－敵視と猜疑との悪循環　対決の場面へ〔植田捷雄〕　三六－四一
台湾－しのび寄る危機意識　外交的危機に直面〔近藤俊清〕　四二－四六
ラオス－鍵にぎる中立主義　問題解決への可能性〔斉藤吉史〕　四七－五一
日本－自由・民主主義の自信の確立　日米緊密化と理解の問題〔那須聖〕　五二－五八
国際政治・時の人　シリル・アドゥラ・コンゴ中央政府新首相　五九－五九
西と東・東と西　難民群とボストーク　六〇－六一
ウオッチ・タワー　第四回米州経済会議の意義〔谷野英雄〕・二〇年後のソ連経済・ポンド防衛の新路線・ＩＭＦ改革の問題化・黒人問題に悩むアメリカ　六二－六七
西ドイツ宰相アデナウアー（その一九・終）自由への唯一の道〔鹿島守之助〕　六八－七九
外交要語解説　八〇－八一
綿製品国際貿易会議の教訓－ジュネーヴ会議に使して思う〔村山高〕　八二－八六
昭和外交史（一四）複雑怪奇〔戸川猪佐武〕　八七－九三
外交日誌　九四－九八

第九九二号　一九六一年一一月号

巻頭言 国連所感〔武内文彬〕　五－五
ソ連共産党新綱領の世界史的意義〔江口朴郎〕　六－一一
座談会 ベルリン・核実験・軍縮〔佐伯喜一・関野英夫・渡辺誠毅〕　一二－二二
二つの朝鮮・二つのドイツ・一つの中国〔田尻愛義〕　二三－三三
あ・ら・かると 政治参謀本部と自由諸国共同体・ケネディ大統領をしぼる米議会・冷戦対策にカーペットを　三四－三五
ウオッチ・タワー 核実験再開の背景と今後・英連邦の行方・「東南アジア連合」の発足・ブラジル大統領の更迭をめぐって・インドの綿業はどうなる　三六－四一
欧州共同市場による経済統合と政治統合〔荒木信義〕　四二－四七
ソビエトの核実験再開と日本の輿論〔高橋末光〕　四八－五三
外交要語解説　五四－五五
国連一六年の歩み〔岡本順一〕　五六－六三
現下の国際情勢とインド経済〔野木寛〕　六四－六九
国際政治・時の人 グラール・ブラジル大統領　七〇－七〇
昭和外交史（一五）三国同盟へ突入〔戸川猪佐武〕　七一－七七
国際時報 アドゥラ統一コンゴ政府成る・米ソ宇宙競争年表（付・資料一覧）・戦後東西軍縮交渉史（含・核実験停止の足どり）　七八－九〇
外交日誌　九一－九四

第九九三号　一九六一年一二月号

巻頭言　一般的・全面軍縮に転機〔武内文彬〕　五－五
国際連合の機構改革問題〔入江啓四郎〕　六－一三
軍縮問題の現状と将来－冷戦の道具にするなかれ〔久住忠男〕　一四－一九
国際政治・時の人　ウ・タント暫定国連事務総長　二〇－二〇
時局対談　アンバランス・東と西〔三木武夫・森恭三〕　二一－三〇
時事英語　核実験の妖雲〔磯部佑一郎〕　三一－三三
一九六一年度・国際経済協力の進展－国際会議の回顧と問題点〔荒木信義〕　三四－三九
日米経済合同委の意義　四〇－四一
ＮＡＴＯ最近における諸問題〔西郷次郎〕　四二－五三
低開発国における軍の役割－東南アジア諸国を中心に〔前田寿夫〕　五四－六一
ウオッチ・タワー　西独の低開発国援助における新傾向・国際決済に悩む中共・はかどらぬコンスタンチーヌ計画・イタリアの経済発展　六二－六五
問題をかかえる中共の近況〔蔵居良造〕　六六－六七
燃えあがるか南ベトナム〔梶谷善久〕　六八－六九
外交要語解説　七〇－七一
昭和外交史（一六）謀略の日ソ中立条約〔戸川猪佐武〕　七二－七八
資料文献　ソ連と資本主義諸国の経済競争〔Ａ・ノートキン〕　七九－八八
国際時報　八九－九二
外交日誌　九三－九六

資料

『外交時報』総目次―戦後編(二)

――一九六二年一月第九九四号～一九六七年一二月第一〇四七号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

第九九四号　一九六二年一月号

巻頭言　創刊六五年の新春に想う〔武内文彬〕　五―五
特集　一九六二年の世界情勢を打診する
日本外交の背後に在るもの―新年に際して国際情勢を思う〔蠟山政道〕　六―七
国連・三つのポイント―中国代表権・核兵器・事務総長〔入江啓四郎〕　八―一〇
海外論調　一一―一一
新春対談　日本外交の焦点〔小坂善太郎・細川隆元〕　一二―一六
時の人　マカパガル新大統領―フィリピンの〝ケネディ〟　一七―一七

特集　一九六二年の平和を脅すもの
ドイツ・ベルリン問題の再検討－期待される冷戦緩和〔斉藤孝〕　一八－二〇
核実験と軍縮問題の行く方－世論にのぞむ〔久住忠男〕　二一－二三
苦難と戦う中共の活路－ぬかるみは尚も続く〔古田時夫〕　二四－二六
緊迫化するベトナム情勢－末期症状のゴ政権〔梶谷善久〕　二七－二九
Ａ・Ａ諸国をめぐる五つの問題－中立をまもる〔宮川隆泰〕　三〇－三二
ガット閣僚会議の収穫－対日三五条の撤回を協議　三三－三三
対共産圏貿易の将来（一）一九六二年・日ソ貿易の問題点〔岩野武一〕　三四－三五
対共産圏貿易の将来（二）日中貿易の見通し〔明野義夫〕　三六－三九
貿易の自由化と経済成長－金解禁とはどう事情が違うか〔金森久雄〕　四〇－四二
写真ページ　ソビエトの市民生活　四三－四三
転換する世界経済－ＥＥＣをめぐるアメリカの動向と日本〔前田寿夫〕　四四－四九
ウオッチ・タワー　欧州共同市場と農業問題・ＯＥＣＤ会議の狙い　五〇－五一
対談　十字路に立つ日本の経済・外交〔堀江薫雄・小幡操〕　五二－六〇
写真ページ　紛争にゆらぐ日本の海外投資（ポルトガル領ゴア）　六一－六一
あ・ら・かると　超核爆弾の主目標は中共・従属的中立主義・平和部隊その後・ハリマン米国務次官補　六二－六三
アメリカ経済外交の新局面－注目される新貿易政策の胎動〔佐藤和男〕　六四－六八
海外論調　六九－六九

特集　一九六二年の危機を探る
アラブ世界の台風の目－シリア・エジプト・アルジェリア〔石田重光〕　七〇－七二
混迷するコンゴの背景－ますます深刻化する内部事情〔小谷秀二郎〕　七三－七五
インドネシアを動かすもの－〝指導された民主主義〟のゆくえ〔永田芳男〕　七六－七八
赤い風にそよぐ人民たち－ラテン・アメリカにくすぶる火の手〔岡部広治〕　七九－八一
アルバニア問題はどう発展する－カギをにぎる中共の動向〔木村明生〕　八二－八四
日ソ貿易は伸びる〔桑原季隆〕　八五－八七
世界経済における地域化の理論－経済共同体は今後どう展開するか〔赤松要〕　八八－九二
時事英語解説　Post-Card Incidentと平和部隊〔磯部佑一郎〕　九二－九四
池田首相の東南アジア旅行－池田親善外交の成果　九五－九五

第九九五号　一九六二年二月号

巻頭言　グローバルな国際経済戦略を〔武内文彬〕　五－五
ネール外交の将来－ゴア事件は合法か非合法か〔田村幸策〕　六－九
時の人　ドブルイニン駐米ソ連大使　九－九
特集　日韓問題の生態
朝鮮をめぐる危機の実態－「現状維持」は可能か〔鎌田光登〕　一〇－一四
日韓会談のゆくえ－両国民の理解と提携のために〔金三奎〕　一五－一七
この眼で見た韓国の近況－東西対立の谷間にある民衆たち〔村上薫〕　一八－二一

時の人 サラザール・ポルトガル首相　二一－二一
イスラエル外相ゴルダ・メイヤ女史を迎えて〔小金義照〕　二二－二三
対談 難関に当面する日本の経済と外交〔藤山愛一郎・細川隆元〕　二四－二七
アジアの盲腸＝台湾〔鄭飛龍〕　二八－三二
新刊紹介 谷林正敏監修、日本貿易会編『欧州経済統合と英国の加入
－ＥＥＣ・ＥＦＴＡ・英連邦』　三二－三三
ウオッチ・タワー 一九六二年ヨーロッパ経済の見とおし－ＥＥＣの進展　三三－三三
写真ページ ニューギニア〝今・昔〟　三四－三五
座談会 欧州経済統合と日本経済の立場〔安倍勲・谷林正敏・伊原隆・寺尾一郎〕　三六－四九
特集 日本の輸出市場をさぐる
アメリカ－景気上昇に期待する〔大上仁〕　五〇－五四
ヨーロッパ－輸出はばむ高い「壁」〔湯川智〕　五五－五八
共産圏－きびしい西欧との競争〔明石正夫〕　五九－六三
東南アジア－甘くはない今後の見通し〔椿博行〕　六四－六七
中南米－拡大進出の期待〔佐々木潤〕　六八－七一
中近東－悪化する輸出環境〔山下房暲〕　七二－七五
アフリカ－不均衡な片道貿易〔玉井忠男〕　七六－七九
時の人 ケネディ米司法長官、クレイ米陸軍大将　七一－七一
ボイス・オブ・ザ・ワールド　七五－七五

海外経済論調　一九六二年アメリカ経済の見通し－断言できる景気上昇　八〇－八一
アメリカの輸入自由化政策とその法的側面〔佐藤和男〕　八二－九一
ＩＭＦ強化案とその問題点〔荒木信義〕　九二－九四
平和のための原子力－わが国における原子力開発の現状と海外諸国の開発の特色〔米沢弘人〕　九五－九九

第九九六号　一九六二年三月号

巻頭言　アジア旋風時代〔武内文彬〕　五－五
朝鮮半島における南北経済戦－五ヵ年計画にかける韓国　七ヵ年計画にかける北鮮〔前田寿夫〕　六－一四
日ソ貿易問題の核心を衝く－平和と繁栄への道開く大きく変ったソ連の経済と貿易〔山本熊一〕　一五－一九
香港だより　二〇－二一
国際社会に生きる道－日本外交は国連中心に努力せよ〔森恭三〕　二二－二三
日本の領土問題と平和外交の路線
－沖縄・千島・南カラフトの主権者は誰か　米ソ対立の間に立つ日本外交の歩み〔田尻愛義〕　二四－二九
沖縄の祖国復帰問題（付記・参考資料　自由人権協会調査報告書要旨）〔帆足計〕　三〇－三八
近刊紹介　ロバート・Ｗ・キャムベル『ソビエト経済入門』　三八－三九
海外資料　ケネディ大統領記者会見（二月二一日・抜粋）　三九－四一
時の人　ファンファーニ・イタリア首相　四一－四一
海外経済論調　四二－四三
時の人　ヘッダ・アルジェリア臨時政府首相　四三－四三

新段階に入った欧州経済統合〔荒木信義〕　四四－四八
時の人 トンプソン駐ソ米大使　四八－四八
次の世代のリーダーたち（一）
　明日の西ドイツの宰相－アデナウアーの座を狙う五人の男のプロフィル〔三宅正樹〕　四九－五三
ストラスブルグより帰りて－欧洲議会見聞記〔伊部時代〕　五四－五五
北オーストラリア高原開発計画〔河相達夫〕　五六－六二
時の人 アジュベイ・イズベスチャ紙編集長　五八－五八
アメリカ人間衛星をめぐる話題　六三－八五
国際関係の所産としての「日本国憲法」－その制定経過に対する考察と反省〔清水伸〕　八六－九一

第九九七号　一九六二年四・五月号

巻頭言 人間自身の征服〔武内文彬〕　五－五
日本の経済外交〔関守三郎〕　六－一二
時の人 トンク・ラーマン マラヤ連邦首相　一二－一二
霞ヶ関夜話　一三－一三
日本の領土問題を截る
　－沖縄・小笠原の日本復帰と北方領土問題の早期解決を望む〔床次徳二〕　一四－一九
米新政策に対する見解と対策（一九六二・三・二四）〔沖縄自民党〕　一九－二〇
随筆 ラオスの日の丸〔飯村繁〕　二一－二一

時局放談 この眼で見た世界の動き〔高垣金三郎・武内文彬〕 二二－三六
時の人 フーシェ・アルジェリア高等弁務官 三六－三六
霞ヶ関夜話 三七－三七
ＥＥＣと戦う日本経済
－大きな歴史的な流れをつかまないと、真実の姿が逃げてしまう〔桑原季隆〕 三八－四二
随筆 名議長宣言す〔加納久朗〕 四三－四三
欧州共同市場の対外政策〔功力喜久男〕 四四－四九
時の人 解任されたクロル前駐ソ西独大使 四九－四九
日本綿業－今後の進路〔村山高〕 五〇－五四
テレビ番組「問題と答え」におけるハリマン国務次官補の談話 五五－五九
黒い嵐に襲われたベルギー
－コンゴの大密林に流された赤い血 ベルギーに消えさらぬ黒い傷あと〔白井近夫〕 六〇－六四
海外経済論調 六五－六九
ホットコーナー ビルマのクーデター 七〇－七一
追込まれた中国経済〔土井章〕 七二－七七
スポット・ライト 七五－七五
時の人 ビルマ革命委員会議長 ネ・ウィン将軍 七七－七七
最近の国際金融と通貨問題〔丁野清春〕 七八－八一
ホットコーナー シリア・アルゼンチンのクーデター 八二－八三

資料文献　ソ連と世界経済〔S・ヴィシュネフ〕　八四－九一
国際資料　沖縄問題・エカフェ総会　九二－九七

第九九八号　一九六二年六月号

巻頭言　日ソ関係の打開〔武内文彬〕　五－五
火を吹くラオス　短期駐兵…チャンスあり　長期駐兵…第二の朝鮮事変へ〔武ノ内文与志〕　六－七
北洋漁業をめぐる日ソ関係－世論を起こし、権益を守れ〔大平善梧〕　八－一六
霞ヶ関夜話　一七－一七
中ソは妥協できない－フルシチョフ・毛沢東　せめぎあう二つの赤い星〔桑原寿二〕　一八－二四
時の人　ナジム・エル・クドシ　シリア大統領　二三－二三
海外ニュース　ヨーロッパの防衛問題（五月一七日　ケネディ大統領記者会見より）　二五－二五
高まるアジアの経済協力－ＯＡＥＣの構想は必要であり、可能である〔栗本弘〕　二六－三一
ＥＥＣを背景とする西ドイツの新航路（ノイエル・クルス）〔鬼丸豊隆〕　三二－三九
時の人　セホ・マリア・ギド　アルゼンチン大統領　三七－三七
時の人　ファレス　アルジェリア臨時行政府主席　三九－三九
占領下・沖縄の教育－切々胸をうつ現地の声〔長谷川峻〕　四〇－四七
近刊紹介　Ｔ・Ｃ・シェリング、Ｍ・Ｈ・ハルペリン『戦略と軍備管理』／ハーマン・カーン『軍備競争とその危険性』〔伊藤皓文〕　四八－五一
座談会　科学時代に秘密はない－政治・産業スパイ戦に勝つは愛国心

〔松島慶三・古谷多津夫・河村愛三・深町譲・池田貞枝・五島広作〕 五二－六四
海外経済論調 六五－六七
新移民政策を断行せよ－日本経済発展の支柱 今後二十年の勝負〔二宮謙〕 六八－七七
ホット・コーナー アラスカの日本漁船捕獲事件 七八－七九
毛沢東の〝矛盾論〟をただす－竹内氏の訳文について〔加賀美嘉富〕 八〇－八八
時の人 ジョルジュ・ポンピドゥ フランス首相 八三－八三
アジア生産性機構の組織と活動〔同事務局〕 八九－九四
国際資料 国連人権セミナー・軍縮委十七カ国に対する
核停協定成立要望の口上書・南米主要移住地分譲条件比較 九五－九八
国際日誌 九五－九八
スピーカー 九九－九九

第九九九号 一九六二年七月号

巻頭言 国際新風と国連〔武内文彬〕 五－五
時論 反省を要するアメリカ外交－東南アジアが求めるもの〔森恭三〕 六－九
日本経済と通商拡大法の圧力〔武山泰雄〕 一〇－一五
米宇宙飛行士第二号カーペンター少佐－その人と家庭 一六－一七
岐路に立つ大西洋同盟〔林三郎〕 一八－二五
韓国の〝政治浄化〟と日韓交渉の将来〔松本博一〕 二六－二九

ベルリンだより　三〇－三一
対談　声価高まる日本の国連外交〔岡崎勝男・武内文彬〕　三二－四二
時の人　サリンジャー米大統領報道官、ラダクリシュナン・インド大統領　四三－四三
沖縄はアメリカの防波堤ではない－住民に深い失望感〔帆足計〕　四四－四九
参考資料　沖縄問題の積極的解決法についての要望〔沖縄教職員会〕　四九－五一
ソ連の新詩人－作品と横顔
　バービィ・ヤール〔エヴゲーニイ・エフトウシェンコ（村井隆之訳）〕　五二－五三
　ビートでないビート詩人　エフトウシェンコと会うの記〔草鹿外吉〕　五四－五五
ソ連の提唱・「国際貿易機関」－ＥＥＣの脅威を繞って〔青海太郎〕　五六－五七
日中貿易の必然性〔蔵居良造〕　五八－六一
転換する米国の対西欧経済政策－ニュー・フロンティアの大西洋的拡大〔荒木信義〕　六二－六五
「軍縮のための世界婦人集会」に参加して〔田中島あさ子〕　六六－六六
時の人　板垣修フィリピン大使・杉道助日韓会談首席代表　六七－六七
難問山積するラオス情勢　六八－六九
国際要語ＡＢＣ〈Ａの項〉　七〇－七〇
資料文献　ソ連外国貿易の発展〔Ｇ・ルビンシュタイン、Ｍ・バクシト〕　七一－七八
国際資料　沖縄問題、海外開発問題、軍縮平和問題、沖縄新民政官　七九－八三
国際日誌　七九－八二
スピーカー　八四－八四

第一〇〇〇号　一九六二年八月号

巻頭言 ケネディの外交音色〔武内文彬〕　五－五
時論 力に正しい位置を与えよ〔鈴田芳人〕　六－七
平和勢力と戦争勢力〔曽野明〕　八－一二
時の人 フォイ・D・コーラー駐ソ米大使・シャノン・B・マキューン沖縄民政官　一三－一三
対談 なくなる恐怖の均衡 核軍事戦略の転換－A・M・Mの急速な開発で〔佐伯喜一・渡辺誠毅〕　一四－三八
時の人 河合良成日ソ貿易促進使節団々長・柿坪正義国連大使　三九－三九
欧州共同市場と日本農業－近代化に必要な世界的視野〔竹山祐太郎〕　四〇－五〇
外交用語ABC〈Bの項〉　五一－五一
アメリカ施政権の本質〔横田喜三郎〕　五二－六四
写真ページ アメリカの国立公園　六五－六七
時局放談 漁業権と領土問題は分離せよ－モスクワより帰りて高碕代表は語る〔高碕達之助〕　六八－七三
変貌するソ連憲法－戦時非常体制から平和共存体制へ〔大川透〕　七四－八〇
外交時報復刊号 総目次〈一九六一年八月号～一九六二年七月号〉　八一－八四
国際資料 ラスク国務長官記者会見抜粋　八五－九一
国際日誌　八五－八九
スピーカー　九二－九二

第一〇〇一号　一九六二年九月号

巻頭言 欧州経済新秩序〔武内文彬〕　五－五
時論 米国の世界的指導性
－キメ手のないキューバ・ベルリン 国際経済政策から世界経済政策〔武内文彬〕　六－七
日本産業の新秩序－官民協調体制の強化と推進〔紅林茂夫〕　八－一三
後進国援助を重視せよ－日本経済外交の活路〔桑原季隆〕　一四－一八
時の人 勝野康助ノルウェー駐在大使・高瀬侍郎セイロン駐在大使　一九－一九
外交座談会 超党派外交の場を求めて〔床次徳二・帆足計・長谷川峻〕　二〇－三四
時の人 ムニョス・グランデス・スペイン副総統、ビノグラードフ駐日ソ連大使　三五－三五
現地に見る日本の経済外交－イランの石油開発、韓国の産業開発〔湯川康平〕　三六－四〇
特集 わが国本年度上半期における輸出環境の実態
東南アジア－カギ握る経済協力の進展〔湯川智〕　四二－四六
中近東－輸出さまたげる対日差別〔中根友造〕　四七－五一
アフリカ－活路はプラント輸出〔久司正夫〕　五二－五七
西欧－成果みのる協定交渉〔玉井忠男〕　五八－六三
北米－クリスマス景気が問題〔小泉允雄・川守田莞璽〕　六四－六九
共産圏－西欧諸国との貿易競争〔中村喜和〕　七〇－七四
中南米－望ましい工業化への参加〔橋村和寿〕　七五－七九
オセアニア－秩序ある輸出体制を〔後藤雄〕　八〇－八三

第一〇〇二号　一九六二年一〇・一一月号

巻頭言　貿易自由化と日中貿易〔武内文彬〕　五－五
時論　悲劇・中印国境戦の激突－解決は「国連」ネール首相への期待〔西郷数馬〕　六－七
日韓交渉　波紋に留意　対日請求権問題〔宇都宮徳馬〕　八－一二
時の人　金鍾泌韓国中央情報部長、ベンベラ・アルジェリア首相　一三－一三
座談会　新しい日中関係の核心を衝く〔松村謙三・野田武夫・似田博〕　一四－二一
時の人　黄田多喜夫外務審議官・松井明国連大使　二二－二二
経済外交研究座談会　〝経済外交〟の全容を展望する
〔野田武夫・関守三郎・松村敬一・高橋幸司・秋元茂・山本廉・湯川康平〕　二三－四一
特集　日中貿易問題の検討
日中貿易関係の背景－協定破棄から「友好商社」取引へ〔青海太郎〕　四二－四七
日中貿易打開の機到る－伏兵的発作を警戒せよ〔武内文彬〕　四八－五二
日中輸出入貿易の内容　五三－五七
発展する平和部隊　五八－五八
特集　キューバ事件
キューバ危機は斯うして起った　六〇－六〇
一週間の危機・新世界時代への黎明！〔毛利恭二〕　六一－六一
核戦争への冒険＝一週間の危機－キューバ事件の真相と経緯　六二－六八
キューバ事件日誌　六九－六九

キューバ事件資料集　七〇－八三

第一〇〇三号　一九六二年一二月号

巻頭言　世界外交の転機　三大事件は教える〔武内文彬〕　五－五
時論　日英通商条約成る－マクミラン首相曰く新「日英同盟」である〔武内文彬〕　六－七
本年日本が締約した三大条約を顧みて－本年成立した条約実に百にのぼる〔中川融〕　八－一四
時の人　ウッズ次期世界銀行総裁・クズネツォフソ連第一外務次官　一五－一五
「日中貿易」新段階に入る－再び中共に使いして〔野田武夫〕　一六－一七
座談会　新「日中貿易」を衝く－見て来た中共の飛躍〔岡崎嘉平太・田林政吉〕　一八－二九
写真集　池田首相のヨーロッパ訪問旅行　三〇－三一
予期以上の成果を収めた池田首相の西欧訪問－将来への軌道は敷かれた　三二－三七
時の人　与謝野秀オリンピック組織委員会事務局長・宮崎章トルコ駐在大使　三八－三八
波瀾をよんだ中印国境紛争－その経緯と主張点〔中村四郎〕　三九－四三
中印国境武力衝突に対する各国の態度と世論　四四－四九
中道主義の勝利　米中間選挙の結果－ジンクス破った民主党　五〇－五二
日本をめぐるエアー・ライン　五三－五三
モスクワへの旅〔帆足計〕　五四－六三
日米貿易経済会議の成果－ボカされた共同声明　ケネディ発言は尾を引くか〔毛利恭二〕　六四－六五
国際資料集　今年（一九六二年）成立した三大条約　日米ガリオア協定・

日タイ特別円協定・日英通商居住及び航海条約　六六－八五
国際資料集　池田首相訪欧演説集　八五－九〇
科学ページ　九一－九一

第一〇〇四号　一九六三年一・二月号

巻頭言「平和の勝利」の年に〔武内文彬〕　五－五
動きつつある中共外交の実体を衝く〔蔵居良造〕　六－一三
日韓会談の焦点をさぐる
－無意味な個人プレーをやめ正常ルートによる解決を重視せよ〔中保与作〕　一四－一九
対談　一九六三年の世界経済と日本
－国際的視野に立ち国内体制を整備せよ〔大来佐武郎・高垣金三郎〕　二〇－三三
アメリカから見た中ソ論争の実体　三四－三七
新しい韓国の表情－韓国訪問より帰りて〔船田中〕　三八－四一
南極大陸に立ちて－昭和基地の再開を想う〔長谷川峻〕　四二－四七
座談会　一九六三年の国際情勢を分析する
－米・ソはキューバ問題から何を学んだか〔佐伯喜一・林三郎・帆足計〕　四八－六六
プラウダ社説「平和と社会主義の勝利のための共産主義運動の統一を強化しよう」
〈一九六三年一月七日〉　六七－八三
国際的に重要化したラテン・アメリカ対策〔沢田節蔵〕　八四－八九

モスクワからカイロへの旅〔帆足計〕　九〇－九九

第一〇〇五号　一九六三年三・四月号

巻頭言「欧州第三勢力」生る〔武内文彬〕　五－五
日中貿易問題の核心を衝く－戦後から松村・高碕覚書まで〔山口宏〕　六－一五
日米綿製品交渉の背景と展望〔青木佐久太郎〕　一六－二三
転機に立った世界外交－燃ゆる欧州を繞りて〔武内文彬〕　二四－三〇
躍動する日ソ貿易－一〇億目標の安定輸出へ〔林寧樹〕　三一－三七
責務と好機の年－63'のケネディ大統領〔坂西志保〕　三八－三九
アジアの六巨頭・素描－毛沢東／劉少奇／周恩来／ホー・チミン／金日成／ユムザジン・ツエデンバル　四〇－四七
海外「移住理念」の革命－「棄民」から開発協力時代へ〔高木広一〕　四八－六二
世界の国・一覧表　六三－六八

第一〇〇六号　一九六三年五・六月号

巻頭言　重大な「中ソ論争」－本格的研究を欠く日本〔武内文彬〕　五－五
国際新段階〔大井篤〕　六－一五
日仏通商協定成る－秩序ある輸出体制へ　一六－二一
特集　戦史研究　二二－二三

外国の戦史研究と第二次大戦の文献について〔西浦進〕　二三－三〇
『太平洋戦争への道』の完成を迎えて〔小林龍夫〕　三一－三四
アメリカのガットへの関心－ガット閣僚会議と米国の立場〔X・Y・Z〕　三五－三七
中共の鼓動－政治・外交・経済　三八－三九
特集　米国の観た日本経済
日本経済への期待と希望
－経済同友会での演説〔ハーター米大統領通商特使〕　四一－四六
米国の極東戦略と対外援助
－米下院外交委員会における証言全文〔ヒルズマン極東担当国務次官補〕　四六－五一
日本の寄与と期待－日米民間経済団体報告　五一－五三
世界貿易における日本の使命－在日アメリカ商業会議所、日米協会、経済団体連合会、東京商工会議所共催昼食会での演説〔フランクリン・D・ルーズベルト米国商務次官〕　五三－五七
日米貿易政策について－東海北陸知事会議の演説〔ライシャワー駐日米大使〕　五七－五九
日本は国際経済競争に強い国－日本セールズ幹部協会国際交流委員会発会式演説〔A・Z・ガーディナー経済担当駐日米公使〕　五九－六〇
アメリカ宇宙人第四号　クーパー少佐とはこんな人　ツルーディ夫人も立派な飛行士　六一－六一
キューバ事件以後・経過表　六二－七五

第一〇〇七号　一九六三年七・八月号

巻頭言　中共を「孤立化」すな〔武内文彬〕　五－五
特集　米・英・ソ「部分的核実験停止条約」調印
　米英ソ「部分的核実験停止条約」の意義〔森恭一〕　六－一一
　米英ソ「部分的核実験停止条約」関係文献集　一二－二六
新ローマ法王　パウロ六世－ローマを全人類の〝父の家〟に　二七－二七
対談　世界経済の方向と日本の経済外交〔大島昭・渡辺武〕　二八－四四
米「黒人問題」は何処へ〔雨宮米吉〕　四五－四九
黒人問題の全米的挑戦－全米市長会議のケネディ演説　五〇－五三
中共きのう・きょう〔前田盛三〕　五四－五七
メキシコ・ブラジル・アルゼンチン－日本の企業進出・可能性を探る〔高橋幸司〕　五八－六二
「バチカン」に革命的新風－ヨハネス二三世の偉業を讃えよう〔M・E・パトリシア〕　六三－六六
特集　米・欧関係　真実と背景－ケネディ米大統領の訪欧　六七－九〇
平和の戦略－弱きものに安全を　強きものに正義を〔J・F・ケネディ〕　九一－九七
LASER光線－今世紀最大発明の一つ　九八－九九
統計で見る「カトリック」王国　一〇〇－一〇六

第一〇〇八号　一九六三年九・一〇月号

巻頭言　無限の期待へ〔武内文彬〕　五－五

この眼で見たキューバ〔宇都宮徳馬〕　六－一六
日米綿製品取り決め－その経緯・内容・問題点〔相模次郎〕　一七－一八
日米綿製品取り決め調印に当つて－福田通産大臣は語る　一八－一九
日米綿製品取り決め要綱　一九－二二
太平洋地域における米国の政策〔ロジャー・ヒルズマン〕　二三－三二
アジアを斯く見る－ヒルズマン極東担当国務次官補を囲んで〈八月一三日ボイス・オブ・アメリカ放送番組　ＵＳＡ記者会見〉　三二－三八
統計からみたアメリカ大学の留学生－ニューヨーク国際教育協会報告　三九－三九
若返えりつゝあるアメリカ－全米市長会議に出席して〔大久保伝蔵〕　四〇－四五
海外技術協力と日系移民子弟の役割〔高橋幸司〕　四六－四九
アジアで初めて開かれた「世界連邦」世界大会〔湯川晴雄〕　五〇－五一
世界連邦と完全軍縮〔湯川秀樹〕　五二－五二
世界平和への道〔元英首相アトリー〕　五三－五三
世界連邦大会「東京宣言」　五四－五五
中共きのう・きょう〔前田盛三〕　五六－五七
中共の経済は好転した〔Ｘ・Ｙ・Ｚ〕　五八－六四
中国の旅－人民公社の見学など〔帆足計〕　六五－七三
特集　中ソ「声明」合戦－「中ソ論争」の頂点「戦争と平和」論の帰結
中共の「核停条約」反対声明〈全文・一九六三年七月三一日〉　七四－七七

中共政府スポークスマンの声明〈全文・一九六三年八月一五日〉　七七－八九
ソ連の中共声明に対する反駁声明〈全文・一九六三年八月二一日〉　八九－一〇四

第一〇〇九号　一九六三年一二月号

巻頭言　ＯＡＵの団結と攻勢－焦点はアジアへ　五－五
中・ソ論争〝決裂〟も〝断交〟もない－周恩来首相の重大発言〔武内文彬〕　六－八
特集　池田首相西太平洋四カ国訪問　九－二八
日本の観た国際課題－国連総会の一般討論演説〈全文〉〔大平正芳〕　二九－三六
国際連合「年次報告」序文〔ウ・タント〕　三七－四七
ＩＭＦ総会・報告
先進国と後進国の連帯を強靱に〔田中角栄〕　四八－四八
ＩＭＦ総会における田中蔵相の演説〈全文〉〔田中角栄〕　四九－五〇
ＩＭＦ総会におけるジロン米財務長官の演説〈全文〉〔ダグラス・ジロン〕　五一－五七
ＩＭＦ第一八回年次報告　五八－五九
対談　日中貿易の現状と展望〔岡崎嘉平太・武内文彬〕　六〇－六八
沖縄視察より帰りて〔野田武夫〕　六九－七四
微妙なエアハルト外交－西独首相の更迭　成功はア前首相との親密度〔たけのうち・さちを〕　七五－七八

第一〇一〇号　一九六四年一月号

日本自主外交の一前提－一九七〇年の危機に備えるために〔蠟山政道〕　一－三
座談会 ,64年度の国際情勢展望
－両陣営の欠陥の是正による均衡〔森恭三・鈴川勇・武内文彬〕　四－一八
現地報告 変った中共の姿－北京の日本工業展に使して〔上村幸生〕　一九－二五
ＥＥＣとアフリカ諸国〔桑原重美〕　二六－四一
ケネディ暗殺の波紋－この目で見たアメリカの表情〔小辻誠祐〕　四四－四九
綜合特集 ジョンソン米新大統領を語る　五〇－五四
附載 米議会両院合同会議における大統領演説〈全文・一九六三年一一月二七日〉　五五－五七
ジョンソン米大統領の一九六四年度一般教書〈全文・一九六四年一月八日議会提出〉　五八－六三
ケネディからジョンソンへ－ケネディ前大統領の偉業 暗殺を予想していた？　六四－六五

第一〇一一号　一九六四年二・三月号

座談会 ドゴール外交の波紋と日本外交の進路
〔鹿島守之助・宇都宮徳馬・岡田宗司・帆足計・永末英一・武内文彬〕　二－二四
フランスの中国承認にひそむもの－日本外交の生きるべき絶好の機会〔小幡操〕　二五－三一
中共承認の海外論調　三二－三四
新聞論調にみる日本の反響　三四－三五
パナマ運河事件の示唆するもの－中南米におけるアメリカの苦悩〔帆足計〕　三六－四三

日米貿易経済合同委員会の成果〔A・Z・ガーディナー〕　四四－四八
原子力潜水艦寄港問題の展望－日米交渉史の上に残された大きな足跡〔加茂英史〕　四九－五六
外交秘話（一）降伏文書調印と最初の終戦連絡〔岡崎勝男〕　五七－六八

第一〇一二号　一九六四年四月号

再び日・中・米・ソ四カ国同盟を提唱する〔石橋湛山〕　二－三
座談会　中共承認とその後の国際情勢を分析する〔三木武夫・西春彦・宇都宮徳馬・帆足計〕　四－二二
解決を迫られるベトナム問題の背景〔永坂昭〕　二三－二七
ＥＥＣとアフリカ諸国（承前）〔桑原重美〕　二八－四一
東の目・西の目　四二－四三
最後の勝利を握るもの－ジョンソン米大統領の記者会見　四四－五四
外交秘話（二）吉田内閣の出現と平和条約締結の舞台裏〔岡崎勝男〕　五六－六二
戦後日本外交二十年史（年表）一　六三－八〇

第一〇一三号　一九六四年五月号

マッカーサー元帥の逝去を悼む〔岡崎勝男〕　二－三
座談会　開放経済下における日本農業の課題〔那須皓・山地進・伊東正義・中村吉次郎〕　四－二四
資料　一九六四年度米国の対外援助－巨額だが史上最少のものになる　二五－二五
大詰にきたＩＬＯ批准問題－互いに国際信用を守ることに努力せよ〔秋定鶴造〕　二六－三〇

欧州証券市場の新動向－開放経済下の日本市場に示唆するもの〔宮沢待郎〕　三二－三九
北と南の関係の開放体制－国連貿易開発会議に出席して〔ジョージ・ボール〕　四〇－四五
世界連邦ニュース　国会に呼びかける世界連邦運動　四六－四七
外交秘話（三）山崎内閣の不成立と吉田内閣の実現〔岡崎勝男〕　四八－五四
戦後日本外交二十年史（年表）二　五六－七一

第一〇一四号　一九六四年六月号

岐路にたつ日本の対中国外交－松村謙三氏にきく中共の新動向〔松村謙三〕　二－七
ネールさんと世界連邦〔田中正明〕　八－九
苦悶するインド外交のゆくえ－ネールの死とその後に来るもの〔小西健吉〕　一〇－一五
国際信用を阻害するもの－貿易におけるクレーム問題〔坂本義行〕　一六－一九
国際経済の新しき展開－ＥＥＣとアメリカ経済の対立〔宮沢待良〕　二〇－二六
中共の世界観〔マーシャル・グリーン〕　二七－三一
ＥＥＣとアフリカ諸国（三）〔桑原重美〕　三二－五〇
資料　米国の雇用数・大幅に増加－三九ヵ月間に一千億ドルの利益　五〇－五〇
外交秘話（四）石油利権の獲得と国連大使就任〔岡崎勝男〕　五二－六〇
戦後日本外交二十年史（年表）三　六一－七二

第一〇一五号　一九六四年七・八月号

座談会 祖国復帰を訴える百万沖縄同胞〔神山政良・伊豆見元一・宮良長欣〕　二－一四
わが政治哲学〔リンドン・B・ジョンソン〕　一五－一九
EECとアフリカ諸国（四）〔桑原重美〕　二〇－三五
トピック ベルリン問題は依然重大　三六－三七
二十世紀の錬金術－満十年を迎えた余剰食糧援助計画〔X・Y・Z〕　三八－四〇
転機に立つ日本の経済外交－対米偏向を調整して自主性を確立せよ〔帆足計〕　四一－五七
外交秘話（終回）印象にのこる国連初演説、文書に「先進国日本」〔岡崎勝男〕　五八－六四
戦後日本外交二十年史（年表）四　六五－八〇

第一〇一六号　一九六五年一月号

巻頭言 危機か転換か〔武内文彬〕　三－三
国際外交・二つの焦点－中共の核実験とソ連政変〔武内文彬〕　四－八
本年の農林外交の問題点－ケネディ・ラウンドと国際漁業交渉〔村上洋〕　九－一四
日韓問題と北鮮の位置〔宇都宮徳馬〕　一五－一九
本年の国際外交の焦点〔塩口喜乙〕　二一－二六
太平洋経済協力機構－豪州の提議で段階的推進〔太平進〕　二七－二七
問題山積の本年の国際金融〔金本博〕　三〇－三五
成田・周会談の全容－第四次社会党訪中使節団　三六－四一

対談　成田社会党書記長に聞く－訪中の旅の成果〔成田知己・武内文彬〕　四二－四八
新情勢と中国をめぐる国際関係〔蔵居良造〕　四九－五七
アメリカ　アジアについての二つの意見
　激動下の世界を正しく認識しよう〔ライシャワー〕　五八－六〇
　中国には柔軟政策で…〔ヒルズマン〕　六〇－六一
沖縄の当面する諸問題－またまた沖縄を訪れて〔帆足計〕　六二－六九
佐藤内閣の成立－新内閣の施政演説
　佐藤首相の所信に関する演説　七一－七四
　椎名外相の外交に関する演説　七四－七七
　田中蔵相の財政に関する演説　七七－八〇

第一〇一七号　一九六五年二月号

巻頭言　南ベトナム火を吹く〔武内文彬〕　三－三
外交における自主性とは何か〔小幡操〕　四－一〇
山田前駐ソ大使に聞く－ソ連の新外交路線〔山田久就〕　一一－一四
南ベトナムから帰りて－この目で見た実体〔長谷川峻〕　一五－二〇
第三回日英定期協議－日英共同コミュニケ　二一－二一
北ベトナムの表情〔西村関一〕　二二－二三
対談　この目で見た中国の真実を語る〔原吉平・武内文彬〕　二四－二七

ド・ゴールは何を考えているか？－エリゼ宮・千人の記者会見談〔太平進〕　二八－二九
ド・ゴールの記者会見記　三〇－三〇
ド・ゴールへジョンソンの応酬　三一－三一
日米共同声明〈全文〉　三二－三四
日米共同声明に関する橋本官房長官談話メモ（一九六五年一月一四日）　三五－三五
特集　佐藤総理の渡米（演説集　東京－ワシントン）　三六－五二
アフリカで想う〔野田武夫〕　五三－五七
世紀の巨人－チャーチルを悼む〔太田進〕　五八－六〇
中国・インドネシアの新関係〔林寿夫〕　六一－六三
教書は米議会に流れる－ジョンソン政策の全容
　ジョンソン大統領の年頭一般教書（一月四日）　六五－七二
　ジョンソン大統領の就任演説（全文）（一月二〇日）　七三－七五
　ジョンソン大統領の予算教書（一月二五日）　七六－八二

第一〇一八号　一九六五年三月号

巻頭言　絶体絶命のベトナム〔武内文彬〕　三－三
フルブライト発言と欧州三共同体の統合－暗黒に輝く二つの星〔森恭雄〕　四－五
台湾は誰のものか－台湾の国際法的地位を探る〔田尻愛義〕　六－一〇
対談　台湾を繞る国際関係－安保条約で日米談合せよ〔田尻愛義・宇都宮徳馬〕　一一－一九

新局面を迎えた日本の外資政策〔金本博〕　二〇－二二
特集　日本紡績業の隘路と血路　二三－二三
紡績業当面の問題点－世界綿業の新しい動きと関連して〔室賀国威〕　二四－二六
世界綿業の動きと日本繊維産業の将来〔田和安夫〕　二七－二九
日本の東西貿易の飛躍　三〇－三一
沖縄と千島の国際法的地位－その差異と問題点〔帆足計〕　三二－四四
中国向けプラント・輸出商談（表）　四五－四七
中華人民共和国職員録（一九六四年一二月現在）　四八－四九
米国務省「ベトナム白書」（全文）（一九六五年二月二七日発表）　五〇－七二

第一〇一九号　一九六五年六月号

巻頭言　世界を覆うツェックメーシッヒ〔武内文彬〕　三－三
ベトナム問題・何処へ行く－明瞭になったアメリカ政策の内容〔武内文彬〕　四－一一
永久平和とベトナム問題〔エドガー・フォール〕　一二－一三
わが国の対外経済協力の新方向－ベトナムなど見て来た後進地域の実体・起案を急ぐ「対外協力基本法」の内容〔野田卯一〕　一四－一八
日中貿易の危機とその打開の急務〔高碕欣之助〕　一九－二三
特集　転機に立つベトナム問題
転機を迎えたベトナム　二四－三〇

対立する「交渉開始条件」　三〇－三三
米国・ベトナム介入の真目的　三三－三九
内政　暗黒のクーデター時代　三九－四二
大戦後の仏の策謀とアジア民族主義　四二－四六
外交－初期からジュネーブ協定へ　四六－五一
ジュネーブ協定の内容　五一－五三
ベトナム基本資料－世界各国の主張とその根拠
第一部　米国の声明・演説・証言・公開状・論文・付　非同盟国アピール　五五－七八
第二部　中・ソ・ベトナム諸国の主張・付　民間権威者の主張　七九－八七
第三部　日本の部　八八－九一

第一〇二〇号　一九六五年七月号

巻頭言「回心の奇蹟」ド・ゴールを軸として〔武内文彬〕　三－三
光る－ニューヨーク・タイムス　高き指導性　高次な表現〔武内文彬〕　四－五
ソ連二つの発言　核戦争は不可能だ－全面的・完全軍縮の達成へ　六－七
構造的不況要因下の日本紡績業当面の問題点〔三木哲持〕　八－一一
米上院外交委員会を沸かせた私のベトナム報告〔松本俊一〕　一二－一六
中国核実験と日本の立場
付・湯川博士ら平和アピール七人会の「原爆被災白書」計画〔松井明〕　一七－一七

中国ミサイル弾頭原爆実験に成功〔沢田周二郎〕　一八－二二
米国の中共観－「米中戦争」が起こっても「第三次大戦」にはならない
中共の世界観（一九六四年五月一三日　ワシントンの〝日米協会〟における演説・全文）
〔マーシャル・グリーン〕　二四－二八
東アジアの進歩と問題－その中の中共批判（一九六四年九月二九日・
東京における演説中の中共批判の部分）〔ウィリアム・P・バンディ〕　二八－三三
米政策立案上の問題としての中共（一九六五年二月二六日・
米国のプリンストン大学における演説全文）〔マーシャル・グリーン〕　三三－三九
中国の新ベトナム観－周恩来首相曰く「世界戦争」は起らない　四〇－四一
特集　米国のアジア開発－援助の目的とアジア観
総括　米国新アジア開発援助計画－その沿革と性格と成功の条件〔太平進〕　四三－四五
東南アジアに対する計画－十億ドル援助を中心として
（一九六五年四月七日演説）〔リンドン・B・ジョンソン〕　四五－四七
国際政治における新興諸国の役割（一九六五年三月一五日・
独フライブルク大学での演説・全文）〔ウオルト・W・ロストウ〕　四七－五二
太平洋地域における米国の政策（一九六三年八月一二日・
ホノルル全米立法会議第一六回年次大会における演説）〔ロージャー・ヒルズマン〕　五三－五七
ベトナムに対する援助（一九六四年三月二六日・フォレスタル・
メモリアル・アワーズ昼食会における演説の一部）〔ロバート・S・マクナマラ〕　五八－六二

東南アジアの現状と将来（一九六五年四月一九日・デトロイト経済クラブでの演説・全文）〔レオナルド・アンガー〕　六二－六九
アジアにおける経済開発（一九六五年四月二三日・東京での講演・全文）〔ウオルト・W・ロストウ〕　六九－七六
資料　インドシナに関する一九五四年のジュネーブ協定（全文）　七七－九一

第一〇二一号　一九六五年八月号

巻頭言　ベトナム・転換の一瞬〔武内文彬〕　一－一
ド・ゴール旋風について考える〔小幡操〕　二－七
日米航空協定と議員外交〔長谷川峻〕　八－一六
日韓条約の調印と今後の日韓関係〔村常男〕　一七－二二
ベトナム紛争に立向う米外交官　二三－二五
アンケート　何処に往くか日本外交
－ベトナムの危機・日本外交の行方に　日本を代表する百三十氏の提言
〔秋山謙蔵・秋山光材・明石総一・雨宮庸蔵・有木宗一郎・池田善昭・伊手健一・生島廣治郎・今井勝郎・伊藤皓文・今里勝雄・石田栄雄・上田修一郎・宇野重昭・内田繁隆・梅原一雄・梅沢達雄・浦野起央・衛藤瀋吉・越智元治・沖野亦男・岡本幸雄・大畑篤四郎・岡本順一・大林洋五・大島忠雄・奥原唯弘・尾上正男・大浦敏弘・小幡操・岡部達味・大塩亀雄・大久保弘一・小川芳彦・大平善梧・大石義雄・植田捷雄・景山哲夫・

神川正彦・甲斐静馬・川上壮一郎・神谷不二・金戸嘉七・海妻去彦・亀倉四郎・加藤寛・金田近二・河相達夫・嘉納孔・川崎一郎・金井英隆・北沢直吉・気賀健三・北岡寿逸・菊地正・岸田修・金三圭・金晋根・許世楷・金珍寧・北川均・工藤昭四郎・郡司喜一・小寺初世子・草間秀三郎・斉藤栄三郎・坂本龍起・渋沢信一・塩沢清宣・坂田善三郎・斎藤忠・桜井光堂・完倉寿郎・末松満・清家唯一・菅谷重平・鈴木英史・住吉良人・関寛治・高木惣吉・田尻愛義・高木友三郎・谷本圭介・田島信雄・田中勇・土居明夫・内藤智秀・難波田春夫・中山治一・西田勲・西田毅・畑中政春・半谷高雄・畑田重夫・原覚天・広井大三・肥後和男・日比野正明・広瀬善男・藤瀬五郎・星野清・本田弘敏・春木猛・松葉秀文・水飼幸之助・三潴信吾・牧内正男・元川房三・前芝確三・村瀬興雄・松本三郎・宮崎繁樹・三宅正樹・山口一之・安岡正篤・横尾和歌子・吉原恒雄・渡辺誠毅・江須准・逸名氏（八名）〕　二六－五〇

ヒマラヤの王国「ネパール」の現情〔神原達〕　五一－五六

在墺・独三年の帰朝報告（一）現地に見た西ドイツ

第一部　西ドイツをめぐる国際政治〔三宅正樹〕

世界経済展望　五七－六八

資料　日韓条約（一九六五年六月二二日調印）　六九－七五

新刊書評　田村幸策著『ソビエト外交史研究』　七六－八八

資料　ベトナム派兵五万増加のジョンソン米大統領記者会見（全文）（一九六五年七月二八日）　八九－八九

資料　ウ・タント国連事務総長あてジョンソン米大統領の書簡文（一九六五年七月二八日付）　九〇－九六

九六－九六

第一〇二二号　一九六五年九月号

巻頭言　米の「ベトナム白書」戦－中間選挙を前に〔武内文彬〕　一－一
特別寄稿　戦後二十年のドイツ問題と米ソ対立の歴史的変遷
〔ウエルナー・コンツェ（三宅正樹訳）〕　二－二〇
核停止条約後二年〔斎藤忠〕　二一－三二
日米航空協定改定問題
航空協定の本質について〔藤島宇宙〕　三三－四一
日米航空協定の〝不平等性〟－須らく協定は破棄すべし　破棄こそ最良の外交交渉〔三好貞雄〕　四二－五七
沖縄の現地を観て〔安井謙〕　五八－六四
佐藤総理大臣の沖縄に於ける声明と挨拶　六四－六七
日韓問題と日本のアジア外交〔宇都宮徳馬〕　六八－七三
日韓条約批准問題
韓日条約批准の不手際を衝く〔金三奎〕　七四－七七
韓日関係は今後如何にあるべきか〔権逸〕　七七－八二
韓日条約批准反対の真相〔康玄哲〕　八二－八七
シンガポールの独立と東南亜の華僑－独立の背景分析を中心として〔王瑜〕　八八－九二
ナホトカ印象記〔萩原康則〕　九三－九八
在欧三年の帰朝報告（二）現地に見た西ドイツ　第二部　西ドイツの市民生活〔三宅正樹〕　九九－一〇八
資料　ベトナムにおける米軍の実態

―ラスク国務、マクナマラ国防両長官のテレビ・インタビュー（一九六五年八月九日） 一〇九―一二〇

第一〇二三号　一九六五年一〇・一一月号

巻頭言 今日こそ「国連革新」の時〔武内文彬〕 三―三

新生国家における革命の類型学〔浦野起央〕 四―二二

日本の政治の動向〈フォーリン・アフェアーズ一九六五年一〇月号掲載元原稿〉〔岸信介〕 二三―三一

国民運動と日韓条約批准問題〔賀屋興宣〕 三二―三九

宇都宮徳馬代議士に寄す―自由主義者の本質と日本外交の根本理念を問う〔山本勝市〕 四〇―四五

日米不平等条約特集 その二

公海自由の原則を貫き不平等是正に一歩一歩進もう〔浜地文平〕 四六―四七

日米加漁業条約の不平等性〔浅野長光〕 四八―五四

日米友好通商航海条約―その主要規定の現代的意義〔菊地正〕 五五―六一

印パ戦争七つの遺産〔江頭数馬〕 六二―七一

批准直後の韓国を訪ねて―日本のアジア外交を想う〔関戸辰蔵〕 七二―七六

中ソ論争におけるベトナム労働党の立場〔木村哲三郎〕 七七―八五

中共の対「ベトナム」戦略―その綜合的・立体的解明〔太田勝洪〕 八六―九六

ホー・チミンをめぐる暗闘〔岡本順一〕 九七―一〇〇

アジア・アフリカには自由な道が開けている―その社会文化史的経験〔大島忠雄〕 一〇一―一一一

在欧三年の帰朝報告（三）現地に見た西ドイツ 第三部 西ドイツの言論界〔三宅正樹〕 一一二―一二〇

第一〇二四号　一九六六年一月号

巻頭言　天・人共に許さざるチベットの悲劇〔斎藤忠〕　四－五
毛沢東革命路線の理論と現実〔小林多加士〕　六－一九
米中必戦論－一九六六年は米・中激突必至の歳〔石原広一郎〕　二〇－二五
日韓条約はどうして作られたか〔大平正芳〕　二六－三一
外交論議と国会〔木下広居〕　三二－三九
孫中山伝記（一）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　四〇－四七
随想　新年の創造的英知－世界国家へ〔武内文彬〕　四八－四八
新生国家群の動向分析（一）アフリカにおける胎動のパターンとその過程〔浦野起央〕　四九－七〇
資料　包括的核実験停止条約に関するフオスター米代表の演説訳文
（一九六五年一一月二五日国連総会政治委員会）
スターリン・ポツダム・ドイツ〔佐瀬昌盛〕　七〇－七一
ポーランドにおける産業開発と化学工業の発展〔近藤一衛〕　七二－八二
オランダ－小さな一流国〔喜多村和之〕　八三－九六
アフリカを遍歴して－新生ザンビアを訪れた最初の日本未婚女性〔野田みどり〕　九七－一〇七
一〇八－一一二

第一〇二五号　一九六六年二月号

巻頭言　中共軍事介入の可能性〔斎藤忠〕　一－一
日ソ外交の新展開〔牧内正男〕　二－五

日本の海外技術協力〔渋沢信一〕　六－一一
政党員の言論の自由について〔山本勝市〕　一二－一六
大国主義と民族国家との対立時代－世界は統合化か分極化か〔高木友三郎〕　一七－二〇
素人外相論－附・外交に予算をおしむ愚を論ずる〔石橋貞男〕　二一－三一
日米通商条約における商事仲裁条項と日米貿易仲裁協定及び仲裁規則との関係〔菊地正〕　三二－三八
新生国家群の動向分析（二）中東における政治力学と展開の類型（上）〔浦野起央〕　三九－四六
中ソ論争とキューバ－キューバ危機以後露呈した中ソ論争とカストロ政権〔今村之治〕　四七－五四
資料　アジア国会議員連合第一回総会〈共同声明他〉　五五－六七
資料　北ベトナム爆撃再開に関するジョンソン米大統領声明全文（一九六六年一月三一日）　六八－六九
資料　ラスク国務長官記者会見（全文・一九六六年一月二一日）　六九－七三
二十世紀が忘れているパプア〔I. S. Marino〕　七四－七六
孫中山伝記（二）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　七七－八四
在欧三年の帰朝報告（四）現地に見たオーストリア
　第一部　永世中立国オーストリアの成立〔三宅正樹〕　八五－九六

第一〇二六号　一九六六年三月号

I propose to establish a clear-cut national defence force in Japan〔Sadao Miyoshi〕　四－五
主張　国防省・国防軍創設の急務〔三好貞雄〕　六－七
日本が当面する最大の問題－祖国防衛の大事〔斎藤忠〕　八－二三

明治国防政策史の考察－「帝国国防方針」と佐藤鉄太郎の国防理論〔伊藤皓文〕　二四－三五
資料　第三次防衛力整備計画に関する防衛生産委員会の要望意見　三六－三八
ベトナム戦争と中共の出方〔土居明夫〕　三九－四二
インドネシア経済再建の道〔斎藤栄三郎〕　四三－四七
ナセル大統領会見記〔長谷川峻〕　四八－五一
二十三回ソ連共産党大会を迎えるブレジネフ・コスイギン新指導部〔佐野真〕　五二－五八
ソ連新政権外交の基調と動向〔萩原康則〕　五九－六六
新生国家群の動向分析（三）中東における政治力学と展開の類型（下）〔浦野起央〕　六七－八五
中共のチベット併合始末記〔森久夫〕　八六－九一
特別寄稿　日露戦争とポーランドの抗露親日運動〔ジョージ・J・レルスキ（横尾和歌子訳）〕　九二－一〇八

第一〇二七号　一九六六年四月号

Editorial: A Rule and Limit of Diplomatic Debates must also be observed by the Opposition Party〔Sadao Miyoshi〕　三－五
巻頭言　政権をとった社会主義政党と永久に政権をとれない社会主義政党－野党の外交論議の限界について〔三好貞雄〕　六－七
三たびアジア国家連合の結成を提唱する－アジア文明の建設を目標として〔廣田洋二〕　八－二九
特集　国防軍創設の急務
各国の国防機構〔加藤陽三〕　三〇－三七

総帥機関の創設こそ先決問題〔渡辺渡〕　三八－四〇
経済外交とその効果－東南アジアを中心として〔今井勝郎〕　四一－四六
ドイツ問題の行方〔朝広正利〕　四七－五六
外交の主導権は誰が握るべきか－外務省の機構拡大強化論〔石橋貞男〕　五七－六七
新生国家群の動向分析（四）A・A諸国の登場と結集をめぐる動向（上）〔浦野起央〕　六八－七六
在欧三年の帰朝報告（五）現地に見たオーストリア　七七－八七
第二部　オーストリアにおける保守・革新の連立〔三宅正樹〕
特別寄稿　第二次世界大戦史の一考察－史料をめぐる諸問題と東西の両局面の統一的把握〔エーバーハルト・イエッケル（三宅正樹訳・解説）〕　八八－一〇〇
資料　一九五九年チベット国民ラサ蜂起七周年記念日－ダライ・ラマ声明文（一九六六年三月一〇日）（全文）〔森久夫訳・解説〕　一〇一－一〇一
イエッケル論文原文　一〇三－一一六

第一〇二八号　一九六六年五月号

Editorial: The Diet must now be dissolved〔Sadao Miyoshi〕　四－五
主張　進んで国会を解散すべし〔三好貞雄〕　六－七
沖縄防衛と施政権返還問題－運命共同体意識について日本国民に訴う〔大田政作〕　八－二六
特集　国防軍創設の急務
日本の外交と国防問題について〔谷川和穂〕　二七－三四

軍備コントロールと安全保障〔桃井真〕　三五－四一
資料　国防問題をどう考えるか－世論調査は国防意識の漸増を示す　四九－五六
資料　東南アジア開発閣僚会議－各国の反響・各紙の論調を観る　四二－四七
書評　日本国際連合協会訳編『国際連合二〇年の歩み』　四八－四八
資料　ソ連・モンゴル友好新条約－仮装敵国の変化　日本より中国へ　五七－五九
孫中山伝記（三）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　六〇－七〇
新生国家群の動向分析（五）A・A諸国の登場と結集をめぐる動向（下）〔浦野起央〕　七一－七八
資料　中共・新河川法を制定－中・ソ国境紛争更に激化か　七九－八〇
日本現代史への一視角（上）－政戦両略の考察〔角田順〕　八一－一〇〇
角田論文英文　一〇一－一〇六

第一〇二九号　一九六六年六月号

主張　非核武装国連盟の結成を提唱する〔三好貞雄〕　三－五
Editorial: A Proposal for an Alliance with Non-Nuclear Powers〔Sadao Miyoshi〕
核時代における日本の防衛〔田中直吉〕　八－一一
国連軍と日本－最近の国防論議に関連して〔関野昭一〕　一二－三一
ゲリラ戦争戦略と中ソ対立〔フランツ・マイケル（岡本順一訳）〕　三二－三六
東は西・西は東－〝ベトナムは日本自身の問題でもある〟〔J・D・ロックフェラー三世（大谷正義訳）〕　三七－四一

資料　中共の第三回核実験に関する各国の反響・各紙の論調を観る　四二－四五
資料　ベトナム問題をめぐる国際情勢日誌
－ジョンソン政権成立後の米国を中心として〔本社編集部〕　四六－五三
日米租税条約の再考察－その基本原則と諸修正条項に焦点を合わせて〔菊地正〕　五四－六五
チベットはどうして中共に奪われたか－亡命先インドより日本国民に寄す〔T・タクラー〕　六六－六九
奇蹟の国イスラエルで－新しい世界観を産んだ、キブツ〔手塚信吉〕　七〇－七六
随筆　孫文　阿部政務局長　ビハリ・ラス・ボース〔海妻玄彦〕　七七－八一
随筆　東条さんを私邸に訪ねて〔渡辺渡〕　八一－八二
随筆　鹿島守之助先生へ－新らしい無限の明日がある〔武内文彬〕　八三－八九
随筆　イタリー勲章に輝く鹿島卯女夫人〔宮坂陽子〕　八九－八九
日本現代史への一視角（下）－政戦両略の考察〔角田順〕　九〇－一〇二

第一〇三〇号　一九六六年七月号

巻頭言　日本の安全保障に関する中間報告（自民党）を読んで〔三好貞雄〕　四－五
Editorial: On the "Intermediate Report" Concerning National Security Prepared by the Liberal-Democratic Party〔Sadao Miyoshi〕　六－七
ソ連の現代外交政策を論ず〔尾上正男〕　八－二八
ペンタゴンの革命を覗く－電子計算機とORと政策決定〔福島康人〕　二九－三五
ローデシア問題の由来〔内藤智秀〕　三六－四〇

新刊紹介　長谷川峻著『米ソを相手に－国民的利益をもとめて』〔高橋武彦〕　四一－四一
資料　Containment Policy ――〝せきとめ政策〟の真意義　四二－四三
資料　中共・新疆ウイグル自治区　四四－四五
資料　アジア・太平洋地域の協力のための閣僚会議に関する各国の反響　四六－五一
資料　自由民主党安全保障に関する調査会「わが国の安全保障に関する中間報告」（一九六六年六月二二日・全文）　五二－六〇
モンゴルにおける終戦時の日本人－そこには日本人の汗と涙と血が〔春日行雄〕　六一－六八
特集　落花流水
資料解説　明石復命書－落花流水〔稲葉正夫〕　七〇－七〇
原本表紙　七一－七一
防衛庁戦史室所蔵本写真　七二－七二
明石元二郎大将遺稿『落花流水』（全文）　七三－一〇〇
諜報史上より見たる日露戦争
－とくに明石元二郎大将遺稿『落花流水』を中心として〔黒羽茂〕　一〇一－一一二
Colonel Akashi's Intelligence Service and His Work in the Russo-Japanese War
〔Shigeru Kuroha〕　一一五－一一八

第一〇三一号　一九六六年八月号

特集　中共政権の解剖

主張「政経分離」を止揚して『外交権』を確立せよ〔三好貞雄〕　三－五
Editorial : Politics and Economy to be Integrated for Diplomacy〔Sadao Miyoshi〕　六－七
中共の文化革命とソ連の「フ」路線－うつりゆく共産圏（分極化）〔山田久就〕　八－一一
中共の外交政策－暴力世界革命の方略〔斎藤忠〕　一二－一八
中国における社会主義観の発展系譜と毛沢東学習運動
－革命理論の深化と新共産主義移行論〔小林多加士〕　一九－二九
中国の国境紛争と国際政治（一）〔大畑篤四郎〕　三〇－四三
中共の軍隊－その思想と指導原則〔チャルマス・ジョンソン（横尾和歌子訳）〕　四四－五〇
中共「文化大革命」の実態をさぐる〔藤井彰治〕　五一－五八
参考資料　整風・文化大革命の経過　五九－五九
解放軍の学習運動と人民戦争論〔上別府親志〕　六〇－六七
中共の核開発と経済的諸問題〔前田寿夫〕　六八－七八
中国の農業問題〔蔵居良造〕　七九－八四
中共の工業化の現状と将来－「一窮二白」と工業化〔土井章〕　八五－九〇
ベトナム戦争における中共の態度〔浦野起央〕　九一－一〇五
孫中山伝記（四）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　一〇六－一一四
内側から見た新中国〔淡三郎〕　一一五－一二六
資料　アメリカン・アラムナイ・カウンシルに対するジョンソン米大統領の演説
「太平洋勢力としてのアメリカ」（一九六六年七月一二日）　一二七－一二九

最近のモンゴル人民共和国〔貞本尚〕　一三〇－一三三

第一〇三二号　一九六六年九月号

巻頭言　佐藤・西尾会談の意味するもの〔三好貞雄〕　三－三
Editorial：Sato-Nishio Conference〔Sadao Miyoshi〕　四－四
日韓経済提携の要諦－対韓経済協力は開発輸入に重点を指向すべきである〔中谷忠治〕　五－一九
モンゴル人民共和国成立史－ソ連と日本と民国の間の外蒙古〔後藤富男〕　二〇－三三
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究（一）〔菊地正〕　三四－四三
孫中山伝記（五）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　四四－五三
中国の国境紛争と国際政治（二）〔大畑篤四郎〕　五四－六〇
武器なき戦い－ベトナム農村における米国の非戦闘員〔ジョージ・K・タンハム（坂本忠次訳）〕　六一－七五
内側から見た新中国〔淡三郎〕　七六－八八
フイリッピン独立運動の実態と布引丸事件の真相（上）〔黒羽茂〕　八九－九六
書評　D・M・アブシャー、R・V・アレン著『国家の安全保障』〔浦野起央〕　九七－九八
書評　斎藤栄三郎著『占領下の日本－戦後二十年の証言』〔浦野起央〕　九八－九八
書評　リーヒヤルト・レーヴェンタール著『国際共産主義－モスクワ・北京・ベルグラード』〔小林多加士〕　九九－九九
資料　インドネシア九月三〇日クーデター特別軍事裁判公判記録抜萃　一〇〇－一一五

第一〇三三号　一九六六年一〇月号

巻頭言 パール博士を迎えて太平洋戦争再吟味の時来る〔三好貞雄〕　四－四
Editorial: The Pal Judgement - Now a High Time to Reconsider Results of the Pacific War〔Sadao Miyoshi〕　五－五
パール博士履歴　六－六
清瀬一郎宛パール博士メッセージ　七－七
パール博士を迎えてその業蹟を讃う〔清瀬一郎〕　八－一二
パール判決の意義〔田岡良一〕　一三－一六
パール博士と東京裁判〔一又正雄〕　一七－二五
パール博士会見記－一四年前カルカッタの自邸にて〔長谷川峻〕　二六－二九
パール判決書と昭和史〔角田順〕　三〇－三五
パール博士と世界連邦〔田中正明〕　三六－三九
平和部隊の発展のために－日本青年海外協力隊の現状と問題点〔末次一郎〕　四〇－五〇
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究（二）〔菊地正〕　五一－五七
フイリッピン独立運動の実態と布引丸事件の真相（下）〔黒羽茂〕　五八－六五
武器なき戦い（二）－ベトナムの平和部隊　ヴィン・ビン省にて〔W・ロバート・ウォーネ〕　六六－七六
書評 現代アジア社会思想研究会編『アジア社会の近代化と価値体系』〔浦野起央〕　七七－七七
続・続「内側から見た新中国」〔淡三郎〕　七八－八五
資料 チベットのヤルツァンプ江の架橋についての観察〔矢野光二〕　八六－八七

資料　中共文化革命批判－進歩的文化遺産の継承は必要　プラウダ所載論文　八八－八九
インドネシア・クーデターの真相（上）－ＰＫＩの活動とその滲透力〔Utusan Melayu 紙掲載〕　九〇－一〇六

第一〇三四号　一九六六年一一月号

巻頭言　毛沢東に与う〔三好貞雄〕　三－四
Editorial: To Mr. Mao Tse-tung〔Sadao Miyoshi〕　五－六
最近の西ドイツ外交について－アデナウアー外交からエアハルト・シュレーダー外交へ〔鹿島守之助〕　七－二〇
核戦略下における有事駐留論〔永末英一〕　二一－二八
自民党よ、政治の姿勢を正せ－自己防衛は国民の声〔永山忠則〕　二九－三四
国際綿連ロンドン会議に出席して〔有田円二〕　三五－三八
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究（三）〔菊地正〕　三九－四四
孫中山伝記（六）〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　四五－四九
資料　日本をどうみてるか－日本の外交的役割　五〇－五二
資料　国連総会におけるゴールドバーグ米大使演説全文（一九六六年九月二二日）　五三－五七
資料　全米論説記者会議におけるジョンソン米大統領の演説（全文）（一九六五年一〇月七日）　五八－六〇
武器なき戦い（三）－フー・ボン省にて〔アール・J・ヤング〕　六一－七六
続・続・続「内側から見た新中国」〔淡三郎〕　七七－八九
インドネシア・クーデターの真相（下）－九月三〇日深更から失敗の日まで

〔Utuson Melayu 紙掲載〕 九〇－一〇七

第一〇三五号　一九六六年一二月号

巻頭言　再び非核武装国連盟を提唱す〔三好貞雄〕 三－三
Proposing Again a Non-Nuclear Power Alliance〔Sadao Miyoshi〕 四－四
毛沢東の国内・国際路線の推進－中共の文化大革命と紅衛兵の本質〔廣田洋二〕 五－二五
ＡＰＵはアジアのかけ橋〔千葉三郎〕 二六－二八
毛沢東の思い出〔野田武夫〕 二九－三一
椎名外相を勤務評定すれば〔宮村文雄〕 三二－三九
燃料革命と日本の国際的地位－激動する東西両陣営の陣容〔延島英一〕 四〇－五五
マニラ会議とベトナム問題〔牧内正男〕 五六－六三
資料　マレーシア国家元首主催夕食会でのジョンソン米大統領演説（全文）
（一九六六年一〇月三〇日）
辺境国家モンゴルの課題－ラティモア『モンゴル』を読みて〔浦野起央〕 六四－六五
アジアの革命児プラタップ君の思い出〔今里準太郎〕 六六－六八
武器なき戦い（四）－クオン・ナム省〔ウイリアム・Ａ・ナイスウォンガー〕 六九－七三
七四－九三

第一〇三六号　一九六七年一月号

巻頭言　総選挙の争点は日本の防衛問題とせよ〔三好貞雄〕 三－三

Editorial：Defense of Japan to be the Issue for the General Election〔Sadao Miyoshi〕　四－四
日本外交史上における陸奥宗光の地位〔田村幸策〕　五－一五
中共の核実験と我国の態度〔高瀬伝〕　一六－一七
新国際通貨問題の行方－ＩＭＦの論争をめぐって〔長谷川光太郎〕　一八－二三
ベトナム問題の文脈〈一〉〔浦野起央〕　二四－三三
孫中山伝記〈七〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　三四－三八
中共を裸にする〔淡三郎〕　三九－四九
中共内部の権力闘争を衝く－文化大革命及び紅衛兵の実体〔黄洋〕　五〇－五三
中ソ国境の緊張と対立〈一〉〔ジョージ・Ｎ・パターソン（坂本忠次訳）〕　五四－六一
随想　ベトナムを中心にして〔向後英一〕　六二－六五
資料　アジア開発銀行創立総会におけるファウラー米財務長官の演説
〈一九六六年一一月二四日〉　六六－六八
資料　外人記者クラブにおけるユージン・ブラック米大統領顧問の演説　六九－七二
資料　東南アジア農業開発会議〈一九六六年一二月六日～八日〉
佐藤総理大臣演説　七三－七四
三木外務大臣挨拶　七四－七四
共同声明　七五－七五
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究〈一〉〔今村之治〕　七六－八六
通商条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〈四〉〔菊地正〕　八七－九一

第一〇三七号　一九六七年二月号

巻頭言 三度び非核武装国連盟を提唱し　三－四
三木外相の「非核外交推進」に期待する〔三好貞雄〕　五－一六
日米安保条約の期限到来と沖縄の施政権返還〔大田政作〕　一七－二七
国防と外交とは総選挙の基本争点〔田村幸策〕　二八－三二
危局に立つ議会政治を救え〔長谷川峻〕　三三－三六
総選挙と黒い霧とコンセンサス〔田尻愛義〕　三七－三七
バルト三国に対するソ連の武力征服〔シジカウカス（北岡寿逸訳）〕　三八－四二
ウクライナ独立運動と日本〔ヤロスラフ・ステッコ（横尾和歌子編訳）〕　四三－五一
資料　クルト・ゲオルク・キージンガー連邦首相の施政方針演説〈全文〉　五二－五二
資料　東南アジアの平和に対する米政策の一四の要件　五三－五九
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〈五〉〔菊地正〕　六〇－七〇
中ソ国境の緊張と対立〈二〉〔ジョージ・N・パターソン（坂本忠次訳）〕　七一－九一
ベトナム問題の文脈〈二〉〔浦野起央〕

第一〇三八号　一九六七年三月号

巻頭言 社会党の猛省を促がす〔三好貞雄〕　三－四
Editorial: Advice to the Japan Socialist Party〔Sadao Miyoshi〕　五－五
義和団事変〔植田捷雄〕　六－一六

西独の新連立政権とブラント外交－その東独接近と全欧州動力開発計画の提唱〔延島英一〕　一七－二八
海洋国家と大陸国家－日本とシナの運命〔倉前義男〕　二九－四一
資料　ジョンソン米大統領の一般教書〈全文・一九六七年一月一〇日議会提出〉　四二－五一
東欧へのかけ橋（ボン発）〔D・K〕　五一－五一
書評問答　社会と会社　広西氏『資本論の誤訳』を読んで〔高橋正雄〕　五二－五五
高橋正雄さんへの返書〔広西元信〕　五五－六〇
ベトナム問題の文脈〈三〉〔浦野起央〕　六一－八五
インドネシア地域遺骨収集の回顧〔石母田武〕　八六－九三

第一〇三九号　一九六七年四月号

巻頭言　ジョンソン大統領に与う〔三好貞雄〕　三－五
Editorial: To President Lyndon B. Johnson〔Sadao Miyoshi〕　六－七
核時代の外交－核拡散防止条約と下田発言〔斎藤忠〕　八－一三
核拡散防止条約の陥穽－調印は見送るべきである〔倉前義男〕　一四－二三
沖縄問題解決の方向と教育権返還の諸問題〔末次一郎〕　二四－三四
ベトナム問題の文脈〈四〉〔浦野起央〕　三五－四四
中ソ国境の緊張と対立〈三〉〔ジョージ・N・パターソン（坂本忠次訳）〕　四五－六四
孫中山伝記〈八〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　六五－七一
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〈六〉〔菊地正〕　七二－七五

民族思想から見たベトナム戦争〔塚本毅〕　七六－九九

第一〇四〇号　一九六七年五月号

巻頭言　核拡散防止条約を契期（ママ）として超党派外交の緒をひらけ〔三好貞雄〕　二－三
核拡散防止条約と日本外交〔広田洋二〕　四－一四
ソ連の核政策と東欧諸国支配の変遷〔ヤロスラフ・G・ポラーチ（延島英一訳）〕　一五－二四
毛沢東の命運〔田村幸策〕　二五－二九
エカフェの過去と現在と将来－エカフェ東京総会をめぐって〔伏見楚代子〕　三〇－三九
通商航海条約・内国民待遇及び最恵国待遇に関する研究〈七・完〉〔菊地正〕　四〇－四六
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究〈二〉〔今村之治〕　四七－五四
国際連合下の植民地住民保護制度〈前編〉〔青木出郎〕　五五－六三
書評　第一次世界大戦史研究の新動向
－三宅正樹氏の論文〝第一次世界大戦〟に寄せて〔義井博〕　六四－七〇
書評　現代アジア社会思想研究会編『毛沢東思想と中国の社会主義－中共革命の再検討』
〔浦野起央〕　七〇－七一
資料　スハルト大統領代理　インドネシア経済崩壊防止の第一歩を踏出す
（一九六七年四月七日マレイシア　ウトサン・ムラユ紙掲載）
〔リチャード・エ・ストン（市川正晴訳）〕　七二－七四
明治百年における日韓合邦の意義〔入江汎〕　七五－九三

第一〇四一号　一九六七年六月号

巻頭言　中共を除外して核不拡散は成立するか
－日本は大いなる核保有国であるべきだ〔三好貞雄〕　二－三
核拡散防止に関する民社党の態度〔曽祢益〕　四－六
アジアに新しい風が吹く〔梅原一雄〕　七－一四
東南アジア経済開発の焦点〔斎藤栄三郎〕　一五－一七
アジア・太平洋圏構想の行方〔牧内正男〕　一八－二二
東南アジアの農業開発と日本の立場〔大戸元長〕　二三－二七
後進諸国綿業の発展と日本綿業〔有田円二〕　二八－三二
世界食糧危機に脅える第二世界・共産圏－新マルサス主義に敗れたマルクス主義〔延島英一〕　三三－四四
沖縄一部返還論〔完倉寿郎〕　四五－五一
「モンゴル承認」日米いずれが先か〔松崎陽〕　五二－五九
宇宙条約の解説〔菊地正〕　六〇－七一
孫中山伝記〈九〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　七二－七七
書評　リチャード・P・ステビンス著〈鹿島平和研究所訳〉『世界情勢と米国　一九六五』〔浦野〕　七八－七八
国際連合下の植民地住民保護制度〈後編〉－植民地住民保護思想・制度の変遷〔青木出郎〕　七九－八六

第一〇四二号　一九六七年七月号

巻頭言　中共の水爆実験と米ソ首脳会談〔三好貞雄〕　二－三
中東動乱の起因とその戦後処理〔土田豊〕　四－二六
訪米報告記
　沖縄問題の焦点〔大浜信泉〕　二七－三二
　これからの沖縄問題〔末次一郎〕　三三－四二
生き返った「西イリアン協定」〔森田大耕〕　四三－五〇
イスラエルとユダヤ民族主義〔塚本毅〕　五一－五五
孫中山伝記〈一〇〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　五六－六三
共産世界におけるエネルギー事情の展望〔ヤロスラフ・G・ポラーチ（延島英一訳）〕　六四－六九
資料　東西両独における原子力開発　七〇－七一
韓国併合〔植田捷雄〕　七二－七八
前清宣統帝の師傅、陳宝琛の日本観〈上〉
　－宣統帝の著書、『わが半生』を読みて、その一〔河村一夫〕　七九－八七
洪思翊将軍を偲ぶ〔稲葉準造〕　八八－八九
書評『明治の評価と明治人の感触』　九〇－九〇

第一〇四三号　一九六七年八月号

巻頭言　中共の革命輸出〔三好貞雄〕　二－三

中東問題の歴史的背景〔田村幸策〕　四－一五
わがアジア政策の方向－首相のアジア歴訪とＡＳＰＡＣ〔牧内正男〕　一六－二〇
南ベトナム情勢の新段階〔青野博昭〕　二一－二六
韓国総選挙の行くえ〔金三奎〕　二七－二九
資料　中東紛争の記録〔浦野起央〕　三〇－五一
孫中山伝記〈一一〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　五二－五八
チトー最後の血戦－民族抗争と絡む改革阻止の陰謀と対決〔イリヤ・ユキッチ（延島英一訳）〕　五九－七〇
ソ連戦略思想からみた限定核戦争〈一〉〔ジョン・Ｒ・トーマス（岡本順一訳）〕　七一－七七
前清宣統帝の師傅、陳宝琛の日本観〈下〉
－宣統帝の著書、『わが半生』を読みて、その一〔河村一夫〕　七八－八七
世界史の転回点としてのミュンヘン協定〔黒羽茂〕　八八－九四

第一〇四四号　一九六七年九月号

巻頭言　社会党（野党第一党）党首の北ベトナム訪問は中止すべし〔三好貞雄〕　二－三
毛沢東の文化革命は成功するか〔土居明夫〕　四－一一
日ソ関係の新展開－三木外相訪問の意義〔牧内正男〕　一二－一七
太平洋諸島信託統治地域の現状と将来（上）－信託統治理事会の活動〔青木出郎〕　一八－二五
スカルノ研究特集
スカルノ像－破綻した独裁者の一側面〔森田大耕〕　二六－三八

スカルノ大統領の栄光と没落〔アブドル・ラーマン・ラヒム（市川正晴訳）〕　三九－五二
資料　チベットにおける権力闘争の発展－陳伯達・江青派と林彪派が衝突〔Yang Tsang-hao〕　五三－五六
レーニンを棚上げするユーゴ共産主義
－無党・直接民主主義への手探り〔スラボタン・スタンコビッチ（延島英一訳）〕　五七－六三
資料　南疆とはどんな処か〔朱桂〕　六四－六六
ソ連戦略思想から見た限定核戦争〈二〉〔ジョン・R・トーマス（岡本順一訳）〕　六七－七五
資料　文明の揺籃を死床に変えるな〔モハメド・アルサゴフ〕　七六－七六
満洲皇帝と我が駐満大使との定例会見
－宣統帝の著書『わが半生』を読みて、その二〔河村一夫〕　七七－八一

第一〇四五号　一九六七年一〇月号

巻頭言　核防条約の調印は慎重に〔三好貞雄〕　二－二
再び核防条約の陥穽について警鐘を乱打する〔倉前義男〕　三－一二
無核・核防衛論〔亀井貫一郎〕　一三－三二
北方領土問題
北方領土返還交渉の前途－コスイギン首相の発言を繞って〔田村幸策〕　三三－四〇
還らざる北方の島々－百年でも千年でも頑張ろう〔斎藤忠〕　四一－四五
北洋の暖流は日本の運命を左右する－領土解決の問題点をさぐる〔能戸英三〕　四六－五五
孫中山伝記〈一二〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　五六－六三

資料「西マレイシア共産白書」マレイシア政府発表〔市川正晴訳〕　六四－六九
書評　角田順『満州問題と国防方針－明治後期における国防環境の変動』〔義井博〕　七〇－七四
太平洋諸島信託統治地域の現状と将来（下）－信託統治理事会の活動〔青木出郎〕　七五－八三

第一〇四六号　一九六七年一一月号

巻頭言　沖縄施政権返還と日本の戦後意識の払拭〔三好貞雄〕　二－二
ソ連革命五〇年の歩みを観る
ソ連外交五〇年の回顧〔田村幸策〕　三－一五
回想のロシア革命〔高谷覚蔵〕　一六－二三
ロシア革命成立史〈一〉〔延島英一〕　二四－二八
沖縄施政権返還問題
沖縄の施政権返還について再び訴える〔大田政作〕　二九－三四
沖縄問題解決の時期はきた〔永末英一〕　三五－三九
沖縄の施政権返還と基地方式〔岡本順一〕　四〇－四五
首相・外相訪問旅行の政治的意義〔牧内正男〕　四六－五〇
ＡＢＭの一つの見方〔亀井貫一郎　提供〕　五一－五七
孫中山伝記〈一三〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　五八－六六
資料　全米州議会議員大会におけるジョンソン米大統領の演説〈全文・一九六七年九月二九日　テキサス州サンアントニオ〉　六七－七〇

資料　アジア開銀新規特別基金への二億ドルきょ出権限を要請した
ジョンソン米大統領の議会あて教書〈一九六七年九月二六日〉　七〇－七二
資料　アジアの団結〈マレイシア「ウトサン・ムラユ」紙一九六七年九月二四日社説〉　七三－七三
資料　インドネシア展望　スハルト政権新段階に入る
〈ジャカルタ日刊紙「オペラシ」一九六七年九月八日付〉〔編輯長バハテアル・ジュミリ〕　七四－七五
資料　石油こそインドネシアの期待〈シンガポール日刊紙「ブリタ・ハリアン」〉
〔ロイター特派員ピーター・ジョブ〕　七五－七五
書評　浦野起央編著『ベトナム問題の解剖－分析と資料』〔田村幸策・奥源造〕　七七－七九
フランス大革命とイギリスとの関係
－フランス大革命の思想的指導部はロンドンにあった〔坂清〕　八〇－八七

第一〇四七号　一九六七年一二月号

巻頭言　沖縄返還と日本の防衛体制〔三好貞雄〕　二－二
日本の安全保障と沖縄施政権返還問題〔賀屋興宣〕　三－一四
首相訪米のバランス・シート－アジア・太平洋構想の展開へ〔牧内正男〕　一五－二一
中共の核力の中和－印度との提携〔亀井貫一郎〕　二二－二九
資料　中東紛争の資料〔浦野起央編〕　三一－四二
孫中山伝記〈一四〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　四三－四九
資料　シッキムにおける中印軍の衝突〔矢野光二〕　五〇－五一

ロシア革命成立史〈二〉モンゴルのロシア征服が残した痕跡〔延島英一〕　五二－五七
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究（三）〔今村之治〕　五八－六六
ナショナリズムの世紀〈上〉〔ハンス・コーン（佐々木邦郎・浦野起央共訳）〕　六七－九一

資料

『外交時報』総目次―戦後編(三)

――一九六八年一月第一〇四八号～一九七六年一二月第一一四〇号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

第一〇四八号　一九六八年一月号

巻頭言　決済の年・一九六八年を迎えて〔三好貞雄〕　三―三
対話　アジアの建設とアジア外交の進路〔李東元・李文洙・廣田洋二・関戸辰蔵〕　四―一七
富国強兵と富民弱兵〔武藤貞一〕　一八―二〇
資料　新防衛理念と新経済理念―平和を管理する力　機能的企業復合(ママ)〔亀井貫一郎〕　二一―三七
外交時報創刊七〇周年特集
外交時報七〇周年の回顧―祖国と運命を倶にした日本最古の月刊雑誌〔田村幸策〕　三八―四二
有賀博士の十三回忌に際して

－外交時報昭和八年六月一五日発行　有賀博士追憶拡大号所載の再録〔立作太郎〕　四三－四七
朝野名流の祝賀〈三木外務大臣以下一〇八氏〉　四八－五六
軌道に乗った東南ア電気通信網整備計画〔馬場嘉光〕　五七－六二
明治末期、小村外務大臣の孫文等に対する施策について
－中国革命同盟会機関紙『民報』等の発行停止前後をめぐって〔河村一夫〕　六三－七一
資料　ベトナム問題を大いに語る－ジョンソン米大統領記者会見〈一九六七年一一月一七日〉　七二－七八
ナショナリズムの世紀〈中〉〔ハンス・コーン〈佐々木俊郎・浦野起央共訳〉〕　七九－九九

第一〇四九号　一九六八年二月号

巻頭言　核防条約と核兵器廃棄〔三好貞雄〕　二－五
ソ連・東欧をめぐって〔尾上正男〕　六－一一
大詰めにきた核防条約－土俵際の粘りを今こそ示すべきである〔倉前義男〕　一二－一六
インドネシア特集
転落せる独裁者スカルノ－第二部　九・三〇事件をめぐる権力斗争〔森田大耕〕　一七－四〇
インドネシア国軍の特性〈解説〉〔奥源造〕　四一－四六
国防治安綱領と国軍斗争綱領〔本社編集部　提供〕　四六－六四
ロシア革命成立史〈三〉ウクライナの自治要求が第三革命を誘発〔延島英一〕　六五－七二
孫中山伝記〈一五〉〔木下彪〕　七三－八〇
ナショナリズムの世紀〈下〉〔ハンス・コーン〈佐々木俊郎・浦野起央共訳〉〕　八一－九三

資料　綏遠概説（綏遠掠影）〔楊庚午〕　九四－九五

第一〇五〇号　一九六八年三月号

巻頭言　倉石発言とベトナム問題〔三好貞雄〕　二－二

ベトナム戦争特集号

ベトナム戦争の性格と解決－鍵を握るは中共かソ連のどちらか〔田村幸策〕　三－一〇

鼎談　ベトナム戦争を語る〔三宅和助・奥源造・浦野起央〕　一一－二四

アンケート　ベトナム戦争をいかに解決するか（中国東南亜の諸情勢も併せて）

〔賀屋興宣・千葉三郎・赤城宗徳・小峯柳多・帆足計・岩動道行・大平善梧・安岡正篤・尾上正男・三好修・会田雄次・谷口雅春・御手洗辰雄・佐伯喜一・斎藤栄三郎・古垣鉄郎・小谷鶴次・瀬川善信・向後英一・植田捷雄・中島嶺雄・大田政作・大畑篤四郎・土居明夫・梅原一雄・花見達二・黒羽茂・亀井貫一郎・上野秀夫・宇野重昭・前芝確三・倉前義男・金戸嘉七・河原宏・中村平治・坂田善三郎・村瀬興雄・桜井光堂・川端末人・伊手健一・元川房三・草間秀三郎・小川芳彦・今井勝郎・金田近二・石村暢五郎・三潴信吾・今村之治・上田修一郎・海妻玄彦・小寺初世子・塩沢清宣・大井篤・武藤貞一・完倉寿郎・牧内正男・日比野正明・菰田康一・延島英一・角田時雄・手塚信吉・塚本毅・岡本順一・落合忠士・青木出郎・荒木武行・矢次保・甲斐静馬・沖野亦男・河原田健雄・広西元信・関戸辰蔵・稲葉準造・衛藤瀋吉・逸名氏（二名）・奥野栄・西田勲・山本勝市・岸田修・保科善四郎〕　二五－三八

ベトナムとアメリカと日本〔田尻愛義〕　三九－五一
米中のあいだ〔蔵居良造〕　五二－五八
ベトナム戦争の現況と将来〔完倉寿郎〕　五九－六八
ベトナム戦争の逆説－タカ派ハト派の相関関係〔青野博昭〕　六九－七五
ベトナム戦争の思想的本質（政治・経済・外交以前の問題）
－感性的な南越仏教の悲劇〔大嶋忠雄〕　七六－八六
ベトナム紛争の史的考察〔高島昭夫〕　八七－九三
書評　浦野起央編著『ベトナム問題の解剖－分析と資料』
〔田村幸策・奥源造・加藤公彦・牧内正男〕　九四－九八

第一〇五一号　一九六八年四月号

巻頭言〝仮装敵国〟論議に想う〔三好貞雄〕　二－二
北京外交と東南アジア－造反外交の理論と現実〔今川瑛一〕　三－九
ミクロネシアと日本〈上〉〔青木出郎〕　一〇－二一
沖縄における渡航制限の実態について〔松原正晃〕　二二－三二
インドネシア・クーデターの研究〈上〉
－第三部・新政権誕生から独立記念日をめぐって〔森田大耕〕　三三－四五
ロシア革命成立史〈四〉民族関係の舞台暗転で指導者交替〔延島英一〕　四六－五一
孫中山伝記〈一六〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　五二－五九

資料　アラブ社会主義セミナーの最終コミュニケ〈一九六七年五月二八日〉　六〇－六二
資料　アフリカ・マダガスカル共同機構憲章　六二－六四
国際連合の機構〈上〉〔岡本順一〕　六五－八七

第一〇五二号　一九六八年五月号

巻頭言　ベトナム和平と核防条約〔三好貞雄〕　二－三
ベトナム和平の探究と和平条件－紆余曲折の難行路〔田村幸策〕　四－一一
アジア経済開発協力の前進－第三回東南ア開発閣僚会議〔牧内正男〕　一二－一六
将来の通貨　世界の悩み－病めるドルと金〔斎藤栄三郎〕　一七－一九
資料　北爆停止と大統領不出馬
－ジョンソン大統領の全米国民向け演説〈全文・一九六八年三月三一日〉　二〇－二四
ミクロネシアと日本〈下〉〔青木出郎〕　二五－三七
孫中山伝記〈一七〉〔鄧慕韓著・木下彪訳注〕　三八－四五
スウェーデン国防の諸問題〔クルト・サミュエルソン〕　四六－五六
インドネシア・クーデターの研究〈下〉
－第三部・新政権誕生から独立記念日をめぐって〔森田大耕〕　五七－七三
明治一五年、壬午京城の変後の井上外務卿の対清政略〔河村一夫〕　七四－八三

第一〇五三号　一九六八年六月号

巻頭言「背のび」外交の教訓〔三好貞雄〕　二－三
対中政策の基本認識－ベトナム和平会議を通して観る〔蔵居良造〕　四－一一
アジア・太平洋構想の思想と現実〔青野博昭〕　一二－二一
独立五十周年を迎えたフィンランド
－社会党の左旋回、共産党の右旋回で政局安定〔チャールス・アンドラス〕　二二－三〇
ロシア革命成立史〈五〉党内分裂が敵を欺むく効果を発揮〔延島英一〕　三一－三六
胡璇沢駐シンガポール副領事について〔野崎光明〕　三七－三九
資料　クリフォード米国防長官のベトナム演説
〈一九六八年四月二二日　ニューヨーク・AP通信加盟年次総会で〉　四〇－四二
資料　国境に於ける天然の宝庫『寧夏』〔朱桂（扇谷要訳）〕　四二－四五
資料　国際通貨体制の強化に関するジョンソン大統領の教書
〈一九六八年四月三〇日、議会提出〉　四六－四八
資料　昨年度のスウェーデンの輸出高五％伸びる　四八－四八
資料　スウェーデン、経済政策委員会を設立　四八－四八
資料　ポール次期米国連代表テレビ記者会見〈抜萃・一九六八年五月五日放送〉　四九－五三
資料　ドイツにおける極左分子の動向〔D・K〕　五三－五四
資料　今日のドイツ国防政策（シュレーダー国防相）〔D・K〕　五四－五四
資料　ドイツ国民は何を望んでいるか？〔D・K〕　五五－五五

国際連合の機構〈下〉〔岡本順一〕　五六－七八

第一〇五四号　一九六八年七月号

巻頭言　核拡散条約の成立と非核連盟の提唱〔三好貞雄〕　二－五
フランス激変の原因を探る－特に学生の疏外感の意義について〔林三郎〕　六－一二
中共とベトナム〔植田捷雄〕　一三－一五
米国における繊維品輸入制限の動き〔有田円二〕　一六－二〇
ベトナム和平への足跡－米国と北ベトナム〔浦野起央〕　二二－三七
資料　北ベトナム代表とのパリ本会談におけるハリマン米代表の発言内容（全文）　三八－五五
資料　アメリカ代表とのパリ本会談におけるベトナム民主共和国代表ジュアン・トイの発言（全文）　五六－六四
資料　中共に関するカッツェンバック米国務次官演説（全文）
（一九六八年五月二一日　ワシントン、全米記者クラブ）　六五－六八
資料　世界貿易拡大に関するジョンソン米大統領教書（全文）
（一九六八年五月二八日議会提出）　六八－七一
資料　グラスボロ州立大学におけるジョンソン米大統領の演説（全文）
（一九六八年六月四日）　七一－七四
インドネシア・クーデターの研究－第四部　軍事裁判〔森田大耕〕　七五－九五

第一〇五五号　一九六八年八月号

巻頭言　猛省せよ、社会党－〝非武装中立〟論の愚を捨てよ〔三好貞雄〕　二－三
日米安保体制と沖縄の評価〔山田久就〕　四－八
核防条約に関する三木外相への手紙
－調印は七〇年まで、批准は七三年まで見合わせよ〔倉前義男〕　九－一三
アメリカの対東欧政策〔横尾和歌子〕　一四－一九
ポーランドの対独政策の推移と変遷
－西独接近策より東独と一体化に転換〔A・ロス・ジョンソン（延島英一訳）〕　二〇－三八
資料　パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（二）　三九－六八
書評　リチャード・ヒスコックス『ポーランド－東西両陣営の掛け橋？
戦後のポーランドにおける発達に関する一解釈』によせて〔横尾和歌子〕　六九－七一
資料　客家源流及其変遷〔黎耀新（扇谷要訳）〕　七二－七四
インドネシア・クーデターの研究（完）－第五部　スカルノ追放の最終劇〔森田大耕〕　七五－九六

第一〇五六号　一九六八年九月号

巻頭言　国家の生きる途〔三好貞雄〕　一－二
アメリカ外交の理想像－フルブライトの大計画〔田村幸策〕　三－一六
座談会　核・北方領土・朝鮮・中国の諸問題（外交懇話会第一回座談会）
〔野田武夫・長谷川峻・床次徳二・谷川和穂・小峰柳多・田川誠一・平泉渉・広田洋二・

角田順・蔵居良造・牧内正男・小谷秀二郎・浦野起央・平石義親・武内文彬・三好貞雄〕 一七－三〇
アジア・太平洋閣僚会議はどこへ－その性格と日本の役割〔牧内正男〕 三二－三七
アッサムの風雲－ポスト・ベトナムの難問題の一つ〔桐生稔〕 三八－四三
書評 蔵居良造著『現代中国論』－社会主義革命批判〔小林多加士〕 四四－四四
資料 パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（三） 四五－五九
中東戦争の起因と経過の分析〔浦野起央〕 六〇－八五
資料 毎年八億ドルのボロイ商売－麻薬は中共第一の外貨稼ぎ（中華週報七月二二日） 八六－八八
資料 牧地の春〔梅済民（扇谷要訳）〕 八八－九二

第一〇五七号　一九六八年一〇月号

巻頭言 世界政策を失ったソ連邦〔三好貞雄〕 二－二
ソ連、チェコ侵入の本質－ソ連の帝国主義的東欧搾取〔林三郎〕 三－九
防衛に対する謬論十箇条〔海原治〕 一〇－一八
座談会 いまだ還らざる北方領土の諸問題（外交懇話会第二回座談会）
〔野田武夫・床次徳二・田村幸策・御手洗辰雄・広田洋二・田尻愛義・斎藤忠・
牧内正男・倉前義男・平石義親・江田静蔵・三好貞雄〕 一九－三六
アメリカの対インドネシア政策〔ミン・タン（横尾和歌子訳）〕 三七－五四
資料 チェコスロバキア「二千語宣言」（定訳） 五五－五九
資料 パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（四） 六〇－九〇

第一〇五八号　一九六八年一一・一二月号

巻頭言 核防条約の調印は慎重にせよ〔三好貞雄〕　二－二
レーニン主義の崩壊過程－チェコの民主化とマルクスの原理論〔廣西元信〕　三－一八
マルクス主義者の倫理観〔田村幸策〕　一九－二二
座談会 核防条約をいかに扱うか（外交懇話会第三回座談会）
〔野田武夫・長谷川峻・田村幸策・大平善梧・広田洋一・小谷秀二郎・斎藤忠・角田順・倉前義男・野沢豊吉・三好貞雄〕　二三－五一
第一次大戦後のオットマン帝国〔オルハン・テュレリ〕　五二－六一
新米大統領の横顔〔花井等〕　六二－六三
資料 パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（五）　六四－七九
資料 国連総会におけるラスク米国務長官の演説（一九六八年一〇月二日）　八〇－八四
日本とモンゴルの百年（年表・資料）（一）〔春日行雄〕　八五－九六

第一〇五九号　一九六九年一月号

巻頭言 ベトナム和平会議の成行〔三好貞雄〕　二－二
ドゴール大統領の世界政策変化が期待できるか〔田村幸策〕　三－一二
日米安保条約自動延長論〔船田中〕　一三－二〇
座談会 北方領土問題と沖縄復帰〔長谷川峻・高橋武彦・宮崎吉政〕　二一－二六
資料 パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（六）　二七－四六

資料　北ベトナム爆撃の全面停止を発表したジョンソン米大統領の声明（一九六八年一〇月三一日）　四七－四九
資料　毛家の〝文革小組〟の変遷（滄桑の変）〔陳力生（扇谷要訳）〕　五四－六八
青海省の研究〔矢野光二〕　六九－八一
日本とモンゴルの百年（年表・資料）（二）〔春日行雄〕　八二－九二

第一〇六〇号　一九六九年二月号

巻頭言　非武装中立論の妄迷〔三好貞雄〕　二－二
沖縄問題の正しい解決のために－日本の求める安全保障と沖縄返還〔廣田洋二〕　三－一七
西イリアン問題の経緯〔青木出郎〕　一八－二九
西イリアン民族自決の年を迎えて〔M・W・カイシェポ〕　三〇－三四
イスラエルの開発途上国援助の実態－農業技術協力を中心に〔宮崎藤治〕　三五－四三
ニクソン新大統領と日米関係－極東平和の柱石たるパートナー〔田村幸策〕　四四－五〇
資料　ニクソン米大統領の就任演説（一九六九年一月二〇日）　五一－五三
資料　ジョンソン前大統領の一般教書（一九六九年一月一四日議会合同会議に提出）　五四－五八
資料　ジョンソン大統領の予算教書抜粋（一九六九年一月一五日議会提出）　五八－六三
資料　ジョンソン大統領の経済報告抜粋（一九六九年一月一六日議会へ提出）　六三－六八
資料　フランスの上院改革及び地方制度改革について－フランスにおける「参加」問題と関連して　六九－七二

資料　フランス高等教育改革について－高等教育基本法案全文仮訳　七三－八二
資料　中国革命委員会－『大陸現況』第六巻二一号〔横尾和歌子要訳〕　八三－八五

第一〇六一号　一九六九年三月号

巻頭言　沖縄問題の結論〔三好貞雄〕　二－三
安保・沖縄縦横談－第二次大戦の失敗を二度と繰返すな〔賀屋興宣〕　四－一六
東大の確認書の盲点－産学協同の拒否声明〔田村幸策〕　一七－二二
西イリアン住民投票への心構え〔M・W・カイシェポ〕　二三－二八
ソ連・中国の社会主義理論の原理的相異について
－現代社会主義理論の基本問題〔小林多加士〕　二九－三七
中国の権力統一の過程とその基本条件の変化－対中国政策の底辺〔土井章〕　三八－四二
資料　タイ王国憲法－解説と全訳〔西修〕　四三－五六
資料　パリ和平会談における米・北ベトナム両代表の公式発言内容（全文）（七）　五七－六二
書評　内田康哉伝記編纂委員会・鹿島平和研究所共編『内田康哉』〔栗原健〕　六三－六四
日本とモンゴルの百年（年表・資料）（三）〔春日行雄〕　六五－九一

第一〇六二号　一九六九年四月号

巻頭言　日本歴史の転回点・沖縄問題〔三好貞雄〕　一－二
わが北方領土と南方領土の国際政治的考察

－北方領土が核基地たる間は南方領土も然らざるを得ない〔神川彦松〕　三－一二
チェコ動乱と日本の今後〔秋田大助〕　一三－一七
若人よ、未来の天地へ〔M・W・カイシェポ（R・タナカ訳）〕　一八－二三
通貨不安の実態〔斎藤栄三郎〕　二四－二五
沖縄の昔物語－モリソン教授の「ペルリ伝」から〔田村幸策〕　二六－三〇
資料　沖縄基地問題研究会・報告（全文）（一九六九年三月八日）　三一－三六
資料　昨年五月に発生したフランス学生騒動の本質とその流れについて
（アンリ・ルフェーブル教授とレクスプレス誌記者との会見要旨。
付、学生騒動に対する高等専門学校学生の態度）　三七－四二
資料　フランスにおける労働者の企業利益参加　四三－四五
資料　パリ和平会談における米・北ベ・南ベ・解放戦線の公式発言内容（八）　四六－五九
韓国二題〔中谷忠治〕　六〇－六四
在英国山座円次郎参事官と孫文との交渉〔河村一夫〕　六五－七五
外交史秘話（一）東郷少佐と安東おきよ〔大和雄助〕　七六－七八
書評　斎藤栄三郎博士著『キリスト教の社会思想』を読みて〔内藤智秀〕　七九－八〇

第一〇六三号　一九六九年五月号

巻頭言　日中覚書貿易コミュニケと古井喜実氏の責任について〔三好貞雄〕　二－三
アジアの紛争とこれに対処する道〔武者小路公秀〕　四－一〇

ユーゴ・スラビアから日本と世界を見る〔松下正寿〕　一一－一五
日本をめぐる中立問題－日本の安全保障との関連において〔田村幸策〕　一六－三〇
東南アジア経済協力への前進－大きい日本の役割〔牧内正男〕　三一－三四
沖縄返還をめぐる情勢－混乱の中に活路を求めて〔末次一郎〕　三五－四一
九全大会と中共の前途〔蔵居良造〕　四二－四四
毛主席の後継者・林彪－『大陸現況』第七巻五号〔横尾和歌子訳〕　四五－四九
中共の造反性格と攪乱外交〔苗剣秋〕　五〇－五二
資料　パリ和平会談における米国・北ベトナム・南ベ・解放戦線の公式発言内容（九）　五三－六四
資料　米上院軍事委員会におけるレアード国防長官の証言（抜萃）　六五－六七
資料　ＮＡＴＯ結成二十周年記念理事会におけるニクソン米大統領の演説（一九六九年四月一〇日、ワシントン）　六八－七一
資料　ブレジネフ・ドクトリン－国家主権についてのソ連の新しい概念〔パヴェル・Ｋ・ウルバン〕　七二－七四
外交史秘話（二）北清事変と北京籠城〔大和雄助〕　七五－七八

第一〇六四号　一九六九年六月号

巻頭言　演繹的外交と帰納的外交〔三好貞雄〕　二－二
ド・ゴール将軍の退陣をめぐって〔林三郎〕　三－一一
毛林体制今後に対する疑問点〔藤井彰治〕　一二－一五

西パプア独立運動の展望（一）西イリアン協定の実施をめぐって〔森田大耕〕　一六－二八
世界各国の安全保障条約（一）四〇数カ国の比較研究〔佐藤重徳〕　二九－五〇
韓国の憲法改正問題〔西修〕　五一－五四
日米ソ経済圏の構想－日本の世界戦略論に関する私の第四論文〔田村喜照〕　五五－六一
資料　ベトナム戦争に関するニクソン米大統領の演説（全容）（一九六九年五月一四日）　六二－六六
資料　パリ和平会談における米代表の公式発言内容（一〇）　六七－七三
資料　アスパック・文化社会センター（ソウル）報告
－アジア・太平洋時代の提唱〔姜秉奎（横尾和歌子訳）〕　七四－七五
資料　中国共産党規約（中国共産党第九回全国代表大会一九六九年四月一四日採択）　七六－七八
外交史秘話（三）日独通商条約と条約違反〔大和雄助〕　七九－八一

第一〇六五号　一九六九年七月号

巻頭言　中ソ論争と日本の立場〔三好貞雄〕　二－四
日本マスコミの特異性－広く外国の人々の認識を求める〔武藤貞一〕　五－八
アジア地域協力への前進－定着した非軍事的性格〔牧内正男〕　九－一三
西パプア独立運動の展望（二）西イリアン協定の実施をめぐって〔森田大耕〕　一四－二一
キブツ思想と日本青年〔手塚信吉〕　二二－二五
毛沢東夫人・江青－『大陸現況』第七巻一号〔横尾和歌子訳〕　二六－二九
外交史秘話（四）尼港事件〔大和雄助〕　三〇－三二

外交史秘話余話　安東おきよ後日談〔山本茂〕　三三－三七
資料　ASPAC文化社会センターの現況　三八－四〇
資料　ニクソン米大統領、チュー南ベトナム大統領の共同コミュニケ（一九六九年六月八日ミッドウェー）　四一－四二
資料　ミッドウェー島における大統領の談話（一九六九年六月八日）　四二－四三
世界各国の安全保障条約（二）四十数カ国の比較研究〔佐藤重徳〕　四四－八二

第一〇六六号　一九六九年八月号

巻頭言　非武装中立と世界連邦〔三好貞雄〕　二－二
ガンジーと世界連邦運動〔田中正明〕　三－一〇
世界連邦組織に依り世界平和を〔下中弥三郎（絶筆）〕　一一－一二
危機と平和の構造－世界政府の原理と方法試論〔坂口三郎〕　一三－二九
西ニュー・ギニア（西イリアン）住民自決問題〔青木出郎〕　三〇－四二
西イリアン工作の裏面〔M・I・マンダチャン（萬田知行訳）〕　四三－五一
西パプア独立運動の展望（三）西イリアン協定の実施をめぐって〔森田大耕〕　五二－六七
資料　パリ和平会談における米代表の公式発言内容（一一）　六八－七五
外交史秘話（五）北方領土と日露交渉〔大和雄助〕　七六－七八
書評　池田正之輔著『謎の国・中共大陸の実態－民族性と経済基盤の解明』　七九－七九
書評　エドゥアルド・フレイ・モンタルヴァ著　鹿島研究所訳『ラテン・アメリカの運命』　八〇－八〇

第一〇六七号　一九六九年九月号

巻頭言 ソ連の実情と北方領土問題〔三好貞雄〕　二－二
チェコスロバキアの命運－自由失なわれて後の一年〔斎藤忠〕　三－七
〝七二年、核ぬき、本土並み〟－沖縄返還の目途はつく〔末次一郎〕　八－一一
南樺太は日本固有の領土である〔西鶴定嘉〕　一二－二〇
イリ地区（新疆）における中ソ国境紛争について〔矢野光二〕　二一－二六
中共、知識分子迫害の実情（一）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　二七－三一
青木外相の討露の上奏の背景〔河村一夫〕　三二－三八
外交史秘話（六）樺太千島交換条約〔大和雄助〕　三九－四二
資料 第四回閣僚会議に提出されたアスパック文化社会センターに関する報告〔崔奎夏（横尾和歌子訳）〕　四三－四七
資料 パリ和平会談における米代表の公式発言内容（一二）　四八－四九
国連憲章の解釈原理〔佐藤重徳〕　五〇－七八

第一〇六八号　一九六九年一〇月号

巻頭言 コスイギン首相に与う〔三好貞雄〕　二－三
愛知外相訪ソ、米の意義〔牧内正男〕　五－一三
サイゴンから見た〝グアム路線〟－米軍撤退の及ぼす波紋〔森田大耕〕　一四－一八
北方領土の国際法上の地位〔田村幸策〕　一九－三〇

プレス・アタシェ論〔福井竜太郎〕　三一－三六
中共、知識分子迫害の実情（二）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　三七－四六
外交史秘話（七）江戸時代の長崎貿易〔大和雄助〕　四七－五一
国連総会におけるニクソン米国大統領の演説（一九六九年九月一八日）　五二－五六
ロジャーズ米国務長官の記者会見（一九六九年八月二〇日、ワシントン）　五七－六三
国連憲章における武力行使の禁止－二条四項論〔佐藤重徳〕　六四－八五

第一〇六九号　一九六九年一一・一二月号

巻頭言　日・米両首脳に望む〔三好貞雄〕　二－三
アメリカから日本に期待すること－安保是非論〔デビッド・L・オズボーン〕　四－七
アメリカのアジア政策は変わる－下田会議から〔永末英一〕　八－一三
日本人の対ソ連観－まだ資本主義段階にも到達していない〔廣西元信〕　一四－二九
中共、知識分子迫害の実情（三）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　三〇－三五
青木外相の対露強硬政策の背景－特に、日英同盟の発端に関連して〔河村一夫〕　三六－四一
外交史秘話（八）西南戦争と対外関係〔大和雄助〕　四二－四五
読書評　武藤貞一著『虚妄の世界に生きる』を読んで〔斎藤忠〕　四六－四六
資料　三多摩シンポジウムにおけるアーミン・マイヤー駐日米大使の演説　四七－四九
資料　アメリカ労働総同盟産別会議（AFL・CIO）第八回大会における
レアード米国防長官の演説（一九六九年一〇月七日、アトランチックシチー）　四九－五二

資料　パリ和平会談における米代表の公式発言内容（一三）　五三－五八
国連における武力行使の禁止（続）－二条四項論〔佐藤重徳〕　五九－七五

第一〇七〇号　一九七〇年一月号

巻頭言　一九七〇年に向って〔三好貞雄〕　二－二
中国の情況変化と今後の路線〔土井章〕　三－九
安保体制の世界史的意義〔田村幸策〕　一〇－二二
国は現実の中に生きる－ヨーロッパを旅行して〔長谷川峻〕　二三－二七
チェコスロバキアと日本、国交関係の沿革〔J・レイナル〕　二八－二九
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（上）〔春木猛〕　三〇－四七
チベット自治区の珞瑜地区について〔矢野光二〕　四八－五〇
中共、知識分子迫害の実情（四）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　五一－五五
外交史秘話（九）阿片禁止と密輸事件〔大和雄助〕　五六－五八
資料　ベトナムに関するニクソン大統領の演説（全容）
（一九六九年一一月三日、ホワイトハウス）　五九－六四
資料　ニクソン米大統領とホー・チー・ミンベトナム民主共和国大統領の交換書簡全文
（一九六九年七月一五日付）　六四－六五
資料　ホー・チ・ミン大統領の書簡（一九六九年八月二五日付）　六五－六五
資料　ニクソン米大統領の外国貿易政策教書（一九六九年一一月一八日、議会へ提出）　六六－七〇

国連憲章における集団安全保障（一）〔佐藤重徳〕　七一－八五

第一〇七一号　一九七〇年二月号

巻頭言　日米安保条約の質的変化－社会党は基本路線を変更せよ〔三好貞雄〕　二－三
一九七〇年代のソ連外交－東西の安全保障体制の提案をめぐって〔尾上正男〕　四－九
中ソ交渉の展望〔山村文人〕　一〇－一五
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（中）〔春木猛〕　一六－二五
資本自由化の論理と現実－ナショナリズムとインタナショナリズム〔伏見楚代子〕　二六－三二
寒中御見舞一覧　三三－三七
資料　ニクソン米国大統領の一般年頭教書（一九七〇年一月二二日）　三八－四三
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究（四）〔今村之治〕　四四－五二
中共、知識分子迫害の実情（五）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　五三－五七
外交史秘話（一〇）日清修好条規と改正交渉〔大和雄助〕　五八－六〇
国連憲章における集団安全保障（二）〔佐藤重徳〕　六一－七三

第一〇七二号　一九七〇年三月号

巻頭言　アジア国家連合を提唱し〝真空地帯〟論の虚妄を排す〔三好貞雄〕　二－二
中東和平の行方〔岩永博〕　三－一〇
資料　ニクソン米大統領の外交教書「一九七〇年代の米国の外交政策－平和のための新戦略」

（全文・一九七〇年二月一八日）〔アメリカ大使館訳〕　一一－七四
資料　ニクソン米大統領の経済報告抜粋（一九七〇年一月三〇日、議会提出）　七五－七九
資料　ニクソン米大統領の記者会見（一九七〇年一月三〇日）　七九－八四
資料　六月三〇日にはじまる一九七一会計年度のニクソン米大統領の予算教書（抜粋）（一九七〇年二月三日）　八四－八七
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の一）〔春木猛〕　八八－一〇二
新刊紹介　浦野起央著『現代国際政治の課題』〔牧内〕　一〇三－一〇三
新刊紹介　鹿島平和研究所編『日本外交史』全三三巻・別巻五巻　一〇三－一〇三

第一〇七三号　一九七〇年四月号

巻頭言　道義外交を貫け〔三好貞雄〕　二－二
中東紛争の基本的性格－ソ連の地中海制覇慾〔田村幸策〕　三－一二
真の統一朝鮮の実現〔金三奎〕　一三－一六
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の二）〔春木猛〕　一七－三〇
通州事件の顚末〔今井武夫〕　三一－三八
中共、知識分子迫害の実情（六）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　三九－四一
青木外相の対露強硬政策の背景（補遺）〔河村一夫〕　四二－四五
外交史秘話（一一）日本海海戦と敗走軍艦〔大和雄助〕　四六－四九
国連憲章における集団安全保障「安保理事会の決定」（三）第三九条論（続）〔佐藤重徳〕　五〇－七〇

第一〇七四号　一九七〇年五月号

巻頭言 周恩来首相に与う〔三好貞雄〕　二－三
敗戦原因と日本の将来（遺稿）〔半沢玉城〕　四－二九
日中国交の隘路について－覚書貿易の交渉にみる〔山村文人〕　三〇－三七
資料 U・アレクシス・ジョンソン国務次官
「日本の役割と米国の対極東関係の将来」（一九七〇年四月一〇日）　三八－四二
資料 G・ウォーレンナッター国際安全保障担当国防次官補
「軍事援助と対外軍事装備売却」（全容・一九七〇年四月一日）　四二－四六
資料 中東における力の均衡とカンボジア政変の今後
－ロジャーズ米国国務長官の記者会見（全容・一九七〇年三月二三日）　四六－五二
安重根自伝〔崔書勉 紹介〕　五三－七〇
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の三）〔春木猛〕　七一－八〇
「パリ会談」の資料〔浦野起央〕　八一－九四

第一〇七五号　一九七〇年六月号

巻頭言 ニクソンの決断力〔三好貞雄〕　二－二
インドシナ戦争の重大段階とわが国の運命
－わが国と東亜大陸対岸との関係の国際政治的考察〔神川彦松〕　三－九
アジア会議の意味するもの〔牧内正男〕　一〇－一五

よど号乗取事件について〔長谷川峻〕　一六－一八
資料　カンボジア進攻に関するニクソン米大統領の記者会見（一九七〇年五月八日）　一九－二四
資料　東南アジア情勢に関するニクソン米大統領の演説（一九七〇年四月三〇日）　二四－二七
資料　カンボジアに関するヨスト米国連大使の安保理議長あて書簡（一九七〇年五月五日付）　二七－二八
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の四）〔春木猛〕　二九－三五
西ドイツの海外広報事業団〔福井竜太郎〕　三六－四一
ミクロネシアの歴史と展望（一）〔松江宏次〕　四二－五〇
中共、知識分子迫害の実情（七）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　五一－五四
外交史秘話（一二）日露和親条約と洋船建造〔大和雄助〕　五五－五七
書評　鹿島守之助著・鹿島平和研究所編『日本外交史』第一巻・第二巻〔三宅正樹〕　五八－五九
国連憲章における集団安全保障（四）第三九条論（完）〔佐藤重徳〕　六〇－七四

第一〇七六号　一九七〇年七月号

巻頭言　とまどいのソ連外交〔三好貞雄〕　二－三
中共の対日態度を構成する四大要因－日米離反と日本赤化が主要目標〔田村幸策〕　四－一八
ＡＳＰＡＣの変容へ－経済協力強化の線〔牧内正男〕　一九－二二
北方領土恢復運動の前進－愈々世論結集時到る〔能戸英三〕　二三－二九
資料　ジョン・Ｒ・スチブンソン米国務省法律顧問「米軍カンボジア作戦の法的根拠」（一九七〇年五月二八日ニューヨーク市弁護士協会ハマーショルド・フォーラムでの演説）　三〇－三五

資料　ロジャーズ米国務長官の記者会見
（一九七〇年六月七日ＣＢＳ番組「フェイス・ザ・ネーション」）　三五－四〇
オランダの東洋進出と退場（上）〔青木出郎〕　四一－五三
ミクロネシアの歴史と展望（中）〔松江宏次〕　五四－六六
外交史秘話（一三）下関戦争と下関償金〔大和雄助〕　六七－六九

第一〇七七号　一九七〇年八月号

巻頭言　社会党の訪ソ外交（？）〔三好貞雄〕　二－二
アジア革命戦勢の大転換－北京の全面的同時攻勢〔斎藤忠〕　三－八
「内戦」か「侵略戦争」か－ジュネーブ協定は万能薬にあらず〔森田大耕〕　九－一四
資料　カンボジアに関するニクソン大統領の声明（一九七〇年六月三〇日、サンクレメンテ）　一五－二三
資料　ベトナム派兵諸国閣僚会議の最終コミュニケ全文（一九七〇年七月五日、サイゴン）　二三－二五
資料　新しいパリ会談米首席代表　デービッド・Ｋ・Ｅ・ブルース大使の略歴　二五－二六
北カリマンタン連邦国家運動（上）（原名・アザハリは何処へ）
〔アハマデ・ハッサン（伊佐益夫訳）〕　二七－四四
ミクロネシアの歴史と展望（下）〔松江宏治〕　四五－五二
中共、知識分子迫害の実情（八）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　五三－五六
外交史秘話（一四）明治前期の攘夷事件〔大和雄助〕　五七－五九
国連憲章における暫定措置（一）第八節四〇条論〔佐藤重徳〕　六一－六九

第一〇七八号　一九七〇年九月号

巻頭言　朝鮮・台湾は日本の生命線か〔三好貞雄〕　二－三
自由主義社会のための世界的協力（上）－日本の対外政策は順調か〔廣田洋二〕　四－一五
異質の独裁者〝毛沢東〟－かれ亡きあとに来るもの〔越村衛一〕　一六－二一
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の五）〔春木猛〕　二二－三一
オランダの東洋進出と退場（中）〔青木出郎〕　三二－四七
北カリマンタン連邦国家運動（中）（原名・アザハリは何処へ）〔アハマディ・ハッサン（伊佐益夫訳）〕　四八－六三
中共、知識分子迫害の実情（完）〔余鎮東（黄国彦訳）〕　六四－六六
書評　上山春平・三宅正樹『世界の歴史（二三）第二次世界大戦』〔三輪公忠〕　六七－六九
国連憲章における暫定措置（二）第九節四一条論〔佐藤重徳〕　七〇－七五

第一〇七九号　一九七〇年一〇月号

巻頭言　中国承認は重要事項である〔三好貞雄〕　二－二
ドル攻勢に耐えられるか－宿命的受難再来のきざし〔武藤貞一〕　三－七
日本国憲法と軍国主義〔田畑厳穂〕　八－一九
ＷＡＣＬは何故日本に運ばれたか〔久保木修己〕　二〇－二三
資料　対外援助に関するハンナ米国際開発局長官の証言
（一九七〇年九月九日、上院歳出委員会対外活動分科委員会）　二四－二七

資料　レアード米国防長官の記者会見（一九七〇年八月二六日・抜粋）　二七－三〇
オランダの東洋進出と退場（下）〔青木出郎〕　三一－四四
外交史秘話（一五）壬午事変と花房公使〔大和雄助〕　四五－四八
書評　鹿島守之助『日本外交史』第三巻・第四巻〔藤村道生〕　四九－五二
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究（五）〔今村之治〕　五三－六四
国連憲章における暫定措置（三）第一〇節四二条論〔佐藤重徳〕　六五－七〇

第一〇八〇号　一九七〇年一一・一二月合併号

巻頭言　日中共同声明を読む〔三好貞雄〕　二－二
ナセル死後の中東〔岩永博〕　三－一三
自由主義社会のための国際協力（下）－高次元な外交基本政策の必要〔廣田洋二〕　一四－二一
資料　東南アジアに関するニクソン大統領の全国向けテレビ演説
（一九七〇年一〇月七日、ワシントン）　二二－二四
資料　和平提案への反響に関するニクソン大統領の非公式談話
（一九七〇年一〇月八日、ジョージア州サバンナ）　二四－二九
資料　ロジャーズ米国務長官の記者会見（一九七〇年一〇月九日、ワシントン・全文）　二九－三四
資料　ロジャーズ国務長官とレアード国防長官のＴＶインタービュー（抜粋）
（一九七〇年一〇月一一日、ＡＢＣ＝ＴＶ放送網「イッシューズ・アンド・アンサーズ」）　三五－三九
資料　第八八回パリ会談におけるブルース米首席代表の発言（一九七〇年一〇月一五日）　四〇－四一

資料　国連総会におけるヨスト米国連大使の一般演説（全容・一九七〇年九月三〇日）　四二－四八
三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の六）〔春木猛〕　四九－五三
北カリマンタン連邦国家運動（下）（原名・アザハリは何処へ）
〔アハマディ・ハッサン（伊佐益夫訳）〕　五五－七五

第一〇八一号　一九七一年一月号

巻頭言　虚構を捨てよ－日中国交回復に就て想う〔三好貞雄〕　二－三
米中関係改善の可能性－台湾問題と東南アジアが癌　中共の変化を待つのみ〔田村幸策〕　四－一〇
アジア・太平洋地域における共同体の形成
－それへの社会的、文化的アプローチに関する未来学的展望〔姜秉奎〕　一一－二六
台湾人の法的地位に関して－「出入国管理法案」との関連から〔森田大耕〕　二七－三一
外交時報創刊七五年祝賀署名芳名録　三二－三五
李鴻章の親露政策の日本への影響－青木外相の対露強硬政策との関連について〔河村一夫〕　三六－四〇
支那事変終末工作と大本営〔今井武夫〕　四一－四六
国連憲章における特別協定と他の強制措置〔佐藤重徳〕　四七－六九

第一〇八二号　一九七一年二月号

巻頭言　日中国交と台湾問題　道義外交を貫くべきである〔三好貞雄〕　二－三
アンケート（一）日中国交の具体的方策（二）これに関連して台湾をどう扱うか

〔麻生良方・青柳秀夫・青木出郎・今井勝郎・岩村三千夫・今村之治・猪瀬謙一・伊手健一・上田修一郎・上野秀夫・梅原一雄・江尻進・衛藤瀋吉・大坪保雄・大井篤・岡本悟・落合忠士・小川芳彦・越智元治・岡本順一・緒方貞子・大西一・大場格之助・大島忠雄・賀屋興宣・上別府親志・亀井貫一郎・川上為治・神川正彦・加藤隆・上条末夫・景山哲夫・加藤大三・川上壮一郎・甲斐田慎二・木村睦男・北岡寿逸・岸田修・経塚作太郎・栗山礼行・桑原寿二・草間秀三郎・具島兼三郎・栗原一夫・小峯柳多・甲谷悦雄・小島徹三・小谷鶴次・近藤三千夫・越村衛一・小島憲・斎藤忠・斎藤寿・坂田善三郎・崔書勉・佐藤延子・座間勝平・重政庸徳・白井勇・重光蔵・茂森唯士・白鳥令・志村陸城・末松満・杉森久英・菅谷重平・住吉良人・鈴木憲一・杉田幸三・関寛治・瀬尾秀彰・谷口雅春・田川誠一・高木友三郎・田尻愛義・田畑厳穂・高山恒雄・千葉三郎・津久井龍雄・永田亮一・内藤智秀・中川富弥・永井周・中山治一・中原喜一郎・名越二荒之助・西田八郎・西鶴定嘉・西村文夫・花井等・西村虎一・春木猛・長谷川光太郎・畑田重夫・張間利春・平林たい子・広常人世・日比野正明・藤井彰治・福林正之・牧内正男・真鍋一・松本徳明・増子正通・松山幸逸・三ツ林弥太郎・御手洗辰雄・宮崎正雄・三好修・三潴信吾・宮崎繁樹・宮脇岑生・向井長年・村瀬興雄・武藤貞一・元川房三・森田大耕・毛利敏彦・山中大吉・八森充・吉田之久・吉川兼光・横尾和歌子・横山政朝・和田春生・渡辺政雄・逸名氏〕　四－三二

韓国の貿易・その過去と現状と展望〔安光鎬〕　三三－三七

外交時報　七五周年記念祝賀名刺　三八－三八

三島事件と平和憲法の再点検（上）〔田畑厳穂〕　三九－五五

三国同盟を背景とする日本の対米、対独関係（下の七）〔春木猛〕　五六－六〇
資料　ニクソン米大統領の一般教書（一九七一年一月二二日、上下両院合同会議）　六一－六六
資料　ニクソン米大統領の予算教書（抜粋・一九七一年一月二九日、ワシントン）　六六－七一
資料　ニクソン大統領の経済報告（全文・一九七一年二月一日、ワシントン）　七一－七五
資料　米大統領経済諮問委員会の年次報告
（「国際貿易」「開発途上国援助」の項抜粋・一九七一年二月一日、ワシントン）　七五－七九
「中国大陸省別地図」と解説について〔越村衛一〕　八〇－八二
書評　長谷川峻著『ひとすじの道』〔田畑厳穂〕　八三－八四
書評　倉前義男著『ソ連の新頭脳集団－クレムリン現代闘争史』〔曽村保信〕　八四－八七
書評　浦野起央著『ジュネーブ協定の成立』〔牧内正男〕　八七－八七
書評　ジョン・W・スパニア著　中村好寿訳『朝鮮戦争と戦略論争』〔浦野起央〕　八八－八九

第一〇八三号　一九七一年三月号

巻頭言　日中国交問題と国際連合〔三好貞雄〕　二－二
最近の日ソ貿易－特徴的な諸点〔林寧寿〕　三－一一
資料　ニクソン大統領外交白書「一九七〇年代の米国の外交政策－平和のための構築」（上）
（全文・一九七一年二月二五日）　一三－二一
資料　ニクソン米大統領の記者会見（一九七一年二月一七日ワシントン）　二二－二八
米国の対アジア政策の形成（一九四五～一九五五年）〔上野英詞〕　二九－四五

アンケート（一）日中国交の具体的方策（二）これに関連して台湾をどう扱うか（二）〔木下彪・角田時雄・中沢伊登子・三宅正樹・東泰介〕　四六－四八
三島事件と平和憲法の再点検（中）〔田畑厳穂〕　四九－六六
国連憲章における集団自衛権（一）〔佐藤重徳〕　六七－七四

第一〇八四号　一九七一年四月号

巻頭言　どっしり構えよ〔三好貞雄〕　二－二
台湾が独立宣言を行なえば世界的難問題は直ちに解決〔武藤貞一〕　三－五
ニクソン外交の道標－外交白書報告の意義〔牧内正男〕　六－一一
資料　ニクソン大統領外交教書「一九七〇年代の米国の外交政策－平和のための構築」（下）（全文・一九七一年二月二五日）〔アメリカ大使館訳〕　一二－八七
三島事件と平和憲法の再点検（下）〔田畑厳穂〕　八九－一〇五

第一〇八五号　一九七一年五月号

巻頭言　台湾民衆の意思を問え〔三好貞雄〕　二－二
日中国交正常化慎重論〔落合忠士〕　三－一五
東パキスタン独立運動の内幕（上）〔桐生稔〕　一六－二一
「北方領土問題はすでに解決ずみ」というソ連邦主張の源流を求めて〔遠藤晴久〕　二二－四一
文明開化に抗した国民主義者内藤湖南の中国観とその人〔鈴木英史〕　四二－四四

義井博著『昭和外交史』を読んで〔大井篤〕　四五－四六
国連憲章における集団自衛権（二）〔佐藤重徳〕　四七－五六

第一〇八六号　一九七一年六月号

巻頭言　再び国民政府に提言する－速かに台湾独立の宣言を〔武藤貞一〕　二－三
国連外交と中国〔田尻愛義〕　四－一七
革命未だ成功せず－辛亥革命から六〇周年目を迎えて〔森田大耕〕　一八－二四
東パ独立運動の内幕（中）－独立の条件〔桐生稔〕　二五－三〇
第一回のゴムルカ時代－一九四五～一九四八〔リチャード・ピスコックス（遠藤晴久訳）〕　三一－四六
日英同盟締結前後に於ける独逸の動き〔河村一夫〕　四七－五三
国連憲章における集団自衛権（三）〔佐藤重徳〕　五四－六五

第一〇八七号　一九七一年七・八月号

巻頭言　ニクソンの詭道外交と日本〔三好貞雄〕　二－二
米中ソ関係と日本外交〔田中直吉〕　三－二二
新局面のソ連外交〔茂森唯士〕　二三－二八
東パ独立運動の内幕（下）〔桐生稔〕　二九－三九
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（一）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　四〇－四四
書評　矢田部厚彦著『核兵器不拡散条約論－核の選択をめぐって』〔牧内正男〕　四五－四五

書評　池田正之輔著『シナ民族性の解明』について〔越村衛一〕　四六－四七
書評　ゲルト・レッシンク著　佐瀬昌盛訳『ヤルタからポツダムへ』〔遠藤晴久〕　四八－五四
国連憲章における集団自衛権（四）〔佐藤重徳〕　五五－七一

第一〇八八号　一九七一年九月号

巻頭言　中国問題は〝慎重〟に〔三好貞雄〕　二－二
韓日協力と国際情勢〔李東元〕　三－七
米中接近の国際政治的環境〔斎藤忠〕　八－一五
ＰＲＣ第三のターニング・ポイント－客観的合理性と主観的能動性の統一〔土井章〕　一六－二一
ニクソン・ショックと戦後日本人の異常体質（上）〔大嶋忠雄〕　二二－二八
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（二）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　二九－四二
地域的取極及び地域的機関に基づく力の行使（一）〔佐藤重徳〕　四三－五八

第一〇八九号　一九七一年一〇月号

巻頭言　再びニクソン外交を排す〔三好貞雄〕　二－三
東亜国際政治の変局と日中問題－孤立無援でわが国が「日中問題」に取組めば無条件降伏とわが国の左翼革命以外に途はない〔神川彦松〕　四－一二
日米の新関係〔牧内正男〕　一三－一八
ニクソン・ショックと戦後日本人の異常体質（下）

―「西欧民主主義＋占領政策＝虚像的脱国家時代」の日本の悲劇〔大嶋忠雄〕　一九―二五
一九〇〇年の極東の政局と青木外相の決断〔河村一夫〕　二六―三三
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（三）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　三四―四七
総会による武力行使（一）〔佐藤重徳〕　四八―五九

第一〇九〇号　一九七一年一一・一二月合併号

巻頭言　中共政権承認の前提〔三好貞雄〕　二―二
日本外交の混乱と立直しの必要〔廣田洋二〕　三―一三
韓国民族思想と韓日関係〔李瑄根〕　一四―二一
北朝鮮の外交―過去・現在・未来〔姜英勲〕　二二―二六
アジアの将来を考える九ヶ国共同委員会東京総会報告（一九七一年一〇月三〇日）〔木内信胤〕　二七―三二
書評　この人と業績　西俣昭雄氏の『国際法研究』を読みて〔大平善梧〕　三三―三四
キューバ・カストロ革命―国際政治からみた総合研究（六）〔今村之治〕　三五―四九
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（四）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　五〇―五八

第一〇九一号　一九七二年一月号

巻頭言　失敗を続けるアメリカ外交〔三好貞雄〕　二―四
対等の日中交渉を〔鍋山貞親〕　五―八
中東紛争の経過と展望〔岩永博〕　九―一五

ジブラルタルを挟む英・西外交戦－「欧州の沖縄」ジブラルタル〔西俣昭雄〕　一七－二六
セオドア・ローズベルト大統領のサガモア・ヒル邸〔松村正義〕　二七－三四
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（五）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　三五－五一
総会による武力行使（二）〔佐藤重徳〕　五二－五九

第一〇九二号　一九七二年二月号

巻頭言　バングラ・デシュを徹底援助せよ〔三好貞雄〕　二－二
アジアに〝冷戦構造〟到来－印パ戦争における中ソ米角逐の解剖〔林三郎〕　三－七
台湾の帰属は未解決だ－日本は対日平和条約に背けない〔田村幸策〕　八－一一
中国社会の遠心性と求心性〔山村文人〕　一二－一六
資料　ニクソン米大統領の一般教書（一九七二年一月二〇日）〔アメリカ大使館訳〕　一七－二二
キューバ・カストロ革命－国際政治からみた総合研究（七）〔今村之治〕　二三－三五
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（六）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　三六－四七
総会による武力行使（三）〔佐藤重徳〕　四八－五九

第一〇九三号　一九七二年三月号

巻頭言　米中会談は果して東亜の緊張を緩和したか〔三好貞雄〕　二－四
ニクソン大統領訪中の成果－偉大な対内、対外的影響〔田村幸策〕　五－一二
米中首脳会談のバランスシート〔上別府親志〕　一三－二〇

ニクソン訪中とソ・中の対日外交宣伝攻勢〔甲谷悦雄〕　二一－二四
資料　一九七〇年代のアメリカ外交政策　浮上する平和構造（上）
－リチャード・ニクソン大統領の議会への報告（一九七二年二月）〔アメリカ大使館訳〕　二五－六八
新刊紹介『鹿島守之助外交論選集（一）日本外交の展望』〔長田研一〕　六九－七一

第一〇九四号　一九七二年四月号（バングラデシュ特集号）

巻頭言　沖縄秘密文書の暴露について〔三好貞雄〕　二－三
バングラデッシュに使して－ネパール・印度も訪ねて〔長谷川峻〕　五－一六
バングラデシュを訪れて－ラーマン首相、チョードリ大統領の印象〔崔書勉〕　一七－二七
バングラデシュ独立をめぐる諸問題（そのA）〔青野博昭〕　二八－三四
資料　一九七〇年代のアメリカ外交政策　浮上する平和構造（中）
－リチャード・ニクソン大統領の議会への報告（一九七二年二月）〔アメリカ大使館訳〕　三五－七四
書評　菊地正著『現代国際法論』（上）を読む〔今村之治〕　七五－七七

第一〇九五号　一九七二年五月号

巻頭言　沖縄秘密文書と社会党〔三好貞雄〕　二－二
戦争の反省と米中、日中外交〔田尻愛義〕　三－一五
バングラデシュ独立をめぐる諸問題（そのB）〔青野博昭〕　一六－二二
資料　タイの政変と革命団布告〔上野英詞〕　二三－二七

資料　一九七〇年代のアメリカ外交政策　浮上する平和構造（下）
―リチャード・ニクソン大統領の議会への報告（一九七二年二月）〔アメリカ大使館訳〕　二八―五九
書評　義井博著『国際関係史』〔村島滋〕　六〇―六三

第一〇九六号　一九七二年六月号

巻頭言　米ソ首脳会談と世界政策〔三好貞雄〕　二―二
米ソ首脳会談の経過とその成果〔牧内正男〕　三―八
バングラデシュをめぐる諸問題（そのC）〔青野博昭〕　九―一四
西独憲法下における選挙制度の歴史的考察〔村田孝雄〕　一五―二七
資料　ベトナムの政党〔グエン・ゴク・フィ（三井光夫訳）〕　二八―三四
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（七）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　三五―四三
平和のための統合決議〔佐藤重徳〕　四五―五九

第一〇九七号　一九七二年七月号

巻頭言　新内閣の課題＝日中・日ソ交渉〔三好貞雄〕　二―二
国防会議と文民統制〔林一郎〕　三―一九
言論報道の自由と記者道徳の再建について〔マスコミ偏向に反対する市民会議
（提唱者　稲葉秀三・小野秀雄・唐島基智三・高田元三郎・細川隆元・御手洗辰雄）〕　二〇―二〇
バングラデシュ独立をめぐる諸問題（そのD）〔青野博昭〕　二一―二六

資料　ムルングシ宣言と経済のザンビア人化（上）〔菅野亮子〕　二七－三八
ポーランド、それは奈落への橋渡しか？（八）〔リチャード・ヒスコックス（遠藤晴久訳）〕　三九－五二
書評『武藤貞一評論集　脱占領体制篇』〔三好貞雄〕　五三－五五

第一〇九八号　一九七二年八月号（韓国特集号）

巻頭言　南北平和統一の共同声明に就て〔三好貞雄〕　二－二
日本人としての韓国への期待〔木内信胤〕　三－六
アスパックの新しい座標－共栄への協力基盤再定立〔李東元〕　七－一三
韓国より帰りて〔金山政英〕　一四－一七
韓国外交の座標－南北共同声明の前後を中心に〔崔鍾起〕　一八－二九
朝鮮に於ける南北問題〔植田捷雄〕　三〇－三四
韓国経済の発展段階と経済協力の課題〔高承済〕　三五－四〇
国際情勢と東北アジア－韓半島と日本を中心として〔咸秉春〕　四一－四五
韓半島に於ける三八度線問題等の歴史的考察〔李瑄根〕　四六－五一
韓半島統一と日本人の立場〔筑波常治〕　五二－五四
南北共同声明、その後のソウル－金鍾泌国務総理会見記〔崔書勉〕　五五－五八

第一〇九九号　一九七二年九月号

巻頭言　韓国国務総理金鍾泌氏との会見

－日中国交正常化について田中首相に訴える〔三好貞雄〕　二－三
日米首脳会談を解剖する－自主的多角外交の展開へ〔牧内正男〕　四－九
脱イディオロギー時代のソ連外交の実態〔尾上正男〕　一〇－一八
状況倫理から落ちた台湾と日本の認識－外交は経済問題だけに終始しうるか〔池田龍紀〕　一九－二六
バングラデシュをめぐる諸問題（そのE）〔青野博昭〕　二七－三七
韓国統一問題と国際法〔盧明濬〕　三九－四六
二十世紀初盤期の韓半島情勢と今日〔李鍾麟〕　四七－五三
資料　ムルングシ宣言と経済のザンビア人化（下）〔菅野亮子〕　五四－六五

第一一〇〇号　一九七二年一〇・一一月号

巻頭言　日中国交正常化の後に来るもの〔三好貞雄〕　二－三
アンケート「日中共同声明に対する評価乃至批判」「対台湾、対ソ連政策はどうすべきか」
「これからの日本のアジア外交はどうあるべきか」
〔東季彦・阿久沢英男・赤尾敏・安部博純・青木出郎・江頭数馬・江木武彦・衛藤瀋吉・
遠藤晴久・藤田信勝・古谷茂・藤田義光・後藤義隆・具島兼三郎・後藤乾一・林三郎・
桧垣徳太郎・畑田重夫・林理介・広井大三・服部実・日比野正明・萩原幽香子・今井武夫・
伊手健一・池亀貞雄・石田栄雄・今井勝郎・稲垣整・岩村三千夫・生島廣治郎・伊藤皓文・
伊東大太郎・岸田修・金田近二・金山政英・気賀健三・倉前義男・栗原健・香西茂・
甲谷悦雄・片山哲・草間秀三郎・栗山礼行・桑原寿二・黒羽茂・上別府親志・笠原正明・

川上壮一郎・神川正彦・古賀雷四郎・加藤隆・黄昭堂・許世楷・上条末夫・粕谷進・近藤真男・三好修・森田大耕・牧内正男・前原光雄・松尾弘・宮崎正雄・宮崎繁樹・松下正寿・向井長年・元川房三・三潴信吾・皆川洸・丸山繁郎・武藤貞一・三宅正樹・真鍋一・鍋山貞親・内藤智秀・永田一郎・西村熊雄・中山治一・岡本悟・大平善梧・大井篤・大島忠雄・大田政作・小川信孝・大場格之助・奥野栄・沖野亦男・落合忠士・越智元治・大原実・末次一郎・芹田健太郎・鈴木広・白鳥令・関戸辰蔵・瀬戸山三男・菅谷重平・茂森唯士・白井正・末松満・清水良三・坂田善三郎・杉沢昭一・瀬尾秀彰・斎藤忠・進藤栄一・鈴木憲一・高木友三郎・鳥居信之・橘善守・谷口雅春・田中正明・田中栄一・土屋茂樹・田中俊郎・高瀬浄・高山恒雄・高野雄一・角田時雄・上田修一郎・浦野起央・宇野重昭・梅原一雄・渡嘉敷一郎・山本節士・山室英男・山本豊・矢部鈞次・山田晟・安岡正篤・座間勝平・匿名氏・小峯柳多・西田八郎・松本善明・星野力・横尾和歌子・大畑篤四郎〕　四－六二

ソ連に使して－北方領土問題を平和条約交渉に〔福田篤泰〕　六三－六七

戦乱のなかの和平－ベトナム戦争の現段階〔青野博昭〕　六八－七六

第一一〇一号　一九七二年一二月号

巻頭言　ベトナム和平について思うこと〔三好貞雄〕　二－二

三極構造へ日中の波紋－中ソ外交と日本の立場〔茂森唯士〕　三－六

アダム・スミスの防衛論〔伊藤皓文〕　七－一三

危険な愚論の横行を許すな－日中国交正常化について心すべきこと〔田村幸策〕　一四－一七
ソ連・東欧を訪ねて〔長谷川峻〕　一八－二五
一大兵器廠　中国大陸に出現か　武力解放勢力の投げ網にかかる
－ものに怖じない自民三派連合政権〔大島忠雄〕　二六－四三
国連憲章に基く武力行使の可能性〔佐藤重徳〕　四四－六一

第一一〇二号　一九七三年一月号

巻頭言　アジア国家連合への途〔三好貞雄〕　二－二
中ソの対立とアジア太平洋の安全〔土井章〕　三－八
中国平和共存外交の新段階〔上別府親志〕　九－一五
試行錯誤行き悩む中国の教育改革〔藤井彰治〕　一六－二三
外交は切れたが国交は続いている〔李嘉〕　二四－二六
またもや誤てり日本!!－日本の未来像への憶測〔アジアの小民（中華民国の有力者の匿名）〕　二七－三五
『ポスト・ベトナム』序章〔青野博昭〕　三六－四五
米・ソ両極体制－起因・終焉・評価〔宇津野常人〕　四六－五六

第一一〇三号　一九七三年二月号

巻頭言　ベトナム和平の解釈はグローバルに〔三好貞雄〕　二－二
アジア経済外交当面の課題〔牧内正男〕　三－六

ベトナム和平後の東南アジア〔林理介〕　七－一二
国家と防衛－ホッブズの理論をめぐって〔伊藤皓文〕　一三－三九
北方問題早期解決のために－アメリカ各地を巡って〔能戸英三〕　四〇－四七
資料　一九七二年タイ王国憲法の公布〔上野英詞〕　四九－五三

第一一〇四号　一九七三年三月号

巻頭言　ベトナム戦争の世界史的意義－浮薄な北ベトナム戦勝説を駁す〔田村幸策〕　二－六
ベトナム和平の成立（上）〔浦野起央〕　七－二二
ベトナム関連資料（その一）　二二－六三

第一一〇五号　一九七三年四月号

巻頭言　東西安保・協力条約－対共産圏への自由主義圏の反攻〔三好貞雄〕　二－二
ベトナム和平の成立（中）〔浦野起央〕　三－一九
ベトナム関連資料（その二）　二一－四六
ラオスにおける平和の条件〔青野博昭〕　四七－五二
西カリマンタンにおける共産ゲリラとダヤク族（上）〔森田大耕〕　五三－六一

第一一〇六号　一九七三年五・六月合併号

巻頭言　日本に共産革命の理由も必要もない－共産化の助産婦はマスコミ〔田村幸策〕　二－四

ベトナム和平の成立（下）〔浦野起央〕　五－二五
ベトナム問題年表（一九七〇～一九七三）　二六－五〇
ベトナム関連資料（その三）　五一－六八
プノンペン政府の危機〔青野博昭〕　六九－七五
書評　対外経済協力の促進方策を検討するための実務参考資料として
－鹿島平和研究所の対外経済協力大系について〔中村今朝雄〕　七六－七七

第一一〇七号　一九七三年七月号

巻頭言　国際政治にも国際道徳は必須－日本の対米外交には倫理が欠如か〔田村幸策〕　二－三
毛沢東、最後の闘争へ－文革派による後継体制づくりを急ぐ〔伊藤喜久蔵〕　四－一九
国共対決の微妙な変化〔上別府親志〕　二〇－二六
ベトナム関連資料（その四）　二八－七一

第一一〇八号　一九七三年八月号

巻頭言　心情外交と打算外交〔三好貞雄〕　二－二
低迷続く中東情勢〔岩永博〕　三－九
西カリマンタンにおける共産ゲリラとダヤク族（下）〔森田大耕〕　一〇－二〇
書評　メッケルと日本陸軍－ケルスト博士の『メッケル研究』を読んで〔角田順・三宅正樹〕　二一－二八
パリ協定の実施状況と協定実施に関する共同声明〔浦野起央〕　二九－三八

ベトナム関連資料（その五）　三九－四六
ベトナム関係文献〔浦野起央〕　四七－五二

第一一〇九号　一九七三年九月号

巻頭言　悪魔と会食するには長匙を要す
－日ソ首脳会談について田中首相に餞する〔三好貞雄〕　二－四
ソ連の〝緊張緩和攻勢〟の真意〔甲谷悦雄〕　五－一一
日米首脳会談と今後の両国関係〔牧内正男〕　一二－一六
アフガニスタン・クーデターと西アジアの危機－その歴史的回顧と将来への危惧〔林理介〕　一七－二二
大詰にきたカンボジア情勢〔青野博昭〕　二三－三一
田中外交一年の勤務評定－見逸されている日中正常化外交失敗〔椋木瑳麿太〕　三二－三五
アメリカ、キューバ間のハイジャッキング防止協定瞥見〔菊地正〕　三六－四一
明治十四年のハワイ皇帝来朝について〔河村一夫〕　四二－四五
書評　鹿島平和研究所の対外経済協力大系の「重要資料集」について〔中村今朝雄〕　四六－五〇

第一一一〇号　一九七三年一〇・一一月合併号

日ソ首脳会談と今後の日ソ関係〔尾上正男〕　二－八
首相訪欧ソの成果〔牧内正男〕　九－一六
強制される不安な平和－ラオス和平議定書の調印によせて〔青野博昭〕　一七－二一

印パ戦争の経緯・バングラデシュの独立　二二－二六
〝開発への試練〟最近のバングラデシュ経済〔桐生稔〕　二七－四四
印パ戦争とその終結経緯並びにその関連資料〔上野英詞〕　四五－五三
国連における第三次印パ戦争の審議－バングラディシュの独立をめぐって〔下羽友衛〕

第一一一一号　一九七三年一二月号（中東戦争特集号）

巻頭言　自主外交確立の正念場〔三好貞雄〕　二－二
中東和平会議の行方〔岩永博〕　三－九
第四次中東戦争の過程と中東和平の展望〔浦野起央〕　一〇－四〇
第四次中東戦争の資料（上）〔浦野起央・上野英詞 編〕　四一－四八
中近東関係文献解説（一）－国際政治からみた最近の文献から〔今村之治〕　四九－五五

第一一一二号　一九七四年一月号

巻頭言　中国大陸の命運
－北京はなぜ孔子の教義を怖れるのか　なぜ始皇帝の焚書坑儒を礼讃するのか〔田村幸策〕　二－四
わが国外交の進路－新しい年を迎えて〔大平正芳〕　五－九
多角的「訪問外交」の展開〔牧内正男〕　一〇－一五
中国西部における対ソ戦準備についての一考察〔矢野光二〕　一六－二二
中東問題特集

日本の中東外交の背景と展望〔エフド・ハラリ〕　二三－三一
第四次中東戦争の資料（二）〔浦野起央・上野英詞 編〕　三二－三七
資料 中東問題に関する二階堂官房長官談話（一九七三年一一月二二日）　三八－三八
資料 イスラエル政府声明
－日本政府の新中近東政策に対するイスラエル側の公式見解（一九七三年一一月二五日）　三八－三九
資料 エルサレムポスト社説「日本の降伏」（一九七三年一一月二三日付）　四〇－四〇
中近東関係文献解説（二）－国際政治からみた最近の文献から〔今村之治〕　四一－四五
書評 寺本婉雅著・横地祥原編『蔵蒙旅日記』〔矢野生〕　四五－四五

第一一一三号　一九七四年二・三月合併号

巻頭言 外交は道義と正道とを濶歩せよ〔三好貞雄〕　二－二
アラブ石油禁輸問題の国際政治的考察〔神川彦松〕　三－九
危機をはらむ石油外交－米仏対立に終った主要石油消費国会議〔林理介〕　一〇－一四
第四次中東戦争の資料（三）〔浦野起央・上野英詞 編〕　一五－二五
大韓民国はなぜ緊急措置を取らざるをえなかったか〔李秉禧〕　二六－三二
中国外交政策の焦点－喬冠華中国国連代表の国連総会報告をめぐって〔帆足計〕　三三－三九
恵州事件について〔河村一夫〕　四〇－四四

第一一一四号　一九七四年四月号

巻頭言 キッシンジャー外交の功過〔三好貞雄〕　二－二
中ソ関係と批孔・ソ氏（ソルジェニーツィン）追放特集号
中国の批孔キャンペーンと対外政策〔土井章〕　四－七
体質としての言論拘束－ソ氏追放と批孔運動〔津久井龍雄〕　八－一一
ソ連政権の恐怖的性格を再確認－ソ連史の真実を描くソルジェニチン〔田村幸策〕　一二－一七
日中関係の現状と過去〔鍋山貞親〕　一八－二三
孔子思想と中華文化〔呉経熊（藤井彰治訳）〕　二四－二九
ソ連に対決する中国の計算〔上別府親志〕　三〇－三六
第四次中東戦争の資料（四）〔浦野起央・上野英詞 編〕　三七－五四

第一一一五号　一九七四年五月号

巻頭言 世界経済会議を開け〔斎藤栄三郎〕　二－三
中東情勢と日本〔地引嘉博〕　四－一三
国際通貨安定それへの一提言〔長谷川光太郎〕　一四－一八
国際保障の有効性を信じる者はいるか〔アラン・ドウテイ〕　一九－二四
フセインのヨルダン連合王国構想とイスラエルの反応〔浦野起央〕　二五－三五
イスラエルの第八回総選挙と各政党の立場〔浦野起央〕　三六－四八
第四次中東戦争の資料（五）〔浦野起央・上野英詞 編〕　四九－五八

第一一一六号　一九七四年六・七月合併号

巻頭言　日韓関係を憂う〔三好貞雄〕　二－四
ニクソン大統領の訪ソと米ソ関係〔館山彰〕　五－九
アジア解放の第四ラウンド〔田中正明〕　一〇－一八
北鮮における日本人妻の窮状に関する永末英一議員の質問〔崔書勉〕　一九－二四
日中航空協定で、何故中国西北部を通させないか〔矢野光二〕　二五－二八
サモヒン文書は本当に〝重要極秘情報〟か？－その真憑性を論ず〔竹中重寿〕　二九－三三
ウジャマア－アフリカ社会主義の基礎〔ジュリアス・ニエレレ（菅野亮子訳）〕　三四－四一
アラブ・イスラエル紛争の現段階〔バーナード・ルイス〕　四二－四八

第一一一七号　一九七四年八月号

巻頭言　日米外交の新転換〔三好貞雄〕　二－二
日加経済関係の展望〔斎藤邦彦〕　三－五
第三世界の核拡散ブーム〔千種光夫〕　六－一一
核兵器不拡散条約批准の条件〔斎藤忠〕　一二－一八
北鮮の国内情勢と対韓工作〔宇田川四郎〕　一九－二五
厦門事件について〔河村一夫〕　二六－三〇
中東戦争の資料（六）〔浦野起央・上野英詞　編〕　三一－四〇

第一一一八号　一九七四年九月号

巻頭言　日本外交の根本姿勢について〔三好貞雄〕　四－四
国際経済の現状について〔渡辺幸則〕　五－一〇
ポルトガル政変と植民地問題〔青木出郎〕　一一－三一
中国未完の革命（一）－批林批孔運動と社会主義建設〔上別府親志〕　三二－三八

第一一一九号　一九七四年一〇月号

巻頭言　外交は国力の反映である〔三好貞雄〕　二－二
核兵器拡散防止条約と日本〔H・O生〕　三－七
資源外交の突破口－「対話と協調」による多角外交〔牧内正男〕　八－一五
インド洋における米ソ海軍の覇権争い〔竹中重寿〕　一六－二四
日本とアフリカ〔浦野起央〕　二五－四三

第一一二〇号　一九七四年一一月号

巻頭言　中国革命の特異性〔三好貞雄〕　二－二
中国の現在と将来〔武藤貞一〕　三－一七
首相三国歴訪の意義と成果〔牧内正男〕　一八－二二
空転する農民・農村政策－中国未完の革命（二）〔上別府親志〕　二三－三二
満洲事変勃発前後に於ける宣統帝侍臣の動き

－特に陳宝琛と羅振玉との関係について〔河村一夫〕　三三－四一

第一一二一号　一九七四年一二月号

巻頭言　北方領土の主権は日本に存在〔田村幸策〕　二－五
毛沢東の革命像－中国未完の革命（三）〔上別府親志〕　六－一四
中国文化大革命総括の現状
－豪州労働党訪中使節団参加ロス・テリル教授著『中国の自由』紹介〔帆足計〕　一五－二三
中東戦争の資料（七）〔浦野起央・上野英詞　編〕　二四－三一
中国の核戦略についての一考察〔矢野光二〕　三二－三三

第一一二二号　一九七五年一・二月合併号

巻頭言　核外交確立の要望〔三好貞雄〕　二－二
世界的展望の下に長期的視野に立った外交を〔宮沢喜一〕　三－四
日米新時代－フォード大統領を迎えて〔松浦晃一郎〕　五－一〇
転機にたつ中東和平〔岩永博〕　一一－一六
イスラエルが強硬態度を取る理由〔トビア・ブルメンタール〕　一七－一九
その後のポルトガル政情と植民地問題（上）〔青木出郎〕　二〇－二七
文化革命という名の体制内改革（上）－中国未完の革命（四）〔上別府親志〕　二八－三五

第一一二三号　一九七五年三月号

巻頭言 アメリカの石油戦略〔三好貞雄〕　二－二
国際政治と文明論よりみた世界の現状と将来〔神川彦松〕　三－一〇
中ソ関係の展望〔小泉真之〕　一一－一九
第四期人民代表大会の意義〔土井章〕　二〇－二四
その後のポルトガル政情と植民地問題（下）〔青木出郎〕　二五－三五

第一一二四号　一九七五年四月号

巻頭言 米国敗退の根本原因〔三好貞雄〕　二－二
わが対中南米外交の回顧と展望〔中曽根悟郎〕　三－一二
未完の闘争－第四回全国人民代表大会の意味と今後〔伊藤喜久蔵〕　一三－二〇
文化革命という名の体制内改革（中）－中国未完の革命（五）〔上別府親志〕　二一－二八
戦う外務省たれ－ＯＢ大使大いに語る〔長山義男〕　二九－三四
清国特派使節劉学詢の行動について－清末官僚の官海遊泳術の一例〔河村一夫〕　三五－四〇

第一一二五号　一九七五年五月号

巻頭言「経験」か〝反省〟か〔三好貞雄〕　二－二
インドシナ危局と日米関係〔牧内正男〕　三－六
軌道に乗った国際協力事業団〔内田勝久〕　七－一二

国連大学について〔黒川剛〕　一三－一九
文化革命という名の体制内改革（下）－中国未完の革命（六）〔上別府親志〕　二〇－二八
資料　ビルマ連邦社会主義共和国憲法（上）〔西修〕　二九－三八

第一一二六号　一九七五年六月号

巻頭言　原則とは何ぞや－覇権問題の一考察〔三好貞雄〕　二－二
日中平和友好条約の目的と性格を問う〔田村幸策〕　三－四
エネルギー資源問題の行くえ〔片倉邦雄〕　五－一〇
外務省受難史－満洲事変から終戦まで〔長山義男〕　一一－二一
文化革命の落し子・林彪事件－中国未完の革命（七）〔上別府親志〕　二二－二九
資料　ビルマ連邦社会主義共和国憲法（下）〔西修〕　三〇－三八

第一一二七号　一九七五年七・八月合併号

巻頭言　日中平和友好条約締結への途〔三好貞雄〕　二－二
第三次国連海洋法会議－新しい海洋秩序への模索〔黒河内久美〕　三－一一
その後のポルトガル政情と植民地解放問題〔青木出郎〕　一二－二五
我国インフレの前途の若干の見透しとアジア諸国との友好連帯並びに日中平和友好条約の締結について〔帆足計〕　二六－三三
批林批孔運動と階級闘争史観（上）－中国未完の革命（八）〔上別府親志〕　三四－四二

新刊紹介　浦野起央編著「中東国際関係資料集」〔石原政孝〕　四三－四三

第一一二八号　一九七五年九月号

巻頭言〝朝鮮半島の平和〟〔三好貞雄〕　二－二
南米二カ国訪問を終えて〔福田赳夫〕　三－四
ブラジル概観〔外務省アメリカ局中南米課〕　五－一四
新転機にたつ日米関係－三木訪米とシュレジンジャー来日〔牧内正男〕　一五－二一
三宅正樹氏の『日独伊三国同盟の研究』を読んで
松岡洋右の思い出〔岡村二一〕　二二－三二
「日独防共協定」にまつわる回想〔松崎昭一〕　三二－三七
確立された三宅史学〔義井博〕　三七－四五

第一一二九号　一九七五年一〇月号

巻頭言　中国の第三世界論〔三好貞雄〕　二－二
インドシナをめぐる中ソの動向〔小泉真之〕　三－九
国際人道法について〔上岡克彦〕　一〇－一八
批林批孔運動と階級闘争史観（下）－中国未完の革命（九）〔上別府親志〕　一九－二七
永遠の恩人・パール博士を偲んで
パール・下中記念館設立由来〔田中正明〕　二八－三〇

聖者・パール博士〔志村陸城〕　三一－三二
座談会 日本の無罪－パール博士の信念〔A・M・ナイル、田中正明、竹村吉右衛門〕　三三－四四

第一一三〇号　一九七五年一一・一二月合併号

巻頭言 日本の南北問題〔三好貞雄〕　二－二
動勢つづく中東世界〔岩永博〕　三－八
金銀複本位への復活〔長谷川光太郎〕　九－一三
その後のポルトガル政情と植民地問題（上）〔青木出郎〕　一四－二〇
儒教批判と社会主義革命（上）－中国未完の革命（一〇）〔上別府親志〕　二一－三〇
あの頃の上海（一）－終戦前後の憶い出〔長山義男〕　三一－三九

第一一三一号　一九七六年一月号

巻頭言 グロムイコは健忘症でも国際会議の記録は不滅〔田村幸策〕　二－八
新太平洋ドクトリンを論評す－ソ連型大陸同盟とアメリカ型海洋協商との対決・両者の優劣、日本の運命は太平洋共同体〔神川彦松〕　九－一五
儒教批判と社会主義革命（下）－中国未完の革命（一一）〔上別府親志〕　一六－二四
その後のポルトガル（下）〔青木出郎〕　二五－三六
あの頃の上海（二）〔長山義男〕　三七－四〇

第一一三二号　一九七六年二月号

巻頭言 デタントの正体を冷静に見よ〔三好貞雄〕　二－二
中国の経済戦略の変化と対外関係〔土井章〕　三－六
フォード大統領の訪中をめぐって－米中関係の現状と将来〔橋本宏〕　七－一三
中国の工業化と革命路線－中国未完の革命（一二）〔上別府親志〕　一四－二二
第三〇回国連総会を顧みて〔杉内直敏〕　二三－三〇
あの頃の上海（三）〔長山義男〕　三一－三四

第一一三三号　一九七六年三月号

巻頭言 ソ連の猛省を促す〔三好貞雄〕　二－二
転機にたつＡＳＥＡＮ〔牧内正男〕　三－七
中国はどこへいく？〔藤井彰治〕　八－一二
世代交替期の中国指導部－中国未完の革命（一三）〔上別府親志〕　一三－二一
新しい反ユダヤ主義〔シュローモ・アブネリ〕　二二－二六
海外子女教育の現状〔小関利武〕　二七－三二
あの頃の上海（四）〔長山義男〕　三三－三八

第一一三四号　一九七六年四・五月合併号

巻頭言 タイ総選挙の意味するもの〔三好貞雄〕　二－二

キッシンジャー長官の中南米訪問〔伊神修〕　三－一二
米州機構憲章の改正問題〔外務省アメリカ局・中南米第一課〕　一三－二三
ソ連共産党第二五回大会の特徴と今後の課題〔竹中重寿〕　二四－二八
解放軍の人脈形成の諸条件（上）－中国未完の革命（一四）〔上別府親志〕　二九－三七

第一一三五号　一九七六年六月号

巻頭言　印ソ間のギクシャクは何を語るか〔三好貞雄〕　二－二
社会主義・共産主義とは何であったのか〔尾上正男〕　三－九
ミンダナオ島の回教徒反乱軍の実体を現地に見る〔竹中重寿〕　一〇－一五
解放軍の人脈形成の諸条件（下）－中国未完の革命（一五）〔上別府親志〕　一六－二五
阪谷芳郎財政顧問の中国派遣問題と英米両国の反応〔河村一夫〕　二六－三四
あの頃の上海（五）〔長山義男〕　三五－四〇

第一一三六号　一九七六年七月号

巻頭言　アメリカ建国祭と新米外交〔三好貞雄〕　二－二
第三次国連海洋法会議第四会期（ニューヨーク春会期）
－新しい海洋秩序の形成過程〔井口武夫〕　三－一五
ソ連邦党要人の軍内進出と軍事政策〔完倉寿郎〕　一六－三〇
発展途上国と発展のレベル（上）〔国連事務局（浦野起央訳）〕　三一－四五

第一一三七号　一九七六年八月号

巻頭言　東亜の現状をくずすな〔三好貞雄〕　二－二
第四回ＵＮＣＴＡＤを顧みて〔堀村隆彦〕　三－八
第四回ＵＮＣＴＡＤ木村俊夫日本政府首席代表演説（一九七六年五月一一日ナイロビ）　九－一五
その後のポルトガル植民地問題〔青木出郎〕　一六－二四
発展途上国と発展のレベル（下）〔国連事務局（浦野起央訳）〕　二五－四一

第一一三八号　一九七六年九月号

巻頭言　建国二百年を迎えたアメリカの国家目的〔田村幸策〕　二－六
国際共産主義運動の歴史とその中における全欧共産党会議の位置づけ〔真弓隆〕　七－二〇
ソ連のいわゆる「無階級社会の招来」とか「民族解放」というイデオロギーの
　まやかしについて〔落合忠士〕　二一－二八
鄧小平失脚にみる中国の新動向〔上別府親志〕　二九－三七
満州事変直前の張学良の一面
　－昭和六年春の宋元明清美術展への名画出陳に関連して〔河村一夫〕　三八－四二

第一一三九号　一九七六年一〇・一一月合併号

巻頭言　ブレジネフ書記長に与う〔三好貞雄〕　二－四
特集　アンケート　毛主席死亡後の中国

〔青木出郎・安倍源基・中華週報・遠藤晴久・江尻進・藤井彰治・藤田信勝・藤田宏郎・長谷川光太郎・日比野正明・林三郎・原正行・服部秀一・石川忠雄・伊手健一・池田善昭・石村暢五郎・岩村博文・伊藤皓文・磯崎健之助・岩島久夫・小島憲・北岡勲・甲谷悦雄・上条末夫・岸田純之助・亀山一二・清野健・久保田徳夫・金晋根・絹川二郎・木村明生・金山政英・近藤三千男・北島平一郎・近藤真男・上別府親志・加藤隆・三潴信吾・森田大耕・松本明重・牧内正男・宮崎繁樹・真鍋一・森松俊夫・宮脇岑生・松下正寿・宮下忠雄・増田弘・丸山繁郎・柘山堯司・森山昭郎・長山義男・中嶋嶺雄・中山治一・野村実・岡本順一・大原実・小幡操・越智元治・王子天徳・落合忠士・大沢正臣・大島忠雄・佐々木春隆・坂田善三郎・清水良三・末松満・末次一郎・島谷正亮・関戸辰蔵・瀬尾秀彰・瀬川善信・斎藤忠・田岡良一・田中勇・田中正明・津久井龍雄・渡嘉敷一郎・竹中重寿・辰巳浅嗣・梅原一雄・渡辺昭夫・安岡正篤・山村文八・山中大吉・吉田奎文・霊山徳行・小山内高行・山口開治・江頭数馬〕　五－四一

ポーツマス講和条約の元型はイェール大学で生まれた（一）〔松村正義〕　四二－四七

第一一四〇号　一九七六年一二月号

巻頭言　華国鋒体制の本質と将来〔三好貞雄〕　二－三

レバノン内戦の終結と今後〔岩永博〕　四－八

最近の国際情勢とわが国の外交課題〔阿木八郎〕　九－一四

ポーツマス講和条約の元型はイェール大学で生まれた（二）〔松村正義〕　一五－二〇

松山大学論集　第二十六巻　第四号

中ソ対立とアジア情勢の流動性－回顧と展望〔島谷正亮〕　二一－二四
発展途上国と参加のレベル（上）〔浦野起央〕　二五－三八

資料

『外交時報』総目次―戦後編(四)

――一九七七年一月第一一四一号～一九八九年一二月第一二六三号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

第一一四一号　一九七七年一月号

巻頭言　アメリカとソ連の外交のちがい〔三好貞雄〕　二―三
米大統領選挙とカーター新政権について〔藪中三十二〕　四―一〇
人種主義問題と国連の解体〔ポール・ジョンソン〕　一一―一五
アフリカの〝ハードコア〟発展途上国の問題と政策〔Y・Z・キエシミラ（菅野亮子訳）〕　一六―二三
国際連盟の対イタリア経済制裁（一）―イタリア・エチオピア戦争における〔海野芳郎〕　二四―三一
ポーツマス講和条約の元型はイェール大学で生まれた（三）〔松村正義〕　三二―三五
中央アジア紀行（一）―西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　三六―四一

第一一四二号　一九七七年二月号

巻頭言　革命は手段で目的は民生の向上〔田村幸策〕　二－四
華国鋒体制と十大関係論〔土井章〕　五－九
国際連盟の対イタリア経済制裁（二）－イタリア・エチオピア戦争における〔海野芳郎〕　一〇－一六
ポーツマス講和条約の元型はイェール大学で生まれた（四）〔松村正義〕　一七－二三
中央アジア紀行（二）－西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　二四－三二

第一一四三号　一九七七年三月号

巻頭言　人権外交の行方〔三好貞雄〕　二－四
中ソ和解の可能性と限界〔竹中重寿〕　五－九
ワルシャワ条約統合軍総司令官とソ連軍参謀総長の交代〔完倉寿郎〕　一〇－一六
国際連盟の対イタリア経済制裁（三）〔海野芳郎〕　一七－二三
グリーンランド旅行記〔大和田渉〕　二四－三七
中央アジア紀行（三）－西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　三八－四三

第一一四四号　一九七七年四・五月合併号

巻頭言　マンスフィールド新駐日大使を迎えて日本のアジア復興の使命を思う〔三好貞雄〕　二－四
試練に立つ経済外交－日ソ漁業交渉の経緯に見る〔牧内正男〕　五－九
正念場を迎えた華国鋒政権〔藤井彰治〕　一〇－一六

サー・アーネスト・サトウ〔川崎晴朗〕　一七－二四
国際連盟の対イタリア経済制裁（四）〔海野芳郎〕　二五－二九
中央アジア紀行（四）－西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　三〇－三三

第一一四五号　一九七七年六月号（日ソ関係特集号－領土問題と漁業交渉）

巻頭言　領土回復百年戦争の展開〔三好貞雄〕　二－五
われわれの北方領土〔外務省情報文化局編〕　六－八
ポリヤンスキー大使閣下に訴える
－スターリン・フルシチョフ時代にならって平和条約の締結を推進されたい〔田村幸策〕　九－一四
世界史上における日露関係の考察〔神川彦松〕　一五－二一
ソ連の世界政治戦略と日・ソ関係〔甲谷悦雄〕　二二－二九
日ソ漁業交渉をふりかえって〔尾上正男〕　三〇－三三
日ソ漁業交渉と領土問題〔牧内正男〕　三四－三五
中ソ対決の再燃と日本〔上別府親志〕　三六－四三

第一一四六号　一九七七年七・八月合併号

巻頭言「アジア国家連合」への一歩前進を〔三好貞雄〕　二－二
わが国の対ＡＳＥＡＮ外交
－米国の肩代りという考え方はアナクロニズムである〔西山健彦〕　三－八

日本をとりまく二つの関係、漢字圏とＡＳＥＡＮ〔千種光夫〕　九－一三
「毛沢東選集」第五巻の研究（一）〔上別府親志〕　一四－二二
第一三回パレスチナ民族評議会（ＰＮＣ）－新綱領の詳細と分析〔Ｙ・ハルカビ〕　二三－三〇
中央アジア紀行（五）－西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　三一－三四

第一一四七号　一九七七年九月号

巻頭言　日本の東南亜外交三原則〔三好貞雄〕　二－四
遠のいたジュネーブ和平会議再開とアフリカの角の紛糾〔岩永博〕　五－一〇
デタント戦略にみられるアメリカの弱さとソ連の強さ〔落合忠士〕　一一－一七
「毛沢東選集」第五巻の研究（二）〔上別府親志〕　一八－二六
明治中期における外交文書公開の建議〔安岡昭男〕　二七－三〇
中央アジア紀行（六）－西トルキスタンを中心に〔長山義男〕　三一－三四

第一一四八号　一九七七年一〇月号

巻頭言　日中平和友好条約締結の機熟す〔三好貞雄〕　二－二
福田総理の東南アジア歴訪
－その意義と今後の課題そして舞台裏での一つの感慨〔西山健彦〕　三－一〇
ハノイ雑感〔長谷川孝昭〕　一一－一三
「毛沢東選集」第五巻の研究（三）〔上別府親志〕　一四－二三

アダム・スミス二百年祭にさいして、古典経済のゆらいを偲ぶと共に
―ケーンズ学説によりこの不景気を免れうるや否や？〔帆足計〕　二四―三二

第一一四九号　一九七七年一一月号

巻頭言　日・米・韓、力の平衡状態〔三好貞雄〕　二―三
華国鋒体制と毛沢東思想の総合化〔土井章〕　四―一〇
ソ連のアフリカ政策の明暗〔竹中重寿〕　一一―一四
敗戦外交〔鈴木孝〕　一五―二五
「毛沢東選集」第五巻の研究（四）〔上別府親志〕　二六―三三

第一一五〇号　一九七七年一二月号

巻頭言　凜乎たる態度を以て臨め〔三好貞雄〕　二―五
サダト大統領のイスラエル訪問〔岩永博〕　六―一一
続・敗戦外交〔鈴木孝〕　一二―二〇
現段階の中国の直面する基本的危機〔鄭竹園（藤井彰治訳）〕　二一―二六
「毛沢東選集」第五巻の研究（五）〔上別府親志〕　二七―三四

第一一五一号　一九七八年一月号（日米関係特集号）

巻頭言　日本は牽引車の役目を敢遂せよ〔三好貞雄〕　二―三

座談会 世界経済の中の日本外交－「日本経済開放」へ国際的要求
〔永田晨・山本和郎・土田寿太郎〕　四－一八
日米経済関係の諸問題〔那須聖〕　一九－三一

第一一五二号　一九七八年二月号（続・日米関係特集号）

巻頭言 紛争の根底には何があるか〔三好貞雄〕　二－二
戦後日米関係の回顧－八人の駐日アメリカ大使を中心として〔池井優〕　三－七
日米関係に思う〔下田武三〕　八－一三
日米経済関係資料（一）牛場大使とストラウス大使との共同声明（一九七八年一月一三日）　一四－一六
日米経済関係資料（二）一九七七年一一月及び一－一一月の日米貿易　一七－二九
外交時報と私（一）〔田村幸策〕　三〇－三二

第一一五三号　一九七八年三月号

巻頭言『防衛論議』とは？〔三好貞雄〕　二－三
インドネシアの情勢と日イ関係〔土井章〕　四－八
逆通商破壊戦と海上自衛隊の任務〔近藤眞男〕　九－一三
ウィーンの王宮に住んだ話〔藤山樽一〕　一四－一五
「毛沢東選集」第五巻の研究（六）〔上別府親志〕　一六－二四
外交時報と私（二）〔牧内正男〕　二五－二六

第一一五四号　一九七八年四・五月合併号

巻頭言　日本にとって「軍縮外交」とは何か－外務省に軍縮本部を設置せよ〔三好貞雄〕　二－三

座談会　日本軍縮外交の行方

－国連特別総会を迎えて〔渡辺陽一・岸田純之助・佐藤栄一・前田寿〕　四－二八

資料

軍縮特別総会についての日本政府見解（一九七七年四月一五日）　二九－三〇

通常兵器の国際移転、地域レベルの通常軍備と軍事力の相互規制を含む通常軍備競争の抑制に関する提案

（一九七七年一二月一三日付で軍縮特別総会準備委に提出した作業文書）　三一－三二

軍縮委員会夏会期における「核不拡散」に関する小木曽大使演説（一九七七年八月一一日）　三三－三九

軍縮委員会における小木曽代表の包括的核実験禁止問題に関する演説

（一九七八年三月二日）　四〇－四三

第一一五五号　一九七八年六月号

巻頭言　尖閣列島問題と北京政権〔三好貞雄〕　二－八

中ソ関係三〇年の起伏を展望（上）

－一九六〇年が決裂の分水嶺、鄧小平のモスクワ演説が烽火〔田村幸策〕　九－一七

大正末期より昭和六年に至る日中交流名画展開催に関する渡辺晨畝画伯の活躍について

〔河村一夫〕　一八－二九

外交時報と私（三）〔神川彦松〕　三〇－三三

第一一五六号　一九七八年七月号

巻頭言　時・艱にして哲人政治家を思う〔三好貞雄〕　二－七
座談会「中東和平」の停滞を分析する－解決、米ソ宣言の線で〔岩永博・笹川正博・菊地弘〕　八－三二

第一一五七号　一九七八年八・九月合併号

巻頭言　日中条約のあとに来るもの〔三好貞雄〕　二－三
対談　日韓大陸だな開発問題の経緯と今後〔中江要介・韮沢嘉雄〕　四－一二
中ソ関係三〇年の起伏を展望（下）
－一九六〇年が決裂の分水嶺、鄧小平のモスクワ演説が烽火〔田村幸策〕　一三－二五
核武装と政治〔近藤真男〕　二六－二九
外交時報と私（四）〔田中直吉〕　三〇－三一

第一一五八号　一九七八年一〇月号

巻頭言　国家の興亡と憲法〔三好貞雄〕　二－二
日中条約とソ連の対応〔尾上正男〕　三－七
日中平和友好条約と総合外交の展開〔土井章〕　八－一四
日中条約締結と今後の対ソ外交〔竹中重寿〕　一五－一八

文化大革命後の中国外交の現実とマンスフィールド米大使のアジア政策〔帆足計〕　一九―二七
中ソのアジア共産集団における鬥争〔尹慶耀〔藤井彰治訳〕〕　二八―四〇

第一一五九号　一九七八年一一・一二月合併号

巻頭言　世界をゆるがす三条約〔三好貞雄〕　二―三
錯綜を加える中東情勢〔岩永博〕　四―一一
ヤルタ協定と日本領土の占領〔田村幸策〕　一二―三三

第一一六〇号　一九七九年一月号

巻頭言　一九七九年初頭の世界情勢〔三好貞雄〕　二―三
対談　新時代の幕明け・アジア外交を語る―安定と平和へ日本の力を〔西山健彦・林理介〕　四―三二
緊張か、安定か七九年のアジア〔林理介〕　三三―四〇

第一一六一号　一九七九年二月号

巻頭言　ソ連包囲網の形成―鄧小平の訪米をめぐって　二―四
中国の国内建設と外交政策の対応〔落合忠士〕　五―一九
米・中国交樹立とその国際的影響〔甲谷悦雄〕　二〇―二六
書評　大野勝巳著『霞が関外交、その伝統と人々』〔武内文彬〕　二七―二九

第一一六二号　一九七九年三月号

巻頭言　社会主義国同志の戦争－マルクスの共産主義「幽霊」論　二－三
ソ連の対外政策と千島基地化の背景〔竹中重寿〕　四－六
千島（クリルアイランズ）及び北方四島（歯舞・色丹・国後・択捉）並びに樺太は日本固有の領土である〔西鶴定嘉〕　七－二五
外交時報と私（五）〔譚覚真〕　二六－三二

第一一六三号　一九七九年四・五月合併号

巻頭言　日中条約の価値判断（一）－日中条約は中越戦争の根源だとする「日中条約万悪論」の妄を断ず　二－三
エジプト・イスラエル平和条約の波紋〔岩永博〕　四－九
対談　サミットの源流を語る－第一回先進国首脳会議の思い出とフランスの現情とECを解剖する〔北原秀雄・韮沢嘉雄〕　一〇－二六
外交時報と私（六）　米内山領事の筆禍事件〔長山義男〕　二七－三一

第一一六四号　一九七九年六月号

巻頭言　日中条約の価値判断（二）　二－三
多様化社会での内政と外交－政治家と哲学の問題〔土井章〕　四－八
その後の中越紛争とこれをめぐる国際情勢〔牧内正男〕　九－一一

ソ連軍増強説批判（上）〔佐藤三郎〕　一二―一八
中国は近代化、西向けの道から引返さない〔曹瑛煥（福井希行訳）〕　一九―二七

第一一六五号　一九七九年七月号

巻頭言　日中条約の価値判断（完）　二―八
米ソ間の第二次戦略兵器制限交渉（ＳＡＬＴⅡ）の妥結について〔中司崇〕　九―一九
ソ連軍増強説批判（下）〔佐藤三郎〕　二〇―二八

第一一六六号　一九七九年八月号

巻頭言　東京サミットと南北問題　二―四
ＵＮＣＴＡＤ特集
第五回国連貿易開発会議を顧みて〔寺田輝介〕　五―一〇
参考資料
第五回ＵＮＣＴＡＤ議題　一〇―一一
ＵＮＣＴＡＤ早わかり　一一―一二
第五回ＵＮＣＴＡＤにおける大平総理の一般演説（一九七九年五月一〇日）　一三―一七
Ｇ77アルーシア閣僚会議採択文書　一八―二四
平和のプロセス〔アハロン・ヤーリヴ〕　二五―二九

第一一六七号　一九七九年九月号
巻頭言　外務省機構拡充の要　二－四
宮崎外務審議官　東京サミットの急所を語る
－長期的ヴィジョンに立った国際協力、東京サミットの世界〔宮崎弘道〕　五－一六
華鄧体制安全操業のかなめ－「四個現代化」革命の名分〔落合忠士〕　一七－二六
外交時報と私（七）その精神は創刊の辞に〔池井優〕　二七－二八

第一一六八号　一九七九年一〇・一一月号
巻頭言「非武装中立」の迷妄－社会党の惨敗を衝く　二－三
対談　八〇年代に臨む外交体制〔山崎敏夫・韮沢嘉雄〕　四－一〇
中国の四つの現代化と民主集中制〔上別府親志〕　一一－一七
台湾における「民主主義」の実践〔蕭行易（藤井彰治訳）〕　一八－二五
外交時報と私（八）－一読者として〔八藤雄一〕　二六－二七

第一一六九号　一九七九年一二月号
巻頭言　火口原・中東〔三好貞雄〕　二－二
第三次国連海洋法会議第八会期－その概要と今後の見通し〔井口武夫〕　三－一三
第三四回国連総会　園田大臣演説（一九七九年九月二五日）　一四－二一
第三四回国連総会　第一委員会における大川大使演説（一九七九年一〇月一九日）　二二－二六

書評　田中正明著『雷帝　東方より来る』〔三好生〕　二七－二八

第一一七〇号　一九八〇年一月号

巻頭言　イランとカンボジアと外交時報〔三好貞雄〕　二－三
年頭所感〔大来佐武郎〕　四－四
八〇年代の世界とアジア・太平洋－多元的世界の危機的構造〔林理介〕　五－一五
カンボジアをめぐる諸問題〔牧内正男〕　一六－一九
孫文の日中和平の大義と汪兆銘〔田中正明〕　二〇－三〇

第一一七一号　一九八〇年二月号

巻頭言　ソ連のアフガン侵入とカーター・ドクトリン〔三好貞雄〕　二－四
一九八〇年代の日本外交〔太田博〕　五－一四
一九七九年末頃の中・ソの動きを繞って〔甲谷悦雄〕　一五－二一
核兵器不拡散－この古くて新らしい問題〔矢田部厚彦〕　二二－三一
核に関する国際重要年表　三二－三四

第一一七二号　一九八〇年三月号

巻頭言　ことの始まりか、ことの終りかアフガニスタン侵略問題〔三好貞雄〕　二－三
「太平洋の世紀」は訪れるか？－環太平洋連帯構想の形成過程〔堂乃脇光朗〕　四－一四

アフガニスタン侵略とソ連軍の立場〔佐藤三郎〕　一五－二一
イラン、アフガニスタンの動乱、その中東状勢に及ぼす波紋〔岩永博〕　二二－三〇

第一一七三号　一九八〇年四・五月合併号

巻頭言　日本外交の自主の姿〔三好貞雄〕　二－三
インドシナ難民問題と日本〔天野之弥〕　四－一一
資料　インドシナ難民に対するわが国の協力〔東南アジア難民問題対策室〕　一二－一三
南北対話の問題点〔金三奎〕　一四－一七
劉少奇の復権と毛沢東権威の凋落〔落合忠士〕　一八－二六
インド独立の志士プラタップ翁を憶う〔田中正明〕　二七－二八

第一一七四号　一九八〇年六月号

巻頭言　進んで米・イの仲裁国たるべし〔三好貞雄〕　二－二
八〇年代の安保・防衛問題を考える〔米田博信〕　三－一一
「日本はこれでよいのか」－極東ソ連軍の増強を見て〔竹中重寿〕　一二－一五
八全体制復活と文革否定の間〔上別府親志〕　一六－二三
第二次大戦とは結局何であったのか？〔近藤真男〕　二四－三〇

第一一七五号　一九八〇年七月号

巻頭言 ヴェネチア・サミットの政治宣言〔三好貞雄〕　二―三
最近の中近東情勢理解のために〔木村光一〕　四―一一
サミットとアフガニスタン問題〔牧内正男〕　一二―一四
中国の経済管理体制の改革とその問題点〔土井章〕　一五―二〇
中国の反覇外交と対ソ軌道修正〔藤井彰治〕　二一―二七

第一一七六号　一九八〇年八月号

巻頭言 難民・民族移動時代〔三好貞雄〕　二―二
ヴェネチア・サミットを終えて―菊地清明外務審議官に聞く〔菊地清明〕　三―一二
ヴェネチア・サミット諸宣言　一三―二〇
ヴェニス・サミット宣言（経済宣言）
同上　政治問題（政治宣言）
難民に関する声明
外交官人質問題に関する声明
ハイジャックに関する声明
ヴェニス・サミットに関する報告について
最近のソ連軍事情〔佐藤三郎〕　二一―二八

第一一七七号　一九八〇年九月号

巻頭言 ポーランドの反抗・自由の獲得〔三好貞雄〕　二－三

南北問題特集

国連南北交渉ラウンド－南北問題の新展開〔寺田輝介〕　四－二二

資料　二三－三二

ＧＮに関するＧ77決議案（英文）

国連総会決議（三四／一三八）（ＧＮに関する決議・英文）

国連総会決議（三四／一三九）（ＧＮに関する諸提案・英文）

Ｇ77閣僚会議コミュニケ（英文）

対立する中ソの最近の情勢〔甲谷悦雄〕　三三－三八

第一一七八号　一九八〇年一〇・一一月合併号

巻頭言 不合理極まるソ連の主張（上）〔三好貞雄〕　二－四

神格化毛沢東の相対化〔落合忠士〕　五－一五

南北朝鮮の動き〔金三奎〕　一六－二〇

領事事務についての親切倍増計画〔外務省発表〕　二一－二三

中国における政治変動（一）〔浜田泰弘〕　二四－三二

第一一七九号　一九八〇年一二月号

巻頭言 不合理極まるソ連の主張（下）〔三好貞雄〕　二－三
鼎談 防衛問題、縦横談－春日一幸氏を囲んで〔春日一幸・上野直明・尾脇準一郎〕　四－一八
イラン・イラク戦争の衝撃〔岩永博〕　一九－二五
中国における政治変動（二）〔浜田泰弘〕　二六－三二

第一一八〇号　一九八一年一月号

巻頭言 レーガン政権の外交政策〔三好貞雄〕　二－二
年頭所感〔伊藤正義〕　三－三
国際社会と日本、その展望〔内田勝久〕　四－一五
ポーランドの教訓－三度目の正直はあるか〔落合忠士〕　一六－二七
中国の現状認識と軌道修正の枠組み〔上別府親志〕　二八－三五

第一一八一号　一九八一年二月号

巻頭言 外交の継続性－レーガン新米大統領と鈴木首相の場合〔三好貞雄〕　二－三
八一年の国際情勢を解剖する－天羽外務省情報文化局長にきく〔天羽民雄〕　四－一二
「一枚岩」伝説崩壊へ〔牧内正男〕　一三－一六
世界の危機とわれわれの希望〔陶希聖（藤井彰治訳）〕　一七－二二
中国における政治変動（三）〔浜田泰弘〕　二三－三〇

第一一八二号　一九八一年三・四月合併号

巻頭言　限界の見えたソ連国力〔三好貞雄〕　二－二
ソ連邦の立場とソ連軍〔佐藤三郎〕　三－一二
八全体制を揺がす毛沢東の亡霊〔上別府親志〕　一三－二〇
研究余滴　金子堅太郎のアトルボロー貴金属産業見学記〔松村正義〕　二一－二五
中国における政治変動（四）〔浜田泰弘〕　二六－三二

第一一八三号　一九八一年五月号

巻頭言　ソ連東欧社会主義体制崩壊の一歩手前か〔三好貞雄〕　二－三
アラビア湾岸諸国の動向と米国の対中東政策〔岩永博〕　四－一〇
ソ連の新たな平和攻勢の実態〔落合忠士〕　一一－二四
中国の政治変動（五）〔浜田泰弘〕　二五－三一

第一一八四号　一九八一年六月号

巻頭言　日米会談、日米同盟と核持ち込み〔三好貞雄〕　二－三
南北対話の進展と停滞－南北サミットとGNに見る〔内田富夫〕　四－一〇
アラブ・イスラエルのミリタリ・バランス（上）〔エホシュア・ラヴィヴ（滝川義人訳）〕　一一－二〇
中国統一問題の主導権掌握へ－国民党第一二回党大会からみる台湾の情勢〔藤井彰治〕　二一－二七
日英博覧会への元老井上馨の貢献〔河村一夫〕　二八－三二

第一一八五号　一九八一年七月号

巻頭言『核アレルギー』という自虐語　二－三
ソ連の脅威を前に実態なき防衛論議を憂える〔田中正明〕　四－八
アラブ・イスラエルのミリタリ・バランス（下）〔エホシュア・ラヴィヴ（滝川義人訳）〕　九－一七
日本に来た最初のアメリカ黒人〔松村正義〕　一八－二六
中国の政治変動（六）〔浜田泰弘〕　二七－三一

第一一八六号　一九八一年八月号

巻頭言　対ソ政治会談のとき日本はどうする〔三好貞雄〕　二－二
国際シンポジューム「アジアは日本に何を期待するか」
－世界平和教授アカデミー創立七周年記念〔世界平和教授アカデミー〕　三－一七
日本とECの関係－その可能性と問題点〔レズリー・フィールディング〕　一八－二五
中国の政治変動（七）〔浜田泰弘〕　二六－三二

第一一八七号　一九八一年九月号

特集「核」に関するアンケート
〔浅野祐吾・安部博純・麻田貞雄・藤井彰治・藤井昇三・具島兼三郎・林三郎・花井等・法眼晋作・堀内雄四郎・八藤雄一・平井友義・畑田重夫・帆足計・今村武雄・井上茂信・伊手健一・今井勝郎・伊藤皓文・岩村博文・池上巌・公文俊平・上條末夫・小森義峯・

金山政英・久住忠男・蔵居良造・上別府親志・片岡鉄哉・栗本弘・桑原寿二・気賀健三・近藤新治・甲谷悦雄・黒木晩石・近藤真男・粕谷進・近藤嘉昭・栗野鳳・加藤元三・加茂雄三・勝部元・近藤秀樹・神川正彦・小平修・三潴信吾・三好修・松本馨・牧内正男・三岡健次郎・松本明重・武藤貞一・村上薫・増子正通・宮崎繁樹・元川房三・三浦徹明・三橋利光・森松俊夫・三智の会・中川八洋・野村実・長山義男・中屋健一・西鶴定嘉・中川融・西原正・西本忠治・能戸英三・野々村一雄・難波田春夫・永井周・西原森茂・中山治一・中村光・大平善梧・落合忠士・尾上正男・小山内高行・岡本幸治・大石泰彦・奥村大作・大島康正・太田弘毅・大塚忠実・大畑篤四郎・関寛治・太田一男・小野修・太田雅夫・大橋隆憲・小幡操・岡本順一・佐伯彰一・関野英夫・関嘉彦・住田良能・島岡宏・志水速雄・瀬川善信・澤田マルガレーテ・住吉良人・斉藤孝・白鳥令・末松満・佐々木春隆・田中卓・高瀬保・高橋正則・田中正明・栂博・田上四郎・田村廣市・田北亮介・高橋正雄・上野直明・梅原一雄・漆山成美・宇野重昭・渡辺幸生・渡辺武・山本登・山中大吉・八木信雄・矢野健太郎・柳沢英二郎・山本勝市・逸名氏〕　一―三三

第一一八八号　一九八一年一〇月号

「核」に関するアンケート（二）〔高木成・斎藤忠・五味俊樹・大西公照〕　一―一四

オタワ・サミットより帰りて―外務審議官・菊地清明氏語る　一五―二七

旅行文書の歴史〔ニュートン・ブラウン（林憲子訳）〕　二八―三一

第一一八九号　一九八一年一一・一二月合併号

巻頭言 ポーランド国民の熱いまなざし〔三好貞雄〕　二－二
北方領土問題の視角〔落合忠士〕　三－一六
「強い日本」になれ－そのとき、北方領土は戦わずして帰って来る〔武藤貞一〕　一七－二四
読感、栗原健編『佐藤尚武の面目』〔松村正義〕　二五－二八
中国における政治変動（八）〔浜田泰弘〕　二九－三一

第一一九〇号　一九八二年一月号

巻頭言 一九八二年の日本〔三好貞雄〕　二－三
対談 南北サミットと日本－相互依存と連帯のカンクン精神〔菊地清明・広野良吉〕　四－一三
一三八氏アンケート 八〇年代の政策課題〔世界平和教授アカデミー〕　一四－二六
中国における政治変動（九）〔浜田泰弘〕　二七－三一

第一一九一号　一九八二年二月号

巻頭言 ポーランド問題の核心 ヤルタ体制の否定〔三好貞雄〕　一－二
九年目を迎えた国連海洋法会議－交渉長期化の原因と今後の見通し〔渡辺伸〕　三－一一
外交夜話 国際的ということ〔枝村純郎〕　一二－二三
中国における政治変動（一〇）〔浜田泰弘〕　二四－三一

第一一九二号　一九八二年三月号

巻頭言　地球は破滅寸前か〔三好貞雄〕　二－二
現在の国際情勢と日欧関係発展のために〔サー・ヒュー・コータッツィ〕　三－八
現代日本の安全保障論（上）〔五味俊樹〕　九－一七
第三次国共合作提案の波紋〔上別府親志〕　一八－二六
中国統一問題の主導権は台湾側に－北京の統戦工作は「苦恋」の焦り〔藤井彰治〕　二六－三一

第一一九三号　一九八二年四月号

巻頭言　軍縮総会に臨む腹構え〔三好貞雄〕　二－二
弱って来たソ連軍〔佐藤三郎〕　三－一二
現代日本の安全保障論（下）〔五味俊樹〕　一三－二七
核政策へ寄する謬見を匡す〔近藤真男〕　二八－三二

第一一九四号　一九八二年五月号

外交時報社・世界平和教授アカデミー共同主催　非核・軍縮等に関するアンケート
－国際政治学者を中心に百七十七氏
〔安斎伸・渥美堅持・味岡義一・田駿・江上勲・江尻進・福地重孝・藤田豊・船戸鉦市・
五味俊樹・具島兼三郎・平石義親・法眼晋作・細川隆一郎・帆足計・堀之北重成・林三郎・
畑田重夫・今村之治・井上赳夫・伊藤行・一松信・伊藤憲一・五十嵐武士・市川正義・

入江隆則・石田武雄・伊原吉之助・井上茂信・入江猪太郎・池上巌・市村真一・神川正彦・喜多村良雄・喜多川忠一・景山哲夫・笠原正明・北村謙一・嘉村祐一・加藤栄一・金山政英・木内信胤・勝田吉太郎・久保田信之・工藤重忠・久保敦彦・粕谷進・黒木晩石・金子孫一・経塚作太郎・上別府親志・河部利夫・加藤元三・甲谷悦雄・小森義峯・久保守・小林路義・近藤真男・三潴信吾・元川房三・松本馨・牧内正男・武藤貞一・松井好・森松俊夫・三岡健次郎・宮村文雄・松金久知・武藤正行・松本明重・森本真章・真鍋一・中山治一・中川八洋・長浜穆良・名東孝二・西谷啓浩・難波田春夫・名越二荒之助・野村実・中村龍平・中山正和・永野茂門・長山義男・西本忠治・中村信夫・尾上正男・大畑篤四郎・小田村寅二郎・岡本幸治・緒田原涓一・太田一男・大鹿譲・太田富蔵・太田弘毅・大橋隆憲・小幡操・小関哲哉・落合忠士・岡本順一・下田武三・関嘉彦・関野英夫・関寛治・隅谷三喜男・白鳥令・佐々木春隆・清水馨八郎・宍戸寿雄・白崎和夫・関之・桜井光堂・鈴木暸五郎・澤英武・重光晶・杉田一次・住吉良人・高根正昭・高瀬浄・築山治三郎・高橋正則・高橋正・武井昭・豊田悌助・高島信義・田上四郎・宇野重昭・宇野精一・漆山成美・上野直明・渡辺武・渡部昇一・和田盛哉・山口彦之・山本一登・結城陸郎・山田勝美・吉田和生・山中大吉・山崎太喜男・八木信雄・三智の会・吉田賢抗・小山房二・山本宏・丸山繁郎・田中正明・八藤雄一〕

第一一九五号　一九八二年六月号

巻頭言　英ア戦争の内包するもの〔三好貞雄〕　一－三七

或る日の鼎談　核・軍縮・安全保障を考える－国連軍縮特別総会に直面して〔編集部〕　三－一〇
シーレーンの要衝－スリランカの国造り〔田中正明〕　一一－一九
中国における政治変動（一一）〔浜田泰弘〕　二〇－二八
非核・軍縮に関するアンケート（続き）〔岩村博文・亀田候治〕　二九－三一

第一一九六号　一九八二年七月号

巻頭言　アメリカの世界政策　あまりあせるな〔三好貞雄〕　二－二
ヨーロッパの安全保障について
－西独政府のパンフレットから〔外務省安保研究グループ有志訳〕
核兵器をめぐる政治〔ピュール・レルーシュ（五味俊樹訳）〕　三－一九
小村寿太郎生誕地訪問記　二〇－二一
－日露戦争における〝限定戦争〟構想のルーツがここにあった〔松村正義〕　二二－二九
中国における政治変動・脚注〔浜田泰弘〕　三〇－三二

第一一九七号　一九八二年八・九月合併号

巻頭言　終戦記念日を迎えて改めてソ連の非道を想う〔三好貞雄〕　二－二
フォークランド紛争の一考察〔加藤吉弥〕　三－五
平和と軍縮－英国政府の政策案内（一九八二年一月）
〔英国外務省軍備管理軍縮研究課（編集部訳）〕　六－一六

転換点に立つインドシナ情勢〔牧内正男〕　一七－二三
最近の世界情勢〔甲谷悦雄〕　二四－二八
よく聞いて下さい〔長山義男〕　二九－三二

第一一九八号　一九八二年一〇月号

特集　外交時報社・世界平和教授アカデミー共同主催　教科書検定問題についてのアンケート
〔朝倉孝吉・会田雄次・浅田常三郎・安部博純・浅野祐吾・天野武一・味岡義一・秋月君茂・赤堀四郎・阿部忍・安斎伸・田駿・江尻進・福地重孝・藤井彰治・福岡克也・具島兼三郎・五味俊樹・平野健一郎・細川隆一郎・林卓男・畑田重夫・服部比左治・橋本健・林三郎・長谷川慶太郎・日野虎雄・平石義親・彦由一太・平井源一・林修三・市村真一・入江猪太郎・石村暢五郎・一瀬智司・池見猛・伊藤太郎・池田栄太郎・今村之治・一松信・伊藤清和・五十川和男・粕谷進・栗野鳳・北島平一郎・栗栖弘臣・近藤秀樹・加藤栄一・黒沢博・久住忠男・金井昌邦・嘉村祐一・気賀健三・甲谷悦雄・河部利夫・菅野英機・小山房二・河本弘・金山政英・黒木晩石・上別府親志・加藤元三・九嶋勝司・高原義男・金貴清・森本憲夫・三潴信吾・三好修・牧内正男・武藤貞一・松下正寿・元川房三・松井好・萬成博・森松俊夫・宮崎正雄・武藤正行・松本明重・政次満幸・森三十郎・難波田春夫・名越二荒之助・中村初雄・中川八洋・中川融・中屋健一・西鶴定嘉・中村龍平・西本忠治・長山義男・根本準・緒田原涓一・太田雅夫・小幡操・太田弘毅・大島久・岡本順一・大塚忠実・岡本幸治・岡田実・大野垣博夫・大塚茂・尾関通允・扇貞雄〕　一－三三

第一一九九号　一九八二年一一月号

ソ連の四年越し農作物不足は何を物語るか　二―二
南北対話の再活性化のために―一九八二年九月〔内田富夫〕　三―一四
ソ連研究二題
モスクワにもチャイナ・カードはある〔パリス・チャン（五味俊樹訳）〕　一五―一六
モスクワとの対処方法〔ディミトリ・K・サイムズ（五味俊樹訳）〕　一六―一九
教科書検定問題に関するアンケート（二）
〔桜田武・太田富蔵・関嘉彦・白鳥令・塩川孝信・末松満・伊原吉之助・鈴木仁一・白崎和夫・高橋正・滝沢寿一・田中啓輔・高橋正則・田口欽二・田中正明・滝原俊彦・東畑平一郎・玉野敏夫・宇野精一〕　二〇―三二

第一二〇〇号　一九八二年一二月号

巻頭言　アンドロポフ新体制どうなるか〔三好貞雄〕　二―二
レーガン政権の対ソ戦略と日本の防衛〔落合忠士〕　三―一五
一二回党大会は新出発点となるか〔上別府親志〕　一六―二三
教科書検定問題に関するアンケート（三）
〔漆山成美・上野直明・植木松太郎・宇津野常人・渡辺武・渡辺昭夫・矢野健太郎・安田敬二・山村文人・山崎堯太・山本勝市・山田昌一・大野勝己・渡部昇一・野村実・桑木崇秀・山中大吉・杉田一次・宇野重昭・野村乙二朗・鵜沢義行・岡本成蹊・岡昌宏・

野田浩一・佐々木春隆・小林道徳・三好新次・小谷鶴次・太田静六・真鍋一・市川正義・黒羽秀夫・山崎太喜男・土田隆〕　二四－三三

第一二〇一号　一九八三年一月号

巻頭言　中ソ復交について〔三好貞雄〕　二－二

日米関係の将来－平和環境への視座構造〔五味俊樹〕　三－一七

教科書検定問題に関するアンケート（四）

〔井上茂信・高橋和三郎・森本真章・甲谷悦雄・宮崎繁樹・高瀬浄・室靖・鈴木正・尾上正男・神川正彦・金子孫市・寺脇保・近藤真男・井本台吉・大平善梧〕　一八－三三

第一二〇二号　一九八三年二月号

巻頭言　外交の継続性について〔三好貞雄〕　二－二

イスラエルと中東の哨煙（前編）－四次にわたる中東戦争〔落合忠士〕　三－一六

教科書検定問題に関するアンケート（五）

〔岡崎光顕・花崎文一・鈴木悌二・黒田巍・大鹿譲・岩村博文・関之・岩渕幸雄・宮村文雄・三岡健次郎・宮司佑三・武田勝彦・多田顕・伊藤皓文・帆足計〕　一七－二六

教科書問題アンケートを終えて〔世界平和教授アカデミー調査部〕　二七－三二

第一二〇三号　一九八三年三月号

巻頭言　中曽根内閣の前途〔三好貞雄〕　二－二
イスラエルと中東の哨煙（中編）－パレスチナ・ゲリラの動向とレバノンの悲劇〔落合忠士〕　三－一三
中国農業政策の転換とその前途（上）〔上別府親志〕　一四－一六
「キューバ」を訪ねて〔扇貞雄〕　一七－二〇
最後に笑うもの（一）第一次世界大戦から今日に至る国家の盛衰を辿って
　最後に笑うもの（国）を予想する〔池上叡〕　二一－三二

第一二〇四号　一九八三年四月号

巻頭言　ソ連の現況の一端〔三好貞雄〕　二－二
日本－ASEANの特殊関係と日本の「太平洋圏」発展戦略〔斐默農〕　三－一二
中国農業政策の転換とその前途（下）〔上別府親志〕　一三－一六
最後に笑うもの（二）第一次世界大戦から今日に至る国家の盛衰を辿って
　最後に笑うもの（国）を予想する〔池上叡〕　一七－三一

第一二〇五号　一九八三年六月号

巻頭言　国際激流に棹す日本〔三好貞雄〕　二－二
イスラエルと中東の哨煙（後編）－憎しみの人間模様と和平への展望〔落合忠士〕　三－一三
スペイン社会労働党－新政権の成立とその後〔古賀京子〕　一四－二二

最後に笑うもの（三）第一次世界大戦から今日に至るまでの国家の盛衰を辿って　二三－三一
最後に笑うもの（国）を予想する〔池上叡〕

第一二〇六号　一九八三年七月号

巻頭言　どうもほんとうらしいソ連の最近の金詰り〔三好貞雄〕　二－三
ウィリアムズバーグ・サミットとわが国の国際的役割〔阿木八郎〕　四－一〇
日米安全保障態勢の基礎、本質を論ず〔近藤眞男〕　一一－一四
最後に笑うもの（四）世界大動乱の真相〔池上叡〕　一五－二四
外交時報社・世界平和教授アカデミー共同主催アンケート
国際政治における日本のあり方（一）
〔宇野精一・甲谷悦雄・藤田豊・鈴木正・藤井彰治・高瀬保・関野英夫・伊東清和・平石義親・西脇英逸・三潴信吾・河村一夫・栗栖弘臣・池見猛・真鍋一・上野直明・中村信夫・牧内正男・寺松孝・小竹即一・中川融・九嶋勝司・津久井龍雄・伊手健一〕　二五－三二

第一二〇七号　一九八三年八月号

巻頭言　非武装中立の社会党〔三好貞雄〕　二－二
中国、台湾関係の現況とその展開（上）〔中川昌郎〕　三－九
ロンドン海軍軍縮会議における財部全権の立場（上）〔河村一夫〕　一〇－一四
最後に笑うもの（五）世界大動乱の真相〔池上叡〕　一五－二三

国際政治における日本のあり方（二）
〔尾関通允・和田盛哉・扇貞雄・末松経正・一瀬智司・松本明重・小林路義・増田重光・築山治三郎・堀元美・北島平一郎・河部利夫・奥田健吾・福尾券一・一松信・長山義男・加藤弘・小幡操・景山哲夫・福島恒吝・郷司浩平・杉田一次〕　二四－三二

第一二〇八号　一九八三年九・一〇月合併号

巻頭言　血ぬられたる政権〔三好貞雄〕　二－二
インドシナ難民問題－主要先進国閣僚級会合と難民問題〔増井正〕　三－七
ロンドン海軍軍縮会議における財部全権の立場（下）〔河村一夫〕　八－一四
最後に笑うもの（六）世界大動乱の真相〔池上叡〕　一五－二七
大韓民航機、ソ連軍用機による撃墜事件考察〔扇貞雄〕　二八－二八
国際政治における日本のあり方（三）
〔佐々木春隆・彦由一太・西野吉次・田中正明・片岡正巳・山上賢一・白川清・今村和男〕　二九－三二

第一二〇九号　一九八三年一一月号

巻頭言　ワレサ受賞に思う　一－一
中距離核戦力（ＩＮＦ）交渉の経緯と現状〔高田稔久〕　二－八
中国、台湾関係の現況とその展開（中）〔中川昌郎〕　九－一四
最後に笑うもの（七）世界大動乱の真相〔池上叡〕　一五－二九

国際政治における日本のあり方（四）
〔元川房三・根本準・稲葉秀三・池田栄太郎・太田静六・谷口博〕 三〇－三二

第一二一〇号　一九八三年一二月号

巻頭言　既に第三次世界大戦か〔三好貞雄〕 二－二
最近のレバノン情勢（内紛の構造を中心に）〔黒川剛〕 三－一一
中国、台湾関係の現況とその展開（下）〔中川昌郎〕 一二－一八
最後に笑うもの（八）世界大動乱の真相〔池上叡〕 一九－二八
国際政治における日本のあり方（五）
〔桑木崇秀・松下正寿・伊藤行・関之・内藤宏・助野健太郎・天満経昌・結城隆郎・空花圭一・大平善梧・中西武雄・野村実〕 二九－三二

第一二一一号　一九八四年一月号

巻頭言「ソ連の立場」と日本の総選挙〔三好貞雄〕 二－二
外交青書にみる我が国の外交〔稲川照芳〕 三－九
限定戦争としての日露戦争と戦略家・小村寿太郎〔松村正義〕 一〇－一七
投書欄（外交春秋）日本外交におけるグレイ・エイリア（Grey Area）の勧め〔五味俊樹〕 一八－二一
最後に笑うもの（九）世界大動乱の実相〔池上叡〕 二二－二八
北中国・極東シベリア－秘密戦・懐古の旅（上）〔扇貞雄〕 二九－三二

第一二一二号　一九八四年二月号

巻頭言 ソ連は自爆するのか〔三好貞雄〕　二－二
サハラからの年賀状〔佐藤俊一〕　三－六
外交春秋 防衛政策について〔黒木晩石〕　六－六
東京裁判と『南京大虐殺』の虚構〔田中正明〕　七－一八
外交春秋 日本の内外政策について〔江尻進〕　一九－一九
最後に笑うもの（一〇）世界大動乱の実相〔池上叡〕　二〇－二九
北中国・極東シベリア秘密戦・懐古の旅（中）〔扇貞雄〕　三〇－三二

第一二一三号　一九八四年三・四月合併号

巻頭言 下り坂にさしかかったソ連　二－二
パレスチナ解放機構（ＰＬＯ）の一特性
－アラブ分裂の縮図としてのＰＬＯの内紛〔黒川剛〕　三－一〇
外交春秋 松村正義氏の「限定戦争としての日露戦争と小村寿太郎」を読んで〔黒木晩石〕　一一－一一
朝鮮半島の平和統一会議提案について〔牧内正男〕　一二－一四
かつてのツアールスコエ・セロもいまはプーシュキンに
－レニングラード郊外の旧離宮（上）〔松村正義〕　一五－一八
最後に笑うもの（一一）世界大動乱の実相〔池上叡〕　一九－二八
北中国・極東シベリア－秘密戦・懐古の旅（下）〔扇貞雄〕　二九－三二

第一二一四号　一九八四年五月号

巻頭言　波荒き日本海　二－二
イラン・イラク紛争の現状と今後の見通しについて〔小橋雅明〕　三－一〇
共産主義は一枚岩ではない〔牧内正男〕　一一－一三
外交春秋　中国残留日本人孤児をソ連は何と見るか〔平石義親〕　一四－一四
かつてのツアールスコエ・セロもいまはプーシュキンに
－レニングラード郊外の旧離宮（下）〔松村正義〕　一五－一九
ソ連新指導部の動向と中国の内政改革〔甲谷悦雄〕　二〇－二七
外交春秋　日本政治の民主化は可能か〔亀田亜州〕　二七－二八
最後に笑うもの（一二）世界大動乱の実相〔池上叡〕　二九－三二

第一二一五号　一九八四年六月号

巻頭言　モスクワの仇をロサンゼルスで　二－二
最近のアフガニスタン情勢〔岡部直己〕　三－五
レバノンをめぐる国際政治の動向〔落合忠士〕　六－一七
山名寿三先生を悼む〔大西公照〕　一八－一九
整党の第二段階と農村経済の現代化－「紅旗」「人民日報」三月の論調〔上別府親志〕　二〇－二六
最後に笑うもの（一三）世界大動乱の実相〔池上叡〕　二七－三二

第一二一六号　一九八四年七月号

巻頭言　人権無視が生む悲劇　二－二
パキスタンの内外情勢〔竹内好一〕　三－一二
アジア国家連合の早期結成を提唱する〔廣田洋二〕　一三－一四
アジア・太平洋－外交の新展開〔牧内正男〕　一五－一九
米大統領訪中と中国の非同盟国家説－「紅旗」「人民日報」四月の論調〔上別府親志〕　二〇－二六
最後に笑うもの（一四）世界大動乱の実相〔池上叡〕　二六－三二

第一二一七号　一九八四年八月号

巻頭言　二つの大きい防衛問題　二－二
最近のインド－政治・経済情勢と日印関係〔鈴木茂伸〕　三－一〇
一九三〇年代の国際政治観における逆説
－蠟山政道を中心にして斉藤隆夫との比較〔五味俊樹〕　一一－二〇
三中総路線の堅持と対外開放の推進－「紅旗」「人民日報」五月の論調〔上別府親志〕　二一－二七
市民権を確保できるか中国的社会主義（上）〔上別府親志〕　二八－三〇
四〇年振り中支江南の地を訪ねて〔扇貞雄〕　三一－三二

第一二一八号　一九八四年九・一〇月合併号

巻頭言　ソ連離れのアフリカ諸国　二－二

カンボディア問題〔篠原勝弘〕　三－一一
新刊紹介　大臣官房国内広報課編『こちら外務省』〔牧内正男〕　一一－一二
核時代の安全保障〔関野英夫〕　一三－二〇
対外開放と政策緩和の定着化進む－「紅旗」「人民日報」六・七月の論調〔上別府親志〕　二一－二九
国連の専門機関に改革の声〔牧内正男〕　三〇－三二

第一二一九号　一九八四年一一月号

巻頭言　クレムリンの横槍　二－二
累積債務問題は峠を越したか－現状と展望〔山本啓司〕　三－一〇
米国ＮＳＣの対日政策策定過程（上）〔伊藤皓文〕　一一－一七
軍内文革派一掃と愛国主義の鼓吹－「紅旗」「人民日報」八月の論調〔上別府親志〕　一八－二四
市民権を確保できるか中国的社会主義（下）〔上別府親志〕　二五－二九
国連活性化のために〔牧内正男〕　三〇－三二

第一二二〇号　一九八四年一二月号

巻頭言「資本主義化」する共産中国〔Ｍ〕　二－二
安倍外務大臣のメキシコ訪問と中南米外交〔赤沢正人〕　三－一〇
中米の危機とアメリカのジレンマ（上）〔落合忠士〕　一一－一六
米国ＮＳＣの対日政策策定過程（下）〔伊藤皓文〕　一七－二二

戦火を拡げるもの〔牧内正男〕　二―三―二五
消費拡大こそ生産発展の原動力―「紅旗」「人民日報」九月の論調〔上別府親志〕　二六―三二

第一二二一号　一九八五年一月号

巻頭言 当てにならぬクレムリン式「数字」〔M生〕　二―二
アフリカ旱魃被災地を視察して〔東博史〕　三―七
中米の危機とアメリカのジレンマ（下）〔落合忠士〕　八―一三
経済体制改革の理論と実際―「紅旗」「人民日報」一〇月の論調〔上別府親志〕　一四―二〇
中支江南地区農民の勤労意欲に触れて〔扇貞雄〕　二一―二二
台湾をめぐって〔牧内正男〕　二三―二五
広田弘毅像の再考（上）〔五味俊樹〕　二六―三二

第一二二二号　一九八五年二月号

巻頭言 中ソ交渉は簡単ではない〔M〕　二―二
ダンバートン・オークス荘に国連憲章の起草期を思う（上）〔松村正義〕　三―八
中曽根総理の大洋州訪問（上）〔加茂佳彦〕　九―一一
広田弘毅像の再考（下）〔五味俊樹〕　一二―二三
「太平洋協力」の問題点〔牧内正男〕　二四―二五
経済優先と社会主義理論の新解釈―「紅旗」「人民日報」一一月の論調〔上別府親志〕　二六―三二

第一二二三号　一九八五年三・四月合併号

巻頭言 ゴルバチョフ政権の実体　二－二
中曽根総理の大洋州訪問（下）〔加茂佳彦〕　三－九
ダンバートン・オークス荘に国連憲章の起草期を思う（下）〔松村正義〕　一〇－一三
NSC68－米国の国家安全保障論（上）〔伊藤皓文〕　一四－一八
社会主義商品経済と価格体系の改革－「紅旗」「人民日報」一二・一月の論調〔上別府親志〕　一九－二八
宇宙軍事化の問題点〔牧内正男〕　二九－三二

第一二二四号　一九八五年五月号

巻頭言 米ソ軍縮交渉とソ連の新世代〔M生〕　二－二
田村幸策先生追悼号〔三好貞雄〕　三－三
田村幸策先生の想い出〔池井優〕　三－四
田村幸策先生の憶い出〔瀬川善信〕　四－五
最近の南米事情〔稲川照芳〕　六－一三
NSC68－米国の国家安全保障論（下）〔伊藤皓文〕　一四－二三
農村と都市の経済体制改革－「紅旗」「人民日報」二月の論調〔上別府親志〕　二四－三〇
北京の本心〔牧内正男〕　三一－三二

第一二二五号　一九八五年六月号

巻頭言　虚々実々の米ソ軍事合戦〔M生〕　二－二
ナイジェリアの政治経済情勢－ブハリ新政権の一年を振り返って〔原祐二〕　三－一三
不毛の流血イラン・イラク戦争の泥沼化（上）〔落合忠士〕　一四－二二
社会主義思想の徹底と規律強化－「紅旗」「人民日報」三月の論調〔上別府親志〕　二三－二九
ソ連と東欧〔牧内正男〕　三〇－三二

第一二二六号　一九八五年七月号

巻頭言　横行するテロリズム〔M生〕　一－一
緊張緩和政治への一試論－米中デタント〔貫芳祐〕　二－二三
難航するSDI〔牧内正男〕　二四－二六
不毛の流血イラン・イラク戦争の泥沼化（下）〔落合忠士〕　二七－三〇
新考　貨幣論〔上野直明〕　三一－四二

第一二二七号　一九八五年八月号

巻頭言　中国の動きと国際潮流〔M生〕　一－一
レーガン政権における対外政策決定過程
－レバノン駐留多国籍軍の派遣を中心にして〔宮脇岑生〕　二－二六
日米経済摩擦の文化的側面〔五味俊樹〕　二七－三八

西側内部の「計画競争」－ユーレカとSDI〔牧内正男〕　三九－四一
六期全人大第三回会議と政協会議－「紅旗」「人民日報」・四月の論調〔上別府親志〕　四二－五一
解放軍百万の削減と編制簡素化－「紅旗」「人民日報」六月の論調〔上別府親志〕　五二－六〇

第一二二八号　一九八五年九・一〇月合併号

巻頭言　中ソの態度とモンゴル問題など〔M生〕　一－一
環太平洋時代の通商摩擦と安全保障〔齋藤進〕　二－九
「ヒロシマ」への追憶〔五味俊樹〕　一〇－一〇
アメリカは間違っていた〔ガー・アルペロヴィッツ（五味俊樹訳）〕　一〇－一三
アメリカは正しかった〔ジョン・コナー（五味俊樹訳）〕　一四－一六
混迷深まる南アフリカの政情〔牧内正男〕　一七－二〇
人材を要請（ママ）する経済発展と教育改革－「紅旗」「人民日報」五月の論調〔上別府親志〕　二一－二九
経済の効率的運営と経済立法－「紅旗」「人民日報」七月の論調〔上別府親志〕　三〇－四一
「フィンランド化」の実態をこの目で視る〔扇貞雄〕　四二－四六

第一二二九号　一九八五年一一月号

巻頭言　西側の結束を破るな〔M生〕　一－一
兵器輸出「大国」フランス－国防理念と経済的要請の接点として〔中村雅治〕　二－一九
昭和初期田中政友会内閣の対満蒙政策〔佐藤元英〕　二〇－三四

中ソとアジアの新情勢〔牧内正男〕　三五－三八
回想の抗日・反ファシスト戦争－「紅旗」「人民日報」八月の論調〔上別府親志〕　三九－四八

第一二三〇号　一九八五年一二月号

巻頭言　中ソの「共産主義」離れ傾向〔M生〕　一－一
三好貞雄先生追悼号〔五味俊樹〕　二－二
三好貞雄－略年譜・主要著作目録　三－三
三好さんを惜しむ〔江田正己〕　四－六
三好貞雄先生のご逝去を悼む〔大西公照〕　七－九
『外交時報』と私（青木周蔵関係の研究について）〔河村一夫〕　一〇－一二
忘れ得ぬ交友の日々〔斎藤忠〕　一三－一三
内剛の生涯〔平石義親〕　一四－一五
三好貞雄先生を悼む〔松本明重〕　一六－一七
三好貞雄社長の永眠を悼む〔山中大吉〕　一八－一九
御忌状　二〇－二一
諜報の側面から見た真珠湾謀略説〔戸部良一〕　二二－三七
党全国代表会議と指導部の新旧交代－「紅旗」「人民日報」・九月の論調〔上別府親志〕　三八－四六
国連の現状とその改革について〔牧内正男〕　四七－五〇

第一二三一号　一九八六年一月号
巻頭言　危機のフィリピンと日米〔M生〕　一－一
「南北問題の現状と展望」〔南北問題研究会〕　二－二〇
日中関係の原点と展望〔村井友秀〕　二一－二八
米ソ首脳会議をめぐる国際政局〔牧内正男〕　二九－三二
第三世界各国との連帯の強化－「紅旗」「人民日報」・一〇月の論調〔上別府親志〕　三三－四一
東郷茂徳陳述録（一）〔波多野澄雄解説〕　四二－六〇

第一二三二号　一九八六年二月号
巻頭言　カンボジアに平和を〔M生〕　一－一
信頼醸成措置と防衛政策〔中村好寿〕　二－一五
ラテンアメリカの権威主義体制とカーター人権外交〔乗浩子〕　一六－三〇
広がる社会主義離れと整党運動－「紅旗」・「人民日報」一一月の論調〔上別府親志〕　三一－四〇

第一二三三号　一九八六年三月号
巻頭言　国際テロに備えるのは当然〔M生〕　一－一
東南アジアに新風－アキノ政権と米、日、その他〔牧内正男〕　二－五
貿易摩擦をめぐる〝異文化との共生〟〔五味俊樹〕　六－一五
東郷茂徳陳述録（二）　一六－三八

中国農業経済改革の第二段階－「紅旗」・「人民日報」一二月の論調〔上別府親志〕　三九－四八

第一二三四号　一九八七年一月号

特集　国際社会と日本

巻頭言　イメージとしての国際社会と日本〔武者小路公秀〕　二－三
現代の戦争と国際安全保障問題〔蠟山道雄〕　四－一三
「ヨーロッパ」の復興〔樗木航三郎・佐々木實雄〕　一四－二一
覇権後退期における政治意志危機－ドル暴落と日米経済関係〔貫芳祐〕　二二－三八
日本（人）にとっての「国際化」とは〔五味俊樹〕　三九－五二

外交史コーナー

石井・ランシング協定と日米海軍協定－日本海軍のハワイ警備がもたらしたもの〔平間洋一〕　五三－六三

第一二三五号　一九八七年二月号

特集　南北問題の新しい展開

巻頭言　南北問題と三つの〈南〉の顔〔武者小路公秀〕　二－三
第七回国連貿易開発会議と最近の南北問題の諸様相〔南北問題研究会〕　四－一三
ＵＮＣＴＡＤにおける一次産品問題への取組み〔南田剛〕　一四－二二
開発資金と累積債務問題－一九八六年の動向を振り返って〔北川寛〕　二三－四四
アジアと日本の経済関係を考える〔粕谷雄二〕　四五－五九

外交史コーナー
統帥権再考－司馬遼太郎氏の一文に寄せて〔加藤陽子〕　六〇－七一

第一二三六号　一九八七年三月号
特集　平和と軍縮・軍備管理問題
巻頭言　軍縮・軍備規制と時間〔武者小路公秀〕　二－三
平和外交の理念を問い直す〔蠟山道雄〕　四－一三
現代の軍縮と軍備管理〔今井隆吉〕　一四－二八
米ソ軍備管理交渉の新たな展開〔編集部〕　二八－二八
軍備管理・軍縮条約の履行をめぐる諸問題
－アメリカにおけるＳＡＬＴ論議を中心に〔宮脇岑生〕　二九－四九
米ソ軍備管理交渉とアメリカ〔納家政嗣〕　五〇－六四
外交史コーナー
「対手トセス」声明再考（上）〔戸部良一〕　六五－七一

第一二三七号　一九八七年四月号
特集　東アジアの新情勢
巻頭言　外交指導者とは〔池井優〕　二－三
失脚の〝理屈〟－中国共産党にみる指導者の解任劇〔横山宏章〕　四－一三

「胡耀邦再登場」をどう読むか〔編集部〕　一三－一三
朝鮮半島の新しい動き－改憲政局と南北対話の展望〔山岡邦彦〕　一四－二九
朝鮮半島、その後の展開〔編集部〕　二九－三〇
アメリカのアジア政策－「封じ込め」から「調整者」へ〔吉原欽一〕　三一－四四
ゴルバチョフ政権の対アジア政策〔宮崎英隆〕　四五－五八

外交史コーナー

「対手トセス」声明再考（下）〔戸部良一〕　五九－六七

第一二三八号　一九八七年五月号

特集　西ヨーロッパの再考

巻頭言　姉妹都市交流〔池井優〕　二－三
ヨーロッパの文化か、ヨーロッパにおける文化か〔ホセ・ヨンパルト〕　四－一二
抑止と同盟－ＮＡＴＯ西欧諸国と超大国〔金子譲〕　一三－二六
排ガス規制問題にみられるＥＣの動き
－政策決定の特徴と加盟国間の結束の在り方について〔高瀬幹雄〕　二七－四三
ヨーロッパ産業の再建－そしてヨーロッパの再生〔高山龍三〕　四四－五三
ヨーロッパの産業政策〔井上孝〕　五四－六三

自由論文コーナー

中国の軍事戦略（上）－国防現代化の意味について〔村井友秀〕　六四－七一

第一二三九号　一九八七年六月号

特集　ラテンアメリカの苦悩

巻頭言　日伯文化交流〔池井優〕　二－三
大転換期のラテンアメリカ〔グスタボ・アンドラーデ〕　四－一八
ラテンアメリカにおける民主主義の行末〔編集部〕　一八－一八
八〇年代の債務問題と債務交渉－ラテンアメリカの事例から〔高安健一〕　一九－三一
中南米諸国とアメリカ合衆国の反共政策〔庄司真理子〕　三二－四八
ラテンアメリカにおける移民史研究の最近の動向－対外意識を中心として〔浅香幸枝〕　四九－五九

自由論文コーナー

中国の軍事戦略（下）－国防現代化の意味について〔村井友秀〕　六〇－六九

第一二四〇号　一九八七年七・八月合併号

特集　ソ連・東欧圏の諸問題

巻頭言　チェコ事件二〇年〔池井優〕　二－三
ゴルバチョフ改革の二年〔西村文夫〕　四－二〇
〝ペレストロイカ〟と東欧のパラドックス〔編集部〕　二〇－二〇
ココム体制強化の動向と内部矛盾〔山本武彦〕　二一－三一
東欧における民族と国家－トランシルヴァニアをめぐる民族問題〔羽場久浘子〕　三二－四七
米中デタントとソ連のパーセプション（上）－一九六八～一九七一〔貫芳祐〕　四八－五八

政治的アマチュアリズムの寿命〔編集部〕　五九－五九
外交史コーナー
語学と外交－国益によって変わる解釈　第一次世界大戦の実例から〔平間洋一〕　六〇－七一

第一二四一号　一九八七年九月号
特集　東南アジアと日本
巻頭言　日タイ修好百年〔池井優〕　二－三
日本外交における東南アジア－地域概念の成立と発展の軌跡〔渡辺昭夫〕　四－一八
二〇周年を迎えたＡＳＥＡＮ－成熟か停滞か〔黒柳米司〕　一九－二九
対ＡＳＥＡＮ援助と日本外交〔稲田十一〕　三〇－四六
前特集号続編
米中デタントとソ連のパーセプション（下）－一九六八～一九七一〔貫芳祐〕　四七－五八
自由論文コーナー
ベルリンの「壁」への危機収斂過程〔星乃治彦〕　五九－七一

第一二四二号　一九八七年一〇月号
特集　南部アフリカ新情勢の展開
巻頭言　サリム外務大臣の想い出〔池井優〕　二－三
アフリカ特集にあたって〔青木一能〕　四－五

アンゴラ内戦とその意味〔青木一能〕　六－二九
ジンバブエに見るアメリカの対南部アフリカ政策と南アフリカ共和国のヘゲモニー〔平野克己〕　三〇－五四

自由論文コーナー

最近の国際金融情勢と複数基軸通貨制への展望〔斎藤進〕　五五－六一
オーストラリア外交の変遷（上）－「自立」の模索〔佐伯康子〕　六二－七一

第一二四三号　一九八七年一一・一二月合併号

特集　米国と日本

巻頭言　国際交流基金とモーレイ教授の受賞〔池井優〕　二－三
米国における法的保護主義〔松下満雄〕　四－一六
アメリカの責任〔編集部〕　一六－一六
八七年包括貿易法案とアメリカ議会〔小川敏子〕　一七－三一
関心度の差異〔編集部〕　三一－三一
対日経済関係の構図－スウェーデンから見た日米経済摩擦〔川崎一彦・佐々木實雄〕　三二－四五
外為法強化に思う〔安原洋子〕　四六－五二
ヒスパニックの台頭がもたらすもの〔編集部〕　五三－五三

外交史コーナー

アメリカ太平洋沿岸実業界の対日「民間経済外交」

－日露戦争後の日米経済関係の一側面〔木村昌人〕　五四－六六
自由論文コーナー
オーストラリア外交の変遷（下）－「自立」の模索〔佐伯康子〕　六七－七五

第一二四四号　一九八八年一月号
特集　環太平洋地域の展望
巻頭言　大平首相と環太平洋の連帯〔池井優〕　二－三
わが国と環太平洋地域との文化交流〔田島高志〕　四－一三
オーストラリア－「アジア太平洋国家」への道〔菊池努〕　一四－二四
豪州における産業調整問題－鉄鋼業を中心として〔中北徹〕　二五－三八
太平洋時代における日本外交の基本的視座〔五味俊樹〕　三九－五〇
自由論文コーナー
ＳＤＩの虚構性－ＭＡＤとＳＤＩの相剋〔高塚年明〕　五一－六七

第一二四五号　一九八八年二月号
特集　世界経済の行末
巻頭言　ニクソンショックを超えて〔池井優〕　二－三
自由貿易主義と保護貿易主義〔井上孝〕　四－一八
世界経済運営体制の再構築、一九八五～八七－Ｇ７と為替安定・不均衡是正〔貫芳祐〕　一九－三九

日本・EC関係寸描〔EC研究サークル〕　四〇－四六
新局面に入った累積債務問題〔石崎昭彦〕　四七－六六

エッセー

豊かな生活の実現と経済力－イタリア人のヴァカンス〔三田千代子〕　六七－七三

第一二四六号　一九八八年三月号

特集　体制と反体制との情況

巻頭言　体制・反体制・新体制〔池井優〕　二－三
ソ連における政治的異端と反体制問題－ソ連人権運動の国際化の成果〔吉川元〕　四－二四
ソ連スターリン批判再開の行方－六〇年代後半ソ連政治と現在〔岩田賢次〕　二五－四六
ホー・チ・ミンの遺産と後継者たち〔小笠原高雪〕　四七－六〇
中国の少数民族と民族自決権〔村井友秀〕　六一－七二
「体制」vs.「反体制」問題における大国の〝影〟〔編集部〕　七二－七三

第一二四七号　一九八八年四月号

特集　SDIをめぐる諸問題

巻頭言　SDI研究と日本〔池井優〕　二－三
核軍縮交渉におけるソ連の反SDI政策〔滝沢一郎〕　四－一七
SDI参加問題と日本の対応－国会におけるSDI論議を手がかりとして〔等雄一郎〕　一八－三二

「スターウォーズ」論争－戦略防衛構想と攻撃衛星兵器〔斎藤直樹〕　三三－四八
信頼醸成措置の概念について〔浅田正彦〕　四九－六五
自由論文コーナー
日本の救援によるポーランド人孤児の帰国〔ジョージ・J・レルスキ（横尾和歌子訳）〕　六六－七一

第一二四八号　一九八八年五月号
特集　グローバリゼーションとナショナリズム
巻頭言　ナショナリズムの諸要素〔池井優〕　二－三
現代世界の構造と秩序理念－ナショナリズム・ユニオニズム・グローバリズム〔田村正勝〕　四－一六
国民国家の変容と日本の国際化〔中島浩幸〕　一七－二九
貿易統計からみた電気通信サービスの国際化〔山下東子〕　三〇－四二
インド頭脳労働者のアメリカ合衆国への移住〔蔵谷哲也〕　四三－五九
自由論文コーナー
北清事変と日本の対応－厦門事件と日本海軍〔波多野勝〕　六〇－七三

第一二四九号　一九八八年六月号
特集　国際法の今日的課題
巻頭言　万国公法から国際法へ〔池井優〕　二－三
武力の行使と国際法〔高井晋〕　四－一七

現代国際法における人権法の展開〔佐藤文夫〕　一八－三七
国連海洋法条約におけるグローバリズムとナショナリズム－パルドー主義への挽歌〔布施勉〕　三八－五一
承認の国際法上の意義をめぐって〔臼杵英一〕　五二－七二

第一二五〇号　一九八八年七・八月合併号

特集　大国と地域紛争

巻頭言　対岸の火事〔池井優〕　二－三
中米・カリブ地域の紛争と大国〔乗浩子〕　四－一八
イラン・イラク戦争とソ連の対応〔角田安正〕　一九－三二
南部アフリカの紛争と大国の介入
－パックス・アフリカーナとパックス・サウスアフリカーナ〔井上一明〕　三三－五二
アフガニスタン紛争の特色と今後の課題〔小原武〕　五三－六一

自由論文コーナー

一つの糸で結ばれた日米科学技術協定と東芝事件〔安原洋子〕　六二－七八

第一二五一号　一九八八年九月号

特集　国際接触の多面性

巻頭言　オリンピックの効用〔池井優〕　二－三
国際接触の多面性－政府間レベルの文化的側面の現状〔田島高志〕　四－一四

ガット紛争処理機能の発展と米国の対応〔明田ゆかり〕　一五－二九
横浜市と国際交流〔佐々木寛志〕　三〇－四二
意識の「国際化」－高校生、大学生の調査から〔平尾桂子〕　四三－五六
ナショナリズムと民族集団－ブラジルの国家統合と日本人移住者〔三田千代子〕　五七－七〇
自由論文コーナー
国際的人権保障と憲法〔庄司克宏〕　七一－八四

第一二五二号　一九八八年一〇月号
特集　国際統合の未来
巻頭言　世界政府、世界連邦は可能か〔池井優〕　二－三
欧州共同体の理念と現実－その政治経済哲学的考察〔大庭治夫〕　四－一四
ECの市場統合とその国際的影響〔田中俊郎〕　一五－二六
ASEANの地域協力－その展開と制度の課題〔首藤もと子〕　二七－四二
近代日本における非西欧的国家像の模索〔長谷川雄一〕　四三－五五
自由論文コーナー
日本の対ソ交渉態度－二つの国交樹立交渉にみられる特色〔小澤治子〕　五六－七二

第一二五三号　一九八八年一一・一二月合併号
特集　エスニックの視点

巻頭言　エスニックと日本〔池井優〕　二－三
わが国の外国人労働者受入れ問題〔広田崇夫〕　四－二〇
インド・シク教徒の分離独立運動〔山下高明〕　二一－三五
トルコにおける「国民国家」形成とアイデンティティーの変容〔鈴木董〕　三六－四四
フランスにおける移民問題とルペン現象〔中村雅治〕　四五－六五
自由論文コーナー
「ミッテラン時代」とその政治的潮流〔渡邊啓貴〕　六六－八〇

第一二五四号　一九八九年一月号
特集　日米関係の再構築
巻頭言　駐日アメリカ大使と日米関係〔池井優〕　二－三
ブッシュ新政権と日米経済関係－日・米・ＡＮＩＥｓの三局構造を踏まえて〔中北徹〕　四－一六
米国における対日責任分担論議－議会、政府を中心にして〔高杉忠明〕　一七－三二
貿易統制分担か、防衛分担か－東芝機械事件を再考する〔安原洋子〕　三三－五〇
ブッシュ政権の誕生とアメリカ政治の変容〔川野秀之〕　五一－六一
自由論文コーナー
米国の立法過程における大統領と議会〔谷勝宏〕　六二－八三

第一二五五号　一九八九年二月号

特集　国連の現状と課題

巻頭言　国際連合と日本〔池井優〕　二－三
わが国の国連政策〔木島輝夫〕　四－一五
国際連合と平和の創造〔臼井久和〕　一六－三二
一九八三年グレナダ侵攻と国際機構〔庄司真理子〕　三三－五〇
紛争解決のための国連平和維持活動（上）〔G・G・グラインドル（野澤基恭訳）〕　五一－七一

自由論文コーナー

横田喜三郎の軍国主義批判（上）－戦時期の評論活動〔竹中佳彦〕　七二－九五

第一二五六号　一九八九年三月号

特集　国際社会への貢献－過去・現在・未来

巻頭言　地道な貢献－青年海外協力隊〔池井優〕　二－三
国際公共財の諸相〔坂本正弘〕　四－一七
国際金本位制再訪－パックス・ブリタニカにおける国際公共財供給メカニズム〔中島正人〕　一八－三一
パックス・アメリカーナの盛衰〔新井光吉〕　三二－四八
「国際的貢献」に対する日本のアプローチ－経済大国にとっての課題〔池田維〕　四九－六六

前号特集からの続き

紛争解決のための国連平和維持活動（下）〔G・G・グラインドル（野澤基恭訳）〕　六七－七九

自由論文コーナー
横田喜三郎の軍国主義批判（下）－戦時期の評論活動〔竹中佳彦〕　八〇－一〇〇

第一二五七号　一九八九年四月号
特集　ソ連の新しい波
巻頭言「今日のソ連邦」に見る変化〔池井優〕　二－三
中ソ友好関係の背景と展望〔村井友秀〕　四－一四
ゴルバチョフ政権の対東欧支配論理の改変〔宮崎英隆〕　一五－二九
ソ連の民族問題－バルト三国の場合〔角田安正〕　三〇－四二
フルシチョフの対日国交正常化外交（上）－その今日的意義〔斎藤元秀〕　四三－五七
自由論文コーナー
政策広報型の金子堅太郎と文化交流型の末松謙澄〔松村正義〕　五八－六七

第一二五八号　一九八九年五月号
特集　経済と国家主権
巻頭言　幻の東亜経済同盟－西原借款〔池井優〕　二－三
米国における国家安全保障と通商制限〔松下満雄〕　四－一八
農産物貿易ルール形成をめぐる国際政治
－米・EC農産物紛争に見る国内政治の論理〔明田ゆかり〕　一九－三四

高度情報化と知的財産権－その国際的側面〔石黒一憲〕　三五－四二
ブラジルの日系企業と外資規制〔小池洋一〕　四三－五三

前号特集からの続き

フルシチョフの対日国交正常化外交（下）－その今日的意義〔斎藤元秀〕　五四－七一

自由論文コーナー

山本内閣の外交と世論（上）〔波多野勝〕　七二－八三

第一二五九号　一九八九年六月号

特集　朝鮮半島情勢

巻頭言　日本と韓国－近くて遠い国〔池井優〕　二－三
朝鮮中央通信社の役割－本特集の解説に代えて〔伊豆見元〕　四－七
中ソ論争と北朝鮮－対中自主性の模索〔平岩俊司〕　八－二五
一九四八年の北朝鮮契約法〔藤井新〕　二六－三九
一揆か陣痛か－韓国労働運動の現状〔大江志伸〕　四〇－四五
韓国外交における「ハルシュタイン・ドクトリン」の放棄の過程（上）
－朴正熙大統領「平和統一外交宣言」への道程〔倉田秀也〕　四六－五八

自由論文コーナー

山本内閣の外交と世論（下）〔波多野勝〕　五九－七一

第一二六〇号　一九八九年七・八月合併号

特集　米ソデタントの余波

巻頭言　鉄のカーテン……デタント〔池井優〕　二－三
米中ソ新デタントの中の南アジア－回顧と展望〔山下高明〕　四－一七
ペレストロイカ下の東欧－「多様性への回帰」〔羽場久泥子〕　一八－二九
インドシナ戦争の終焉－米越関係正常化の展望〔小笠原高雪〕　三一－四四
新デタントと中米紛争〔田中高〕　四五－五六

前号特集からの続き

韓国外交における「ハルシュタイン・ドクトリン」の放棄の過程（下）
－朴正熙大統領「平和統一外交宣言」への道程〔倉田秀也〕　五七－六九

第一二六一号　一九八九年九月号

特集　安全保障問題の焦点

巻頭言　中国も認めた日米安保〔池井優〕　二－三
アジア・太平洋地域の安全保障〔森本敏〕　四－一七
戦略兵器削減交渉と米国の戦力態勢〔梅本哲也〕　一八－三二
ソ連の構想する包括的安全保障体制〔中野潤三〕　三三－四七
西独・仏関係とヨーロッパの安全保障〔長島純〕　四九－六四

自由論文コーナー

田中内閣と日中航空協定（上）〔時任英人〕　六五－八三

第一二六二号　一九八九年一〇月号

特集　人権をめぐる諸問題

巻頭言　カーター政権と人権外交〔池井優〕　二－三

人権外交〔ディヴィド・ウェッセルズ（横尾和歌子訳）〕　四－一六

次の千年紀に向けて
－一九九〇年代における人権〔ローリィ・S・ワイズバーグ（佐藤文夫訳）〕　一七－二九

東西関係と人的移動の自由
－ヘルシンキ・プロセスにおける「人的接触」の保障体制の成立過程を中心に〔吉川元〕　三一－五〇

国籍と公務就労権〔広田崇夫〕　五一－六七

中国の最近の民主化運動と国際法規－国民主権・人権・自決権〔家正治〕　六八－七六

自由論文コーナー

田中内閣と日中航空協定（下）〔時任英人〕　七七－八九

第一二六三号　一九八九年一一・一二月合併号

特集　激動の昭和外交

巻頭言　激動の昭和外交の幕明け〔池井優〕　二－三

第二次欧州大戦と日本陸軍〔波多野澄雄〕　四－一六

太平洋戦争末期における日本外務省の対ソ認識〔小澤治子〕　一七－三〇
日中ＬＴ貿易の成立過程－高碕達之助、松村謙三、岡崎嘉平太の果した役割〔添谷芳秀〕　三二－四五
国際政治における日本の対外援助
－サハラ以南アフリカ諸国に対する日本の経済援助と外交政策
〔ハリル・Ｔ・ダールウィッシュ（小島さくら訳）〕　四六－八一
アメリカ中西部における対日イメージ－ノースウェスタン大学の場合
〔ローラ・ハイン（五味俊樹訳）〕　八二－一〇三

資料

『外交時報』総目次―戦後編（五・完）

――一九九〇年一月第一二六四号～一九九八年九月第一三五一号――

伊藤信哉
浜岡鷹行

第一二六四号　一九九〇年一月号

特集　ヤルタ体制以後

巻頭言　ヤルタからマルタへ〔池井優〕　二―三
ヨーロッパにおけるヤルタ体制の崩壊〔地引嘉博〕　四―一九
政治改革とソ連の民族国家体制〔西村文夫〕　二〇―三四
ココム、その設立の謎を解く〔安原洋子〕　三五―四九
ヤルタの拘束と限界（上）―米国の対日政策の底流〔坪内隆彦〕　五一―六八

自由論文コーナー

戦前期日米関係の一断面－陸軍のアメリカ国民性認識をめぐって〔黒沢文貴〕　六九－九〇

第一二六五号　一九九〇年二月号

特集　労働移民の史的教訓

巻頭言　〝チンク〟と〝ジャップ〟〔池井優〕　二－三
移民と情報ネットワーク－日本からアメリカへの初期労働移民〔村山裕三〕　四－一八
カナダの日系人－排斥から補償へ〔飯野正子〕　一九－四〇
日本とブラジルを結ぶ日系人移住者の八〇年〔三田千代子〕　四一－五六
一九二〇年代・日本の移民論（一）〔長谷川雄一〕　五七－六九

前号特集からの続き

ヤルタの拘束と限界（下）－米国の対日政策の底流〔坪内隆彦〕　七二－八八

自由論文コーナー

民間経済外交と日米関係－世紀転換期から満州事変まで〔木村昌人〕　八九－九九

第一二六六号　一九九〇年三月号

特集　日本の国際的責務

巻頭言　変化するＯＤＡ〔池井優〕　二－三
日本の国際的責務〔宮本雄二〕　四－一八
政府開発援助－業務の概要と諸問題について〔西端則夫〕　一九－三〇

国会から見た政府開発援助
－参議院外交・総合安全保障に関する調査会報告を中心に〔高塚年明〕　三一－五〇
ビナイン・ネグレクトの時代は終わった！〔佐々木實雄〕　五二－六一
日本の国際貢献能力－防衛と経済協力をめぐって〔高杉忠明〕　六二－八一
自由論文コーナー
石橋湛山の軍備撤廃論（上）－ワシントン会議からロンドン会議まで〔増田弘〕　八二－一〇一

第一二六七号　一九九〇年四月号
特集　ポスト冷戦下の欧州情勢
巻頭言「欧州の天地は複雑怪奇にして……」〔池井優〕　二－三
バルト三国自立問題にみる国際関係の変貌〔百瀬宏〕　四－一六
ゴルバチョフの「欧州共通の家」構想〔小泉直美〕　一七－三一
北欧の非核兵器地帯協定政策－国際政治変動の波間で〔大島美穂〕　三二－四八
現代フランスの安全保障政策－歴史的概観〔服部一成〕　五〇－六〇
自由論文コーナー
石橋湛山の軍備撤廃論（下）－ワシントン会議からロンドン会議まで〔増田弘〕　六一－七一
イスラム国家の国際法規範（上）〔古賀幸久〕　七二－八七

第一二六八号　一九九〇年五月号

特集　マルタ以後のアジア情勢

巻頭言　韓国・台湾の対共産圏外交の積極化〔池井優〕　二－三
マルタ会談後のアジア・太平洋における安全保障〔森本敏〕　四－一四
東欧の変革と中国共産党－共産党政権の正統性と民族主義〔村井友秀〕　一五－二八
東欧の変化と朝鮮半島〔武貞秀士〕　二九－四二
ベトナム対外路線における「新思考」の萌芽〔小笠原高雪〕　四三－五三

自由論文コーナー

イスラム国家の国際法規範（下）〔古賀幸久〕　五五－六六
欧州における信頼醸成措置の発展（上）－ストックホルム文書を中心に〔浅田正彦〕　六七－七六

第一二六九号　一九九〇年六月号

特集　ＧＡＴＴと農産物

巻頭言　日本のガット加盟をめぐる米英〔池井優〕　二－三
わが国農産物輸入制限の法的検討－ガットとの関係を中心として〔松下満雄〕　四－一四
ジレンマに立つガット農業交渉〔山地進〕　一五－三〇
ウルグアイ・ラウンド農業交渉と米国のマルチ・チャネル・アプローチ〔明田ゆかり〕　三一－四四
食糧の安全保障〔廣瀬聖〕　四五－六一

自由論文コーナー

欧州における信頼醸成措置の発展（下）－ストックホルム文書を中心に〔浅田正彦〕　六三－七二
中国の世界認識の変化の検証－天安門事件以来一年を中心に〔朱建栄〕　七三－八九

第一二七〇号　一九九〇年七・八月合併号

特集　「ドイツ再統一問題」をめぐる諸相

巻頭言　マルクの時代は来るか〔池井優〕　二－三
ドイツ統一問題研究ノート〔高橋進〕　四－一六
ドイツ統一に対するソ連・東欧の態度〔地引嘉博〕　一七－三〇
「ヨーロッパの新しい秩序」とフランス〔渡邊啓貴〕　三一－四四
欧州統合における文化的側面の重要性
－欧州新秩序の基盤作りを目指すECの文化・教育政策〔小久保康之〕　四六－六一

自由論文コーナー

オーストラリア防衛外交政策と帝国内協議
－シンガポール基地戦略とオーストラリアの安全保障〔岡本哲明〕　六二－七七
アフガニスタン紛争とパキスタン（上）－紛争がパキスタンにもたらしたもの〔中野勝一〕　七八－八五

第一二七一号　一九九〇年九月号

特集　民族と国家

巻頭言　消された日の丸－ベルリンオリンピックと孫基禎〔池井優〕　二－三

東南アジアの中国人社会－インドネシアの事例を中心に〔首藤もと子〕　四－一九
バルト三共和国と自立問題〔志摩園子〕　二〇－三四
インティファーダの発生とその展開
－「パレスチナ国家（＝Two-state solution）」樹立への闘い〔永澤勲雄〕　三五－五二
アフリカの再生－民族国家を超えて〔青木一能〕　五四－六七

自由論文コーナー

アフガニスタン紛争とパキスタン（下）－紛争がパキスタンにもたらしたもの〔中野勝一〕　六八－七五
ジェームズ・フォレスタルの安全保障観〔村田晃嗣〕　七六－九一

第一二七二号　一九九〇年一〇月号

特集　安全保障の新基軸

巻頭言　日本の安全保障はどうあるべきか〔池井優〕　二－三
変化しつつある国際環境下の安全保障〔森本敏〕　四－二〇
中東地域における安全保障状況〔杉之尾孝生〕　二一－三六
米国の大戦略と核戦略－「冷戦後」への摸索〔梅本哲也〕　三七－五〇
大西洋同盟の将来－変質する欧州安保の枠組み〔金子譲〕　五一－六四

緊急論説コーナー

「クウェート事変」と日本の対応〔本誌編集部（文責：五味俊樹）〕　六六－七一

本年二月号特集からの続き

一九二〇年代・日本の移民論（二）〔長谷川雄一〕　七二－八五

第一二七三号　一九九〇年一一・一二月合併号

特集　日米破局回避への道

巻頭言「日米未来戦論」からの反省〔池井優〕　二－三
日米関係－協力と対立の構図〔緒方貞子〕　四－一五
アメリカの対日通商政策の形成－日米構造問題協議をめぐる政治過程の分析〔小川敏子〕　一六－三四
日米構造協議と世界情勢の新展開－新段階に入った市場開放〔中北徹〕　三五－四六
戦後の米国日本研究への援助〔広田崇夫〕　四八－六五
外務省革新派の対米策〔戸部良一〕　六六－八〇

自由論文コーナー

激動する朝鮮半島の政治経済－最近の情勢と研究課題〔菊島啓〕　八一－九一

第一二七四号　一九九一年一月号

特集　新しい日欧関係を求めて

巻頭言　日英同盟、日独伊三国同盟、そして……〔池井優〕　二－三
日本の安全保障に新視点を〔田久保忠衛〕　四－一三
ECにおける市場統合と政治統合〔澤田マルガレーテ〕　一四－一九
日本人のヨーロッパ像〔澤田昭夫〕　二〇－二五

日本とヨーロッパ－東南アジアからの文化的考察〔アリフィン・ベイ（河原匡見訳）〕　二六－三八
国際社会における行為主体としての国際機構〔庄司克宏〕　三九－四七
新しい秩序を模索するヨーロッパ〔渡邊啓貴〕　四八－六〇

自由論文コーナー

天安門事件後の中台関係の変化〔孫琪剛〕　六二－七〇
サッダーム・フセインの統治体制とクウェート侵攻－「危機」の背景とイラクの今後〔宮田律〕　七一－八五

第一二七五号　一九九一年二月号

特集　世界新秩序のパラダイム

巻頭言　大国による国際秩序の崩壊〔池井優〕　二－三
〝湾岸戦争〟の構造－イラク・クウェート紛争の史的位相〔山下高明〕　四－一八
新国際秩序の形成とブッシュ政権の対応〔高松基之〕　一九－四〇
ソ連・中国を中心とする社会主義国の世界戦略－ポスト冷戦の視点から〔横手慎二〕　四一－五四
「冷戦の終焉」と米国の貿易統制〔安原洋子〕　五五－六九
アジア太平洋協力〔地引嘉博〕　七〇－八三

自由論文コーナー

犬養毅と辛亥革命（上）〔時任英人〕　八五－九三

第一二七六号　一九九一年三月号

特集　日ソ関係の「新思考」

巻頭言　日本の対ソ・イメージと学術文化交流〔池井優〕　二－三
アジア太平洋地域の安全保障とソ連外交の新思考〔地引嘉博〕　四－一一
一法学徒の見た北方領土問題〔臼杵英一〕　一二－二〇
日ソ経済協力の現状と展望〔横尾賢一郎〕　二一－三四
ソ連における「日本軍国主義」観－ブレジネフからゴルバチョフへ〔小澤治子〕　三六－五三

緊急論説コーナー

湾岸戦争後の国際秩序〔杉之尾孝生〕　五四－六一

自由論文コーナー

犬養毅と辛亥革命（下）〔時任英人〕　六二－七九
原子力平和利用提言とシカゴ冶金研究所－『ジェフリーズ報告』の再検討〔中沢志保〕　八〇－九三

第一二七七号　一九九一年四月号

特集　国連の安全保障機能

巻頭言　国連二十五周年と世界青年会議〔池井優〕　二－三
国連の安全保障機能と日本の役割〔高須幸雄〕　四－二〇
冷戦後の安全保障体制と国連〔納家政嗣〕　二一－三五
安全保障機能の再吟味〔高井晉〕　三六－四九

国連平和維持軍と国連「待機軍」制度－北欧国連待機軍の事例を中心として〔渡部茂己〕　五〇－六三
自由論文コーナー
ミーチ湖憲法協定の流産－エスニックな融和政策とカナダの現実〔石川一雄〕　六五－七九
日本の国際連盟脱退とシリアに於ける通商均等待遇問題（上）〔神山晃令〕　八〇－八六

第一二七八号　一九九一年五月号
特集　ミドル・パワーの外交態様
巻頭言　タイ－バンブー外交の実行〔池井優〕　二－三
イギリスの外交スタイル－「中級国家」の役割〔亀井紘〕　四－一八
ド・ゴール外交見直し論とミッテランの外交戦略〔臼井実稲子〕　一九－二九
「湾岸戦争」後とミドル・パワー〔編集部〕　二九－三〇
戦後カナダ外交政策の理論的展開－ホーズの理論類型を中心に〔桜田大造〕　三〇－四五
欧州秩序再編における北欧地域協力－北欧会議の活動を中心として〔大島美穂〕　四六－六五
日本のパワーの活用〔編集部〕　六五－六五
自由論文コーナー
日本の国際連盟脱退とシリアに於ける通商均等待遇問題（下）〔神山晃令〕　六七－七六
対ソ関係への視座〔河原地英武〕　七七－八七

第一二七九号　一九九一年六月号

特集　自由貿易体制下の農業問題

巻頭言　米と日本人〔池井優〕　二－三
ガットと日本農業の自由化〔新井光吉〕　四－二二
ガットの再生と農業問題
－ウルグアイ・ラウンド農業交渉における米国提案の役割を中心に〔明田ゆかり〕　二三－三八
ガット体制の中のＥＣ共通農業政策〔渡邊頼純〕　三九－五四
ウルグアイ・ラウンド農業交渉とオーストラリア
－「政治的テコ」としてのケアンズ・グループ〔河原匡見〕　五五－七二
米韓の経済関係について－援助経済から農産物の市場開放要求まで〔菊島啓〕　七四－九三

昨年一〇月号特集からの続き

一九二〇年代・日本の移民論（三）〔長谷川雄一〕　九四－一〇五

第一二八〇号　一九九一年七・八月合併号

特集　日本外交の可能性

巻頭言　日本は顔の無い巨人か〔池井優〕　二－三
日本外交の可能性－国際的貢献への要請と内政的拘束（上）〔蠟山道雄〕　四－一六
わが国の海外広報の実態〔岡田眞樹〕　一七－二九
東欧支援と日本－年表編〔高塚年明〕　三〇－五〇

開発途上国に対する我国の技術協力の現状〔佐々木弘世〕　五二－七一
「経済安全保障」再考－概念の整理と歴史的考察〔古城佳子〕　七二－八七

自由論文コーナー

サハラ以南アフリカ諸国における構造調整計画の諸問題〔小島さくら〕　八八－一〇二

第一二八一号　一九九一年九月号

特集　世界経済をめぐる政治課題

巻頭言　日本はどこへ行く〔池井優〕　二－三
日本外交の可能性－国際的貢献への要請と内政的拘束（下）〔蠟山道雄〕　四－一六
国際協調の経済分析－覇権安定論とその周辺〔中島正人〕　一七－二九
パトリオットと第三次石油危機－第四次石油危機は来るか〔植村和志〕　三〇－四七
米加自由貿易協定と対米関係〔岩崎美紀子〕　四九－六二
日ソ経済関係の展望－期待される極東との経済交流〔横尾賢一郎〕　六三－七五
対ソ支援と日本－年表編〔高塚年明〕　七六－九六

第一二八二号　一九九一年一〇月号

特集　「湾岸戦争」後の安全保障情勢

巻頭言　日本の安全保障構想－社会党の場合〔池井優〕　二－三
日本の安全保障政策－一九九〇年代における主要課題〔森本敏〕　四－二八

ソ連－東欧関係の再編－新たな安全保障の摸索〔六鹿茂夫〕　二九－五〇
湾岸危機とソ連の対欧州安全保障政策〔小泉直美〕　五一－六五
「冷戦終焉」後における「欧州新秩序」の不安定性〔長島純〕　六七－八四
ソ連政変後の朝鮮半島情勢〔武貞秀士〕　八五－九五

第一二八三号　一九九一年一一・一二月合併号

特集　「パール・ハーバー」五十年目の教訓

巻頭言「アメリカにはパールハーバーの歴史はない」〔池井優〕　二－三
「真珠湾への道」再考〔波多野澄雄〕　四－二〇
日米戦争回避の可能性－木戸幸一・東条英機・及川古志郎〔三宅正樹〕　二一－三四
日米関係の社会的・文化的副産物
－第二次世界大戦と現代貿易摩擦下での日系アメリカ人の地位と意識〔竹沢泰子〕　三五－五一
ワシントンの街角から〔五味俊樹〕　五二－五六

自由論文コーナー

「拡大抑止」と在欧戦域核〔梅本哲也〕　五八－七四
日華通商航海条約（第三次）改訂交渉と日本外交－幣原外交と田中外交の条約論〔判澤純太〕　七五－九〇

第一二八四号　一九九二年一月号

特集　国際社会における「統合」と「分離」

巻頭言　民族の力は弾圧では消せない〔池井優〕　二－三
東欧における民族問題と地域統合〔地引嘉博〕　四－一七
インド社会の深層と政治混乱－カースト対立と政略〔山下高明〕　一八－三一
ヨーロッパ再編とフランス〔臼井実稲子〕　三二－四二
バルト三国の諸問題〔志摩園子〕　四三－五四

自由論文コーナー

カーター政権の人権外交アプローチ〔小川敏子〕　五六－八一
朝鮮戦争時の特別掃海隊－海外派兵と政府・野党の対応〔平間洋一〕　八二－八九

第一二八五号　一九九二年二月号

特集　国連への期待と実態

巻頭言　国連の理想と現実〔池井優〕　二－三
国際連合と日本の役割〔臼井久和〕　四－二三
国連の機能強化と旧敵国条項〔高井晉〕　二四－三四
国連と専門機関相互の関係〔庄司真理子〕　三五－四九
南北問題への視座〔本誌編集部〕　四九－四九
国連の開発援助活動の現状と再編成の可能性〔山下也子〕　五〇－六五
国連安全保障理事会における平和に対する脅威、平和の破壊、侵略行為の認定（上）〔則武輝幸〕　六六－八二

国連の「国際世論」について〔本誌編集部〕　八二－八二
自由論文コーナー
近衛文麿の対米観－二度の訪米を中心として〔庄司潤一郎〕　八四－九九

第一二八六号　一九九二年三月号
特集　太平洋協力への展望
巻頭言　太平洋協力－大西洋か太平洋か〔池井優〕　二－三
東アジア経済会議構想を巡る国際関係－マハティール構想とアジア太平洋協力〔佐藤考一〕　四－二一
変動期の東南アジアとＡＳＥＡＮ〔須藤季夫〕　二二－三四
大東亜会議の継承〔本誌編集部〕　三四－三四
アジア太平洋協力とオーストラリア〔菊池努〕　三五－五三
アジア太平洋経済における日本の位置〔中島正人〕　五四－六六
前号特集からの続き
国連安全保障理事会における平和に対する脅威、平和の破壊、侵略行為の認定（下）〔則武輝幸〕　六七－八三
自由論文コーナー
国際法における高度の自治権をもつ地域としての香港（上）－その条約関係の移転を中心に〔王志安〕　八五－一〇五

第一二八七号　一九九二年四月号

特集　軍事力と経済力との関係

巻頭言　金解禁、ロンドン軍縮と浜口雄幸〔池井優〕　二－三
安全保障と経済の相関関係〔森本敏〕　四－一八
冷戦後における米国の国防計画に思う〔本誌編集部〕　一八－一八
日米経済逆転下の国際秩序〔新井光吉〕　一九－三六
ソ連の崩壊と日ソ経済関係〔横尾賢一郎〕　三七－四八
冷戦後の国際秩序と欧州〔金子譲〕　四九－六四

自由論文コーナー

新冷戦下の日米防衛協力（上）－「大綱」路線から「ガイドライン」路線へ〔村田晃嗣〕　六六－七二
国際法における高度の自治権をもつ地域としての香港（下）
－その条約関係の移転を中心に〔王志安〕　七三－八八

第一二八八号　一九九二年五月号

特集　ソ連邦崩壊後の世界像

巻頭言　恐露・反ソ・親ロ〔池井優〕　二－三
ソ連崩壊後の東芝機械事件症候群〔安原洋子〕　四－一七
ＣＩＳの安全保障政策の形成〔中野潤三〕　一八－三三
ロシア連邦の対日政策－ゴルバチョフからエリツィンへ〔小澤治子〕　三四－四九

冷戦以後の東アジア－対立と混迷の時代〔武貞秀士〕　五〇－五九

自由論文コーナー

日本の国際連盟脱退とコンゴ盆地条約による通商均等待遇問題〔神山晃令〕　六一－七三

新冷戦下の日米防衛協力（下）－「大綱」路線から「ガイドライン」路線へ〔村田晃嗣〕　七四－八四

第一二八九号　一九九二年六月号

特集　「南」への視座

巻頭言　南北問題から南南問題へ〔池井優〕　二－三

進展する中南米経済再建と米国の新中南米支援政策－ポスト冷戦期の新潮流〔丸谷吉男〕　四－二一

東南アジアにおける経済状況－高度成長を考える〔近藤正臣〕　二二－三四

サハラ以南アフリカ諸国における公企業改革の諸問題〔小島さくら〕　三五－四九

南アジアの変容－その政治経済学的一考察〔藤原直〕　五〇－五九

自由論文コーナー

「天羽声明」の真相について〔天羽民雄〕　六一－八三

脱冷戦と文化交流（上）〔広田崇夫〕　八四－九一

第一二九〇号　一九九二年七・八月合併号

特集　資本主義国間摩擦

巻頭言　日米対立の源流〔池井優〕　二－三

経済制度の国際的ハーモナイゼイション
－競争政策の国際的ハーモナイゼイションを中心に〔松下満雄〕　四－一八
先進国間農業摩擦－米欧および日米〔山地進〕　一九－三二
日米経済関係と今後の見通し－ＳＩＩと日米のシステムの収斂の視点から〔横尾賢一郎〕　三三－四六
欧州経済統合と日・ＥＣ経済関係新時代〔東郷進〕　四七－六〇

自由論文コーナー

米国の「戦後」統一朝鮮政府構想〔阪田恭代〕　六二－七四
脱冷戦と文化交流（下）〔広田崇夫〕　七五－八一

第一二九一号　一九九二年九月号

特集　現代世界における「国境」

巻頭言　国境からボーダーレスへ〔池井優〕　二－三
巨大帝国の崩壊と民族主義の行方〔蠟山道雄〕　四－一五
カシミールをめぐる対立－起源と現状〔山下高明〕　一六－三〇
中国の国境政策と中印国境紛争〔村井友秀〕　三一－四一
ユーゴスラヴィア解体とバルカン地域〔柴宜弘〕　四二－五三

自由論文コーナー

欧州新秩序における「東欧」再編の行方〔広瀬佳一〕　五五－六八
南太平洋の安全保障と地域主義（上）〔植村秀樹〕　六九－七八

第一二九二号　一九九二年一〇月号

特集　アメリカの国力診断

巻頭言　アメリカ・イズ・ナンバーワン？〔池井優〕　二－三
冷戦後における米国の国防戦略〔森本敏〕　四－二〇
アメリカ外交のゆくえ〔関場誓子〕　二一－三二
アメリカ経済は再生できるか〔新井光吉〕　三三－四九
戦略両用技術と米国の経済競争力問題〔村山裕三〕　五〇－六六

自由論文コーナー

ヨーロッパ統合と〝東欧〟における地域協力の試み
－チェコ・スロヴァキアの視点から〔高橋和〕　六八－八四
南太平洋の安全保障と地域主義（下）〔植村秀樹〕　八五－九三

第一二九三号　一九九二年一一・一二月合併号

特集　「国家主権」の行方

巻頭言　中国はどこへ行く〔池井優〕　二－三
民族と民族主義－歴史とその今日的意味〔蠟山道雄〕　四－一七
英国から見たＥＣ統合〔高岡望〕　一八－三一
フランス国民に問われた欧州統合〔臼井実稲子〕　三二－四二
「国家主権」の行方－ドイツから観たヨーロッパ統合〔渡辺忠雄〕　四三－六四

CSCEプロセスと人権NGO〔吉川元〕　六五－八〇
自由論文コーナー
新しい世界秩序と第三システム－国際政治学の新しいパラダイムについて〔田中宏明〕　八二－九三

第一二九四号　一九九三年一月号
特集　転換期の外交戦略
巻頭言　中国の外交戦略のしたたかさ〔池井優〕　二－三
転換期における外交戦略〔地引嘉博〕　四－一七
「冷戦後」のアジア・太平洋と日本外交〔添谷芳秀〕　一八－三二
ロシア外交の基本路線とロシアのアジア政策〔中野潤三〕　三三－四四
一九九二年大統領選挙とアメリカ外交戦略のゆくえ〔高杉忠明〕　四五－五九
自由論文コーナー
条約共同体としての地域統合
－近世初期ヨーロッパの事例より〔ハラルド・クラインシュミット〕　六一－七五
エリヒュー・ルートと国際連盟（上）－二〇年代アメリカ孤立主義の一側面〔阿南東也〕　七六－八二

第一二九五号　一九九三年二月号
特集　北東アジアの新情勢
巻頭言　無視できない台湾の動向〔池井優〕　二－三

アジアの安全保障体制の枠組み〔納家政嗣〕　四－一九
北東アジアとの民間経済交流〔横尾賢一郎〕　二〇－三四
中国の対外政策とその周辺〔浅野亮〕　三五－四九
米国の冷戦後の東アジア戦略と米韓安全保障関係、一九九〇～九二年〔阪田恭代〕　五〇－六七
朝鮮問題多国間協議論の現在－「朝鮮化」の力学と同心円的関係の形成〔倉田秀也〕　六八－八二
自由論文コーナー
エリヒュー・ルートと国際連盟（下）－二〇年代アメリカ孤立主義の一側面〔阿南東也〕　八四－九三

第一二九六号　一九九三年三月号
特集　冷戦後における軍備管理
巻頭言　ワシントン体制の教訓〔池井優〕　二－三
現時点における安全保障、軍備管理の諸問題〔八重樫永規〕　四－一二
軍縮と国際連合〔高井晉〕　一三－二六
中国の武器輸出と現実主義外交〔村井友秀〕　二七－三五
中東の武器移転と政治の力学〔山下高明〕　三六－五〇
冷戦後の通常兵器の移転－年表編〔高塚年明〕　五一－六六
自由論文コーナー
米連邦議会と安全保障（上）－一九九一年度国防予算審議と湾岸危機と政策〔和田修一〕　六八－八二

第一二九七号　一九九三年四月号

特集　紛争解決に向けての国連の役割

巻頭言　満州事変と連盟、湾岸戦争と国連〔池井優〕　二－三
冷戦後の地域紛争解決と国連の役割〔森本敏〕　四－一七
紛争解決と平和維持における国連の新たな役割〔神余隆博〕　一八－三三
国連と地域的機構の関係〔庄司真理子〕　三四－五一
カンボジアにおけるＰＫＯ活動と日本〔清水潤〕　五二－七〇

自由論文コーナー

欧州政治統合と欧州連合条約－マーストリヒト欧州理事会を中心として〔松隈潤〕　七二－九一
米連邦議会と安全保障（下）－一九九一年度国防予算審議と湾岸危機と政策〔和田修一〕　九二－一〇三

第一二九八号　一九九三年五月号

特集　民族、宗教をめぐる政治課題

巻頭言　政治と宗教－ロシア正教の場合〔池井優〕　二－三
インドの宗教問題－ヒンドゥー至上主義の高揚と揺らぐ世俗主義〔沼畑光毅〕　四－一六
中東における民族・宗教問題－民族・原理主義・パレスチナを考える〔宮田律〕　一七－三三
旧ソビエト連邦の民族問題－独立国家共同体の行方〔高山英男〕　三四－四九
チェコ－スロヴァキア関係の過去、現在、未来－外交関係の始まりに際して〔佐藤雪野〕　五〇－六七

自由論文コーナー

日米財界人会議－一九七一～一九九一年〔増田弘〕　六九－九九

第一二九九号　一九九三年六月号

特集　低迷する世界経済と国際政治

巻頭言　不況と大学生〔池井優〕　二－三
ドイツ経済－欧州経済のエンジン？〔澤田マルガレーテ〕　四－一八
米国経済と対外経済政策〔横尾賢一郎〕　一九－三〇
ロシアの経済情勢と国際社会への影響〔杉本侃〕　三一－四五
変貌する国際経済と東アジアの地域協力
－座礁する「内向的経済圏」と展開する華人ネットワーク〔佐藤考一〕　四六－六四
「強含みの中東石油市場－対イラン協調石油外交に走る？サウジアラビア」〔植村和志〕　六五－七九

自由論文コーナー

先進国首脳会議の二つの「政治化」〔高瀬淳一〕　八一－九三

第一三〇〇号　一九九三年七・八月合併号

特集　ウルグァイ・ラウンドの行方

巻頭言　ケネディラウンド、東京ラウンド、ウルグアイラウンド〔池井優〕　二－三
ウルグワイ・ラウンドと日本〔松下満雄〕　四－一六
フランスを中心とするヨーロッパの立場〔舟木良恵〕　一七－三一

ウルグアイ・ラウンド交渉と米国の課題〔明田ゆかり〕　三三－四八
輸出、入国の均衡欠く農業交渉〔山地進〕　四九－六五

自由論文コーナー

イラク北東部におけるクルド難民問題〔落合雄彦〕　六六－八三
アメリカ政治史の中の一九九二年－「政治潮流サイクル論」の再検討〔阿南東也〕　八四－九七

第一三〇一号　一九九三年九月号

特集　「民主化」後の旧ソ連・東欧情勢

巻頭言　ロシアジョークが消えた〔池井優〕　二－三
ロシアの体制移行の現段階〔小泉直美〕　四－一八
変革後の東欧情勢〔地引嘉博〕　一九－三二
独ポ関係の新たな構築－オーデル＝ナイセ国境の確定をめぐって〔広瀬佳一〕　三三－四四
ユーゴスラヴィアの連邦解体－経過と現状〔石田信一〕　四五－五九

自由論文コーナー

米外交とグアムの政治的自立〔仲地清〕　六一－七五
パリ和平協定から総選挙迄のカンボジアの政治過程とＵＮＴＡＣ（一九九一～一九九三）
－地域紛争解決における国連の役割と限界〔土佐弘之〕　七六－一〇三

第一三〇二号　一九九三年一〇月号

特集　揺れるアジア・太平洋地域

巻頭言　日本のアジア・太平洋進出と歌謡曲〔池井優〕　二－三
アジア・太平洋の安全保障とその枠組み〔森本敏〕　四－二〇
中国の政治情勢〔渡辺英雄〕　二一－三一
モスクワと極東、アジア・太平洋－ロシアの対外政策路線の一考察〔小澤治子〕　三二－四七
冷戦終結後の朝鮮半島情勢〔武貞秀士〕　四八－五九
ＡＳＥＡＮ諸国における「脱権威主義」の展開
－タイとマレーシアの比較を中心に〔金子芳樹〕　六〇－七八

自由論文コーナー

日本人の対外イメージについての一考察〔鈴木晟〕　八〇－九三

第一三〇三号　一九九三年一一・一二月合併号

特集　クリントン政権の対外政策

巻頭言　モース・ターゲット－クリントン政権のブレイン達〔池井優〕　二－三
クリントン政権の対外援助政策－国際開発金融機関に対する政策を中心として〔古城佳子〕　四－一六
その二〇ヵ月後－問われるアメリカの役割〔関場誓子〕　一七－二五
クリントン政権の場当たり的な外交の原因を探る〔高松基之〕　二六－三七
東アジアにおけるアメリカ

－複雑なバランサーの役割を演じられるか？〔ラリー・ニクシュ（村田晃嗣訳）〕　三八－五二
クリントノミクスの背景と現状〔山崎好裕〕　五三－七一
自由論文コーナー
「民主化」後のブルガリア－権利と自由のための運動を中心に〔木村真〕　七三－八七

第一三〇四号　一九九四年一月号
特集　世紀末の「世界地図」
巻頭言「世界地図」の中の日本〔池井優〕　二－三
ポスト冷戦期における世界経済の行方－新しい政治と経済の秩序を求めて〔香川敏幸〕　四－一八
混迷の中の統一ドイツとヨーロッパ〔三輪晴啓〕　一九－三一
覇権と成長センターの間〔納家政嗣〕　三二－四七
アジア・太平洋地域の将来－地域レベルでの交流の視点から〔藤原直〕　四八－五六
国連と世界の安全保障－「平和強制」をめぐる問題と平和維持活動の今後〔岡垣知子〕　五七－七三
自由論文コーナー
アメリカの軍事介入に対する国際的制約の一考察
－ヴィエトナム戦争以降の文脈において〔宮坂直史〕　七五－八七

第一三〇五号　一九九四年二月号
特集　中東情勢の新段階

巻頭言　もうひとつのピンポン外交－イスラエルとパレスチナ〔池井優〕　二－三
中東和平のかぎ－シリア・イスラエル関係〔山下高明〕　四－一七
「原則宣言」とパレスチナ問題の展開〔宮田律〕　一八－三二
パレスチナ和平進展と中東石油情勢
－第四次石油危機は遠のいたのか（サウジは大丈夫か）〔植村和志〕　三三－四六
イスラム原理主義運動とアメリカの中東政策〔波多野裕造〕　四七－六二
中東の軍事化とその要因〔木村修三〕　六三－七三
イスラエル占領地域の国際法上の地位〔荒木教夫〕　七五－八九

第一三〇六号　一九九四年三月号

特集　岐路に立つ国連

巻頭言　国連改革案の変遷〔池井優〕　二－三
国連事務総長報告『平和への課題』の理論的検討〔渡部茂己〕　四－一六
国連とソマリア内戦－「平和執行部隊」構想の挫折〔則武輝幸〕　一七－四六
国連の対ハイチ政策に関する一考察〔二宮正人〕　四七－五九
旧ユーゴスラヴィアにおける国連の活動〔滝澤美佐子〕　六〇－七五
国際貢献に超党派外交を〔池田十吾〕　七七－八七

第一三〇七号　一九九四年四月号

特集　地域広域圏がめざすもの

巻頭言　地域的統合の難しさ〔池井優〕　二－三
欧州の再編成と北欧諸国－北欧・ＥＵ関係の新展開を中心として〔吉武信彦〕　四－二〇
ＮＡＦＴＡの紛争処理手続〔平覚〕　二一－三一
中南米における地域経済圏〔細野昭雄〕　三二－四六
ＡＰＥＣにおける韓国の対応〔郷田正萬〕　四七－五九
ＡＳＥＡＮ新展開の三局面－主体性・主導性の確保への試み〔玉木一徳〕　六〇－七〇

自由論文コーナー

戦中と戦後の間－カンボジアに於ける総選挙後の戦略〔村主道美〕　七二－九七

第一三〇八号　一九九四年五月号

特集　マーストリヒト条約以後のヨーロッパ

巻頭言　ＥＵはどこへ行く〔池井優〕　二－三
ヨーロッパの再興〔金子譲〕　四－一九
欧州市民権の確立と欧州連合の行方－ＥＵ域内居住地参政権の獲得をめぐって〔中曽根佐織〕　二〇－三三
旧東欧とＥＣ、ＮＡＴＯ－ハンガリー：民族問題の成長の中で〔羽場久浜子〕　三四－四九
マーストリヒト条約後のロシアの欧州外交－大欧州主義と大国主義の狭間で〔小泉直美〕　五〇－六三
冷戦の終焉と「中立」－変革期欧州におけるオーストリア外交〔蒲原正義・広瀬佳一〕　六四－七九

自由論文コーナー

ポール・ラインシュとトーマス・ベイティー一九一一年における接点〔篠原初枝〕　八一－九七

第一三〇九号　一九九四年六月号

特集　中国をめぐる国際関係

巻頭言　中国で留学ブームが去った〔池井優〕　二－三
中国の自信と不安－東アジアにおける超大国との重層的ネットワークの構築〔多賀秀敏〕　四－一七
中国共産党の戦争観と世界観〔村井友秀〕　一八－二五
クリントン政権の対中国経済政策と日本〔山崎好裕〕　二六－四二
中国の安全保障とアジア太平洋地域〔浅野亮〕　四三－五六
投稿　改革開放一五年と中国の社会変容－個人的観察〔林慧芳〕　五八－七三

自由論文コーナー

満洲国承認問題の一側面－満洲国の太平洋問題調査会参加問題をめぐって〔片桐庸夫〕　七四－八三

第一三一〇号　一九九四年七・八月合併号

特集　冷戦後の核問題

巻頭言　沖縄返還と核〔池井優〕　二－三
座談会「冷戦後の核問題」〔中根猛・小川伸一・森本敏〕　四－二三
ロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄〔天野之弥〕　二四－四二

冷戦後の北朝鮮の核開発問題〔武貞秀士〕　四三－五三
冷戦後における宇宙と核兵器の問題〔デイビット・ラドナー〕　五四－六四
旧ソ連諸国の核問題〔柳沢秀一〕　六五－七九
投稿　対米同盟と兵器開発－日英の戦闘機開発に見る教訓〔佐藤考一〕　八一－九一

自由論文コーナー

政治手段としての経済制裁－その目的と効用についての一考察〔石川恵美〕　九二－一一一

第一三一一号　一九九四年九月号

特集　ウルグアイ・ラウンドからＷＴＯへ

巻頭言　新東京ラウンドの可能性〔池井優〕　二－三
ウルグアイラウンドの政治過程〔鶴岡公二〕　四－一五
世界貿易機関（ＷＴＯ）と日本の通商政策〔松下満雄〕　一六－三七
ガット農業交渉の結果と展望〔山地進〕　三八－五六
新サービス貿易協定と自由貿易原則－最恵国待遇原則、内国民待遇原則、相互主義〔間宮勇〕　五七－七一

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（一）淵源－占領時代〔浅川公紀〕　七二－八六

自由論文コーナー

欧州における社会保障制度の見直し〔青木裕子〕　八八－一〇一

第一三一二号　一九九四年一〇月号

特集　ロシア問題再考

巻頭言　ロシア国民の考えていること〔池井優〕　二－三
帝国の崩壊－バルト三国のロシア人〔植田樹〕　四－一七
ロシアの対中ならびに対朝鮮半島政策と武器輸出、核拡散問題〔斎藤元秀〕　一八－三六
ウクライナの対ロ政策〔末沢恵美〕　三七－五一

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（二）サンフランシスコ講和を振り返る〔岩田修一郎〕　五二－六五

自由論文コーナー

冷戦後の世界をどう見るか－その一、国家中心的世界観〔加藤朗〕　六七－七九
民主体制と核問題－アルゼンチン・ブラジルの政策移行過程〔松下日奈子〕　八〇－九五

第一三一三号　一九九四年一一・一二月合併号

特集　ディレンマの中の日米関係

巻頭言　社会党の外交〔池井優〕　二－三
転換期の日米同盟関係〔マイケル・J・グリーン（川村晃一訳）〕　四－一四
クリントン政権の国家安全保障政策と対日政策〔高松基之〕　一五－二七
日米同盟と米韓同盟－比較の視座〔村田晃嗣〕　二八－四二
『無』のイデオロギー－日本人のアイデンティティー考〔玉本偉（秋本富雄訳）〕　四三－五八

連載投稿　戦後日米関係の軌跡
（三）「不平等」の構図－安全保障をめぐる日米関係〔波多野澄雄〕　五九－七三
自由論文コーナー
戦争報道に対する国際法的規制の史的展開〔斎藤洋〕　七五－九一

第一三一四号　一九九五年一月号
特集　「文明の衝突」と世界秩序
巻頭言　文明の衝突か調和か〔池井優〕　二－三
文明の衝突と国際秩序〔蠟山道雄〕　四－一九
「文明の衝突」か「文化の葛藤」か？〔鈴木董〕　二〇－二九
「文明の衝突」は新パラダイムか〔加藤朗〕　三〇－四一
歴史的中華帝国の拡大と縮小〔村井友秀〕　四二－五〇
多言語主義と言語ナショナリズム－EUと構成国の言語政策〔安江則子〕　五一－六三
寄稿
後退する米国の核抑止戦略と冷戦後の課題〔小河内敏朗〕　六四－七九
連載投稿　戦後日米関係の軌跡
（四）日米安全保障条約の改定〔池田十吾〕　八一－九五

第一三一五号　一九九五年二月号

特集　難民問題の展開とその対応

巻頭言　難民問題－日本の対応の難しさ〔池井優〕　二－三

Survival 誌特約　中国人国外流出の戦略的意味〔ポール・J・スミス（荒木教夫訳）〕　四－二五

難民問題解決への国連のアプローチに関する一考察〔二宮正人〕　二六－四一

アメリカの難民問題への対応－軍事力の「非伝統的行使」とその意義〔宮坂直史〕　四二－五六

投稿　ルワンダの春－多元化の挫折と平和維持活動の瓦解〔村主道美〕　五七－七二

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（五）再調整の時代－一九六〇年代〔大西貞雄〕　七四－八七

自由論文コーナー

信頼醸成措置に関する一考察〔吉高神明〕　八八－一〇七

第一三一六号　一九九五年三月号

特集　変動するアジア

巻頭言　脱亜論と大東合邦論〔池井優〕　二－三

「アジアの時代」を考える〔藤崎一郎〕　四－一三

東アジアの国際システムとＡＰＥＣ〔岩田修一郎〕　一四－二六

ポスト鄧小平時代の変動の可能性について〔石田収〕　二七－四一

ロシア（極東）と中国関係〔三井光夫〕　四二－五六

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（六）対米全面依存時代の終焉〔斎藤元秀〕　五七－七九

自由論文コーナー

建国前夜の米中交渉〔興梠一郎〕　八一－九九

第一三一七号　一九九五年四月号

特集　環境と開発

巻頭言　環境と開発を〝流行〟に終わらせてはならない〔池井優〕　二－三

ＵＮＣＥＤフォローアップのための国際制度〔信夫隆司〕　四－一七

国連気候変動枠組み条約成立過程－国際政策課題の設定と条約交渉の背景〔太田宏〕　一八－三五

地球的規模の開発問題〔杉山肇〕　三六－五四

ＥＣ環境政策の変遷－「ＥＣのなすべきこと」を求めて〔和達容子〕　五五－七一

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（七）一九八〇年代の防衛協力と通商摩擦〔樋口恒晴〕　七三－九一

自由論文コーナー

アメリカ議会・ＳＤＩ・ＩＮＦ条約－国内政治制度と外交政策〔伊藤剛〕　九二－一〇六

第一三一八号　一九九五年五月号

特集　ヨーロッパの行方

巻頭言　国境が消える－先取りしたサッカー界〔池井優〕　二－三
欧州議会の新しい機能〔藤川哲史〕　四－二一
欧州連合（EU）の対中・東欧政策の現状－第五次拡大に備えるEUの戦略〔小久保康之〕　二二－三六
欧州新秩序とフィンランド、スウェーデン－EU加盟と中立政策の変容〔吉武信彦〕　三七－四七
ノルウェーのEU加盟問題－加盟拒否の背景〔吉武真理〕　四八－六三

連載投稿　戦後日米関係の軌跡

（八）脱冷戦－戦日米摩擦の時代〔加藤朗〕　六五－七九

自由論文コーナー

東南アジアの安全保障と日本の貢献－ASEAN地域フォーラムの可能性〔佐藤孝一〕　八〇－九〇

第一三一九号　一九九五年六月号

特集　紛争解決へのプロセス

巻頭言　〝失言〟と外交的対応〔池井優〕　二－三
パレスチナ問題解決の政治的枠組み
－キャンプ・デービット合意とオスロ合意の視点〔石田訓夫〕　四－一四
エル・サルバドル紛争解決のプロセス－地域紛争解決モデル化の試み〔渡辺利夫〕　一五－三一
中米紛争解決へのプロセス〔狐崎知己〕　三二－四五
東ティモール問題解決へのアプローチ〔首藤もと子〕　四六－六〇
NATO域外問題としてのボスニア紛争〔吉崎知典〕　六一－七七

国連による紛争解決プロセスに関する一考察
－グルジア＝アブハジア紛争を事例として〔望月康恵〕　七八－九〇
連載投稿　戦後日米関係の軌跡
（最終回）将来－二一世紀の日米同盟〔花井等〕　九二－一〇六

第一三二〇号　一九九五年七・八月合併号
特集　世界大戦終結五〇年
巻頭言　戦後五〇年－戦勝記念とロシア〔池井優〕　二－三
没落から再生へ－ヨーロッパの戦後五〇年〔石井修〕　四－一四
中欧の戦後処理〔広瀬佳一〕　一五－二七
「朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ」－「国体護持」とポツダム宣言〔波多野澄雄〕　二八－四三
大東亜戦争と支那事変〔戸部良一〕　四四－五八
日米開戦－政治心理学的視角からの一考察〔塚原光良〕　五九－七〇
自由論文コーナー
ソ連邦崩壊と北方領土問題の多元化〔兵頭慎治〕　七二－八五

第一三二一号　一九九五年九月号
特集　戦後世界経済システムの曲がり角
巻頭言　社会主義市場経済の弊害〔池井優〕　二－三

漂流する先進国経済と国際経済システムの構築〔塚本俊造〕　四－二六
戦後国際経済体制の変容と『埋め込まれた自由主義』〔古城佳子〕　二七－三七
戦後国際経済とアメリカ対外経済政策の転換〔山崎好裕〕　三八－四九
ＥＵ通貨統合
－冷戦構造あるいは米ソ覇権構造の生成と崩壊がもたらしたインパクト〔藤原洋二〕　五〇－六三
円の国際化と対日直接投資〔経団連国際経済部　円高研究会〕　六四－七四

自由論文コーナー

冷戦後の世界をどう見るか－その二、多元的世界観〔加藤朗〕　七六－八八

第一三二二号　一九九五年一〇月号

特集　カオス的状況への対応

巻頭言　海外誘拐事件と日本の危機管理〔池井優〕　二－三
五ヵ国防衛取極の今日的意義〔佐島直子〕　四－三一
変りゆく役割－東アジアの安全保障における中国と米国〔呉心伯（芹澤清訳）〕　三二－六〇
ペルシャ湾の覇者めざすイラン〔山下高明〕　六一－七七
欧州軍団　その形成過程と展望
－ポスト冷戦のヨーロッパ防衛をめぐる論議を中心に〔成澤宗男〕　七九－九五
問われる日本の危機管理－防災行政を中心にして〔川野秀之〕　九六－一〇七

第一三二三号　一九九五年一一・一二月合併号

特集　アメリカとアジアとの関係

巻頭言　アメリカとアジア－門戸開放宣言からニクソンドクトリンまで〔池井優〕　二－三
冷戦後の日米安保条約体制とその再定義〔高杉忠明〕　四－一五
米国と朝鮮半島－変化と持続〔武貞秀士〕　一六－二七
米中関係と中国の内政〔浅野亮〕　二八－四三
米越関係正常化の戦略的意味－歴史的考察〔小笠原高雪〕　四四－五六
アメリカ合衆国のアジア太平洋政策とＡＳＥＡＮ－会議外交をめぐる摩擦と共存〔佐藤考一〕　五七－七四
冷戦後の米・インド関係〔サトゥ・リメイエ（佐藤治子訳）〕　七五－八五

第一三二四号　一九九六年一月号

特集　ポスト・戦後五〇年の世界的課題

巻頭言　日米安保は必要か－ジョンソン・ナイ論争〔池井優〕　二－三
中東欧に対する経済技術協力〔地引嘉博〕　四－一八
冷戦後の国際経済支援の枠組み－共有価値と日本の貢献〔稲田十一〕　一九－三一
ポスト・戦後五〇年の世界的課題－多元的世界をめざして〔加藤朗〕　三二－四七
冷戦後の国際関係とポスト・「戦後」五〇年の世界的課題〔太田宏〕　四八－六五
第九条と平和維持活動－柔軟解釈の限界〔石河まさみ（秋本富雄訳）〕　六六－七九

自由論文コーナー

第一次世界大戦後のイギリスの軍備政策についての一考察〔堀内直哉〕　八一－九六

第一三二五号　一九九六年二月号

特集　多角間関係の諸相

巻頭言　多角的関係を摸索する台湾〔池井優〕　二－三
国際秩序の変容と多角間関係の展開－ヨーロッパの安全保障問題を中心に〔金子譲〕　四－一九
ＥＵ統合の裏と表〔青木裕子〕　二〇－三四
バルト三国を中心とする地域協力〔志摩園子〕　三五－四五
図們江地域開発計画の推移と東北アジアの地域間関係〔櫛谷圭司〕　四六－五七

自由論文コーナー

「一九四〇年体制」とリーダーシップ－「昭和」再考〔黒沢文貴〕　五八－七九
アメリカ外交におけるＳＥＡＴＯ設立の意義〔佐藤真千子〕　八〇－一〇四

第一三二六号　一九九六年三月号

特集　東アジアにおける「暗雲」

巻頭言　中国、北朝鮮は東アジアの暗雲か〔池井優〕　二－三
東アジアの武器移転〔村井友秀〕　四－一四
中国の軍事近代化とその波紋－「中国脅威論」の意味するもの〔阿部純一〕　一五－三四
中国経済の実相－中国は東アジアの『暗雲』となるか〔青山周〕　三五－五〇

中国大国化の世界史的意味と日本外交〔添谷芳秀〕　五一－五九
日米韓安全保障関係の問題点〔村田晃嗣〕　六〇－六八

自由論文コーナー

ＡＳＥＡＮをめぐる地域経済秩序形成の新展開〔金子芳樹〕　七〇－九三

第一三二七号　一九九六年四月号

特集　問われる国連の「器量」

巻頭言　日本の国連イメージ〔池井優〕　二－三
武力の行使と国連ＰＫＯ〔高井晉〕　四－一七
米国の国連政策－そのレトリックと行動〔星野俊也〕　一八－三〇
安全保障理事会特設法廷の基本理念と戦犯裁判の実状〔小長谷和高〕　三一－四五
人道的救援と国連〔庄司真理子〕　四六－六一
ゆらぐ公海漁業の自由－「公海漁業実施協定」までの道程とその評価〔都留康子〕　六三－八三
中絶問題と米中関係－国連人口基金をめぐる政治過程〔東郷育子〕　八四－一〇二

第一三二八号　一九九六年五月号

特集　旧共産圏のその後

巻頭言　ガラスの金メダル〔池井優〕　二－三
八九年変革後のバルカン情勢〔地引嘉博〕　四－一七

ロシアのＣＩＳ統合政策〔松井弘明〕　一八－二九
中央アジア独立共和国と言語問題〔野田岳人〕　三〇－四二
どこまで進んだ「移行」過程－ポーランドの場合〔水谷驍〕　四三－五七
チェコとスロヴァキアの現状－ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）〔佐藤雪野〕　五八－六九

自由論文コーナー

劉少奇と毛沢東（上）－劉の対毛「独立性」に関する初歩的検討〔諏訪一幸〕　七一－八五
一九九五年における米国エネルギー省（ＤＯＥ）廃止問題の動向〔佐藤竜太〕　八六－一〇一

第一三二九号　一九九六年六月号

特集　自由化の嵐と国民経済の寿命

巻頭言　インド総選挙の教訓－経済改革の重いひずみ〔池井優〕　二－三
国民経済は消滅するのか－理論と政策のあいだ〔山崎好裕〕　四－一八
クリントン政権における対外経済政策の変容－「自由化志向性重商主義」〔飯倉章〕　一九－三七
世界から取り残される日本の金融産業〔糸瀬茂〕　三八－五〇
日本経済システムの転換とそのインプリケーション
－日米経済関係を中心として〔横尾賢一郎〕　五一－六三
グローバル化の進展とＥＵ統合発展過程〔酒井博司・青木裕子〕　六五－八二

自由論文コーナー

劉少奇と毛沢東（下）－劉の対毛「独立性」に関する初歩的検討〔諏訪一幸〕　八三－一一一

第一三三〇号　一九九六年七・八月合併号

特集　冷戦後の軍事力問題

巻頭言　軍事と安全保障教育の必要性〔池井優〕　二－三
冷戦後の軍事力－試論〔今井隆吉〕　四－二一
湾岸戦争後の中東軍事情勢と核拡散〔山下高明〕　二二－三七
クリントン政権の平和活動－軽武器拡散と武装解除〔宮坂直史〕　三八－五五
防衛計画大綱と冷戦後の防衛力整備〔櫻井敏雄〕　五六－六八

自由論文コーナー

集団的自衛権に関する政府解釈の形成と展開（上）サンフランシスコ講和から湾岸戦争まで〔阪口規純〕　七〇－九八

第一三三一号　一九九六年九月号

特集　WTOの実情と展望

巻頭言　WTOは中国を加盟させるべきか〔池井優〕　二－三
WTOの現状と課題〔松下満雄〕　四－一五
WTOの本格始動と米国の通商政策〔坂本俊造〕　一六－三四
EUの通商戦略とWTOへの対応〔臼井陽一郎〕　三五－五〇
ASEANの通商戦略と地域秩序構想
－相互に補完するリージョナリズムとグローバリズム〔菊池努〕　五一－六六

中国・台湾のWTO加盟について〔青山周〕　六八－七八

自由論文コーナー

集団的自衛権に関する政府解釈の形成と展開（下）サンフランシスコ講和から湾岸戦争まで〔阪口規純〕　七九－九九

第一三三二号　一九九六年一〇月号

特集　情報から見た国際関係

巻頭言　情報でも勝った日露戦争・情報でも負けた日ソ国交回復交渉〔池井優〕　二－三

情報化と世界経済のヘゲモニー〔佐々木實雄〕　四－一四

発展するアジアのテレビ・コミュニケーション

－その状況と（日本からみた）問題点〔川竹和夫〕　一五－二九

国際的武力紛争における取材の自由と国際法

－the right of access の適用可能性を中心として〔斎藤洋〕　三〇－四一

インターネットによる情報の流通と国際法の課題

－とくにわいせつ情報規制について〔一戸信哉〕　四二－五五

海外人質事件とアメリカ国内政治－テロリズムの比較研究に向けて〔宮坂直史〕　五六－七七

二十一世紀を迎える日本の対外政策－総括と展望〔V・キスターノフ（大崎平八郎監訳）〕　七九－九九

第一三三号　一九九六年一一・一二月合併号

特集　世界の流動化と制度化

巻頭言　存続するＮＡＴＯ、解体したＳＥＡＴＯ〔池井優〕　二－三
インドのＣＴＢＴ拒否と南アジアの軍事環境〔山下高明〕　四－一八
ネタニヤフ政権誕生後の中東の「不安定」諸要因の分析〔宮田律〕　一九－三三
返還過渡期香港の政治変動〔石川恵美〕　三四－四九
何故、協定は結ばれたか？－豪州・インドネシア安保協定成立までの軌跡〔佐島直子〕　五〇－七八
ＥＵ政府間会議と欧州人権条約加入問題－欧州司法裁判所意見の意義〔庄司克宏〕　八〇－九二
欧州兵器協力における制度化と流動化〔臼井実稲子〕　九三－一〇一

第一三四号　一九九七年一月号

特集　二十一世紀に向けてのコモン・アジェンダ

巻頭言　十九世紀、二十世紀、そして二十一世紀〔池井優〕　二－三
世界共通の政策課題としてのグローバルな問題〔太田宏〕　四－二四
冷戦後の国連の平和維持活動と今後の問題点
－内戦終了後の国内改革・軍縮と戦闘員の社会復帰〔打村晋三〕　二五－三五
地球温暖化－その科学、経済および政治〔細野豊樹〕　三六－五〇
情報化時代の国際世論〔林法隆〕　五一－六二
アジアの経済成長が生む危機－世界の食糧・人口問題と中国〔駒形哲哉〕　六四－八一

世紀末における国際政治理論の状況〔石川卓〕　八二－九七

第一三三五号　一九九七年二月号

特集　一九九六年大統領選挙後のアメリカ

巻頭言『「NO」と言える中国』『「NO」と言える日本』とアメリカ〔池井優〕　二－三
二十一世紀のコモン・アジェンダ〔鶴岡公二〕　四－一二
クリントン外交四年間の足跡と展望〔関場誓子〕　一三－二二
アメリカの中国政策を展望する〔湯浅成大〕　二三－三四
米韓同盟の摩擦－一九六八年と一九九六年〔村田晃嗣〕　三五－四一
クリントノミクスの成果と課題〔山崎好裕〕　四二－六〇

自由論文コーナー

日露戦争中の露仏諜報協力－対日情報収集をめぐって〔稲葉千晴〕　六二－八三

第一三三六号　一九九七年三月号

特集　国際機関の光と影

巻頭言　日本国際連盟協会－その光と影〔池井優〕　二－三
安全保障概念の変化と現代PKO〔高井晉〕　四－一八
地球環境保全のための資金提供制度
－Global Environment Facility（GEF）を中心として〔信夫隆司〕　一九－三八

核兵器による威嚇または核兵器の使用の合法性に関する
国際司法裁判所の勧告的意見〔則武輝幸〕　三九－五五
欧州統合の加速化と国際統合理論〔若林広〕　五六－六九
冷戦期国際人権レジームと国家の相克－ＣＳＣＥプロセスとフランス外交〔宮脇昇〕　七〇－八七
自由論文コーナー
「田中外交」への一視角〔冨田圭一郎〕　八九－一〇二

第一三三七号　一九九七年四月号
特集　自由化の流れとラテン・アメリカ
巻頭言　ラテンアメリカに明るい希望が持てるか〔池井優〕　二－三
経済的自由主義と政治的民主主義の共存？－世紀末ラテンアメリカの一断面
－チリとアルゼンチンの事例をてがかりとして〔松下洋〕　四－一八
中南米における地域統合〔細野昭雄〕　一九－三八
セディージョ政権とメキシコ政治・経済の現状〔岸川毅〕　三九－五〇
第二次フジモリ政権の政治的課題〔村上勇介〕　五一－六六
中米諸国における紛争安定と新自由主義的経済政策
－エル・サルヴァドル、ニカラグアの事例を中心に〔櫻井真由美〕　六七－八一
自由論文コーナー
「親英米派」の国際関係観－西園寺公望と阪谷芳郎、吉田茂をつうじて〔小池聖一〕　八三－九三

第一三三八号　一九九七年五月号

特集　ロシアをめぐる諸情勢

巻頭言　絶望的なロシア経済〔池井優〕　二－三
ロシアの内政－大統領府とチュバイス〔角田安正〕　四－一六
ロシア連邦構成主体の対外関係－現状と展望〔坂口賀朗〕　一七－三〇
ロシアとバルカン諸国〔地引嘉博〕　三一－四四
冷戦崩壊期米国のソ連・ロシア金融支援から見たＧ７政策〔吉村勝彦〕　四五－五九
バルト三国の地域協力と外交政策－対ＥＵ及び対ロシアの関係から〔志摩園子〕　六〇－七三

自由論文コーナー

ＡＳＥＡＮの三〇年－会議外交を中心とする一つの解釈〔佐藤考一〕　七五－九七

第一三三九号　一九九七年六月号

特集　香港返還後の東アジア

巻頭言　香港返還後の東アジアの安全保障－台湾の見方〔池井優〕　二－三
日本外交と中国〔宮本雄二〕　四－一三
中台関係－逆境に立つ台湾の「現実外交」〔阿部純一〕　一四－三〇
九〇年代日中関係の展望〔中居良文〕　三一－四八
返還後香港の未来像〔石川恵美〕　四九－六一
中国における少数民族問題の行方－新疆ウイグル自治区を中心に〔柴田孝〕　六三－七五

変わる中国、変わらない中国〔青山周〕　七六－八七

第一三四〇号　一九九七年七・八月合併号

特集　安全保障の新しい展開

巻頭言　中国の考える安全保障－台湾の見方〔池井優〕　二－三
求められる新たな安全保障観〔加藤朗〕　四－一七
日本および朝鮮半島の非核地帯化〔小川伸一〕　一八－三三
武器輸出三原則－その背景と課題〔相原三起子〕　三四－五一
脱冷戦期における米国軍事の情報革命－国防情報基盤整備とその政策決定過程〔山本元〕　五二－六七
ヨーロッパは新たな世紀の安全保障モデルとなるか
－相互不信と規範構築をつなぐＯＳＣＥプロセス〔坪内淳〕　六九－八六

自由論文コーナー

戦後初期におけるイギリスの核政策－アトリー労働党政権と原子力国際管理〔永野隆行〕　八七－一〇一

第一三四一号　一九九七年九月号

特集　国際協力のレジーム形成

巻頭言　国際協力学科創設－常磐大学の試み〔池井優〕　二－三
グローバル・ガバナンス論について〔大芝亮〕　四－一二
ワシントン・コンセンサスvs.日本型アプローチ

―国際開発のパラダイム論争と日本の知的貢献〔稲田十一〕　一三―二九
世界銀行の体制移行〔武内憲治〕　三〇―四四
NGOのガバナンス
―UNCED・CSDプロセスにおけるNGOのネットワーク形成〔毛利聡子〕　四五―六〇
地球温暖化問題をめぐる多国間協力―レジーム形成の視角からの考察〔横田匡紀〕　六一―八〇

自由論文コーナー

ボスニア平和履行軍派遣決定とアメリカ議会（上）
―ポスト冷戦期アメリカの対外政策決定過程の諸問題〔阿南東也〕　八二―一〇五

第一三四二号　一九九七年一〇月号

特集　カンボジア情勢の読み方

巻頭言　カンボジア和平と日本外交〔池井優〕　二―三
カンボジア「政変」の分析視角―権力闘争と国際力学〔竹田いさみ〕　四―一六
カンボジア「政変」の背景と原因〔鶴田亀良〕　一七―三四
政治的緊張が続くカンボジア情勢〔山岡邦彦〕　三五―四六
カンボジア国際法廷―その可能性と問題点〔坂口智〕　四七―六一

自由論文コーナー

サンフランシスコ講和条約と領土問題（上）―条約の完成から調印まで〔梶浦篤〕　六三―七一
一九五〇年代前半における東南アジア国際関係とイギリスの関与〔永野隆行〕　七二―九三

第一三四三号　一九九七年一一・一二月合併号

特集　エネルギー、環境、そして国際政治

巻頭言　文化遺産・自然遺産の保護〔池井優〕　二－三
地球温暖化をめぐる国際政治経済－「国連気候変動枠組み条約」議定書交渉の背景〔太田宏〕　四－三三
アジア・エネルギー拡大協力の諸課題－ロシア参入の課題〔末次克彦〕　三四－五〇
EUにおける地球温暖化対策〔中島正人〕　五一－六三
湾岸戦争後の中東石油情勢－サウジアラビアは大丈夫か〔植村和志〕　六四－八四

自由論文コーナー

ボスニア平和履行軍派遣決定とアメリカ議会（下）
－ポスト冷戦期アメリカの対外政策決定過程の諸問題〔阿南東也〕　八五－九七
サンフランシスコ講和条約と領土問題（下）－条約の完成から調印まで〔梶浦篤〕　九九－一〇八
ジョン・アリソンと日本再軍備－一九五二～一九五三年〔池田慎太郎〕　一〇九－一二五

第一三四四号　一九九八年一月号

特集　アジア時代の到来!?

巻頭言　日本はアジアの反面教師か〔池井優〕　二－三
アジアの安全保障と日中関係〔村井友秀〕　四－一九
これからの朝鮮半島はどうなるか〔武貞秀士〕　二〇－三二
アジア経済の潮流〔青山周・太田誠〕　三三－四七

中東とアジア－ユーラシアを跨ぐ実利主義による協調〔宮田律〕　四八－六一
東南アジアにおける国民の多元化と開発体制の動揺〔金子芳樹〕　六二－七五
歴史の流れで見る二十一世紀のアジア〔前田正裕〕　七六－九〇

自由論文コーナー

東アジアにおける信頼醸成措置－日本の防衛交流・安保対話に関する一考察〔塚本勝也〕　九二－一〇五

第一三四五号　一九九八年二月号

特集　近・現代の日本外交と世界〔創刊一〇〇周年記念号〕

巻頭言『外交時報』一〇〇年〔池井優〕　二－三
座談会「現代の世界情勢」
〔蠟山道雄・孫崎享・猪口孝・山本武彦・竹田いさみ・山岡邦彦・五味俊樹〕　四－四一
戦前期日本外交の論点－第一次世界大戦期まで〔大畑篤四郎〕　四二－五四
両大戦間期の体制変動と日本外交〔黒沢文貴〕　五五－六六
「負の遺産」の克服－戦争の伝承ということ〔波多野澄雄〕　六七－七七
戦後日本外交五二年の軌跡〔添谷芳秀〕　七九－九三

自由論文コーナー

災害時の国際緊急援助受入における日本の外交態度－関東大震災の場合〔飯森明子〕　九四－一一四

第一三四六号　一九九八年三月号

特集　ＥＵを通じてのヨーロッパ

巻頭言　期待される欧州通貨ユーロ〔池井優〕　二－三
アムステルダム条約とＥＵの多段階統合－「緊密化協力」（柔軟性）条項の意義〔庄司克宏〕　四－一七
ＥＵの東方拡大と「アジェンダ二〇〇〇」〔小久保康之〕　一八－三三
ＮＡＴＯの東方拡大－新しい、ダイナミックな「可変翼」ＮＡＴＯへ〔小林正英〕　三四－五〇
中・東欧諸国の経済体制移行〔東野篤子〕　五一－六七
ＥＵ通貨統合のマクロ経済的限界〔藤原洋二〕　六八－七八

自由論文コーナー

カナダ外交における「機能主義」再考－国際環境と国家の自立性の観点から〔岡垣知子〕　八〇－一〇二

第一三四七号　一九九八年四月号

特集　「ニューガイドライン」とアジア

巻頭言　ガイドラインとアジア諸国〔池井優〕　二－三
新ガイドラインと日本の立場〔山岡邦彦〕　四－一五
ガイドライン前後の日米関係と中国〔関場誓子〕　一六－二九
東アジアの安全保障秩序をめぐる日米中関係
－日米「新ガイドライン」と中国の対応〔阿部純一〕　三〇－四六
日米安全保障関係における〈朝鮮半島要因〉－新ガイド・ラインの策定によせて〔村田晃嗣〕　四七－六二

新ガイド・ラインとアジア諸国〔鶴田亀良〕　六三－八〇
自由論文コーナー
ミッテラン仏政権下の核政策〔久迩良子〕　八二－九五

第一三四八号　一九九八年五月号
特集　変わるロシア・変わらぬロシア
巻頭言　変わるロシア・変わらないロシア－ロシアジョークから〔池井優〕　二－三
日本に接近するロシア〔斎藤元秀〕　四－一九
ロフリン・ロシア国家院国防委員長と「軍擁護運動」〔角田安正〕　二〇－三三
クリミアの分離主義運動〔末澤恵美〕　三四－四八
ロシア国家のオリエンテーションとアジア太平洋〔中野潤三〕　四九－五九
日ロ経済関係の過去、現在、未来－民間経済交流からの一考察〔横尾賢一郎〕　六一－七五
自由論文コーナー
第一次世界大戦が育んだＥＵの源流〔染木布充〕　七六－九三

第一三四九号　一九九八年六月号
特集　トランスガバメンタリズムの視点
巻頭言　ボーダーレス時代の犯罪とその対応〔池井優〕　二－三
国際テロリズムとトランス・ガバメンタリズム〔宮坂直史〕　四－二〇

刑事司法分野における国家の協調－国際的実施方式のもう一つの試み〔滝澤美佐子〕　二一－三九
ルワンダ国際刑事裁判所－管轄権に関する若干の考察〔小長谷和高〕　四〇－五六
ＩＭＦの今日的機能と問題点〔古城佳子〕　五七－六八
アジア通貨・金融危機と国際政策協調〔伊藤さゆり〕　七〇－八三
自由論文コーナー
新しい日韓漁業協定の締結に向けて－国際海洋法の枠組みの変化〔武山眞行〕　八四－九五

第一三五〇号　一九九八年七・八月合併号
特集　ユーラシアをめぐる地政戦略
巻頭言　地政学上のユーラシア〔池井優〕　二－三
ユーラシア戦略外交と基層構造〔納家政嗣〕　四－一九
旧ソ連・イスラム系諸国の可能性－「広域中東圏」からの分析視点〔宮田律〕　二〇－三四
中国の西方進出と中央アジア〔村井友秀〕　三五－四五
アメリカのグランドデザインとＮＡＴＯ拡大問題
－「ユーラシア・チェスボード論」を手がかりに〔阿南東也〕　四六－六四
冷戦後の国際秩序とユーラシアを巡る地政戦略－米国のＮＡＴＯ拡大政策を中心に〔金子譲〕　六六－八一
自由論文コーナー
知的所有権分野における米国の戦略とスペシャル三〇一条
－対ブラジル経済制裁事例を中心に〔松本光浩・子安昭子〕　八二－九七

第一三五一号　一九九八年九月号

特集　ＯＤＡ、環境、そして人権

巻頭言　ＯＤＡ、環境、人権－中国の場合〔池井優〕　二－三
民主化への介入？－「ガバナンス」についての国際的議論と日本の対応〔稲田十一〕　四－一七
現場から見たＯＤＡ評価〔山本愛一郎〕　一八－二九
現代アメリカのＯＤＡ政策－変容と現状〔滝田賢治〕　三〇－四六
グローバル・ガヴァナンス論の過去と「現在」
－国際機構、国際レジームそしてグローバル・ガヴァナンス〔太田宏〕　四七－六〇

自由論文コーナー

日米開戦の国際政治理論－現代の国際関係に問いかけるもの〔野口和彦〕　六二－七九
国際関係論における三つの伝統－英米の国際政治理論の現在〔鈴木陽一〕　八一－九六
休刊措置へのお詫びと発行人への感謝〔五味俊樹〕　九七－九七